平成元年度発掘調査概報

茨木市教育委員会

はしがき

大都市周辺では、人口集中と土地高騰により住宅不足が、深刻なものになってきております。本市もその例外ではなく、市域全体で住宅と関連施設の開発整備が進んでおります。

しかし、住宅の開発整備は早急に実施されねばならないものでありますが、乱開発ではなく、私たちの子孫にも誇れる住みよい環境がともなう開発でなければならないと思います。

日本でも有数の弥生時代の大遺跡である東奈良遺跡および中条小学校遺跡地域は、とくに交通基盤整備がすすんでいるうえに土地にもゆとりがあるため、将来を見越しての中・高層マンションの建設ラッシュ状況下にあります。貴重な文化遺産が近年にない早さで消えつつあるこの時期だからこそ、開発と環境保護との調和とともに文化財の保存・保護にも十分考慮しなおさなければならないと思います。

今回発掘調査の概要を報告いたしますのは、昭和63年・平成元年度に実施した調査のうち、東奈良遺跡6か所、中条小学校遺跡1か所の計7か所について合冊したものであります。

結びになりましたが、調査にご協力いただきました関係各位をはじめ、調査に参加された方々に深く感謝するとともに、今後の調査につきましてもご理解・ご協力たまわりますようお願い申しあげ、はしがきといたします。

平成2年3月

茨木市教育委員会

教育長 村山和一

例　　言

1　本概報は、東奈良遺跡・中条小学校遺跡における昭和63年６月から平成元年６月までの発掘調査結果の概要をとりまとめたものである。

なお、平成元年度発掘調査の中でも、長ヶ淵古墳群・東奈良遺跡(89－４)H・ＮＩ－５－Ａ地区の調査報告は来年度に報告する予定である。

2　発掘調査は、東奈良遺跡89－１を茨木市教育委員会社会教育課主査奥井哲秀、その他を茨木市教育委員会事務局文化財調査員(嘱託)井上直樹が担当して実施し、外業調査員中東正之氏の協力を得た。

整理作業は、平成元年４月から平成２年３月まで実施した。発掘調査と整理作業には、中東正之、大戸井浩一郎、神保忠宏、難波武史、藤田昌宏、林和博、桑原紀子、大戸井和江、田中良子、早川博子、峯松皓代、森木芳子、西坂泰子諸氏の協力を受けた。

3　発掘調査を実施するにあたっては、北浦綾夫、人羅昭夫、㈱若栄商事、㈱長谷工コーポレーション、田畑謙三、山田ハル、㈱関西電力の各位にご協力いただいたことに感謝いたします。

4　本概報の執筆は、本文を各担当者が、遺物実測を西坂・井上、遺物写真を井上が担当して行った。

5　東奈良遺跡の地区割りは、昭和47年設定のものを使用している。また、標高はＴ・Ｐ(東京湾標準高)を使用している。

本　文　目　次

はしがき
例　　言
Ⅰ　東奈良遺跡(88－5)H・N　H－4－E・F地区
1．調査経過……1
2．層位……1
3．遺構……1
4．遺物……3
5．結語……5
Ⅱ　東奈良遺跡(88－6)H・N　H－4－M・N地区
1．調査経過……10
2．層位……10
3．遺構……10
4．遺物……13
5．結語……16
Ⅲ　東奈良遺跡(88－8)H・N　G－2－K・O地区
1．調査経過……26
2．層位……26
3．遺構……26
4．遺物……29
5．結語……29
Ⅳ　東奈良遺跡(88－9)H・N　K－1－A・B・E地区
1．調査経過……31
2．層位……31
3．遺構……31
4．遺物……32
5．結語……32
Ⅴ　東奈良遺跡(88－10)H・N　H－4－A・B地区
1．調査経過……34
2．層位……34
3．遺構……34
4．遺物……37

5．結語…… 38

Ⅵ　中条小学校遺跡(89－１)

1．調査経過…… 45

2．層位…… 45

3．遺構…… 45

4．遺物…… 47

5．結語…… 48

Ⅶ　東奈良遺跡(89－１)H・N　C－３－K・G地区

1．調査経過…… 51

2．層位…… 51

3．遺構…… 51

4．遺物…… 53

5．結語…… 53

図　版　目　次

図版１　(上)東奈良遺跡(88－5)H・N　H－４－E・F地区　全景(東より)

(下)東奈良遺跡(88－5)H・N　H－４－E・F地区　全景(南より)

図版２　(上)東奈良遺跡(88－6)H・N　H－４－M・N地区　東半(南より)

(下)東奈良遺跡(88－6)H・N　H－４－M・N地区　溝－１(北より)

図版３　(上)東奈良遺跡(88－6)H・N　H－４－M・N地区　溝－３

(下)東奈良遺跡(88－6)H・N　H－４－M・N地区　土壙－９

図版４　(上)東奈良遺跡(88－8)H・N　G－２－K・O地区　南半(南より)

(下)東奈良遺跡(88－8)H・N　G－２－K・O地区　北半(北より)

図版５　(上)東奈良遺跡(88－9)H・N　K－１－A・B・E地区　北半(西より)

(下)東奈良遺跡(88－9)H・N　K－１－A・B・E地区　南半(北より)

図版６　(上)東奈良遺跡(88－10)H・N　H－４－A・B地区第Ⅰ遺構面(東より)

(下)東奈良遺跡(88－10)H・N　H－４－A・B地区第Ⅰ遺構面掘立柱建物跡

図版７　(上)東奈良遺跡(88－10)H・N　H－４－A・B地区第Ⅰ遺構面土壙Ⅰ－１

(下)東奈良遺跡(88－10)H・N　H－４－A・B地区第Ⅱ遺構面全景(北より)

図版８　(上)中条小学校遺跡(89－１)東半(西より)

(下)中条小学校遺跡(89－１)西半(北より)

図版９　(上)東奈良遺跡(89－1)H・N　C－３－K・G地区　全景(南より)

(下)東奈良遺跡(89－1)H・N　C－３－K・G地区　木棺－Ⅰ

図版10　東奈良遺跡(88－５)H・N　H－４－E・F地区出土の土器
図版11　東奈良遺跡(88－５)H・N　H－４－E・F地区出土の土器
図版12　東奈良遺跡(88－５)H・N　H－４－E・F地区出土の土器
図版13　東奈良遺跡(88－５)H・N　H－４－E・F地区出土の土器・石器・土製品
図版14　東奈良遺跡(88－６)H・N　H－４－M・N地区出土の土器
図版15　東奈良遺跡(88－６)H・N　H－４－M・N地区出土の土器
図版16　東奈良遺跡(88－６)H・N　H－４－M・N地区出土の土器
図版17　東奈良遺跡(88－６)H・N　H－４－M・N地区出土の土器
図版18　東奈良遺跡(88－６)H・N　H－４－M・N地区出土の土器
図版19　東奈良遺跡(88－６)H・N　H－４－M・N地区出土の土器
図版20　東奈良遺跡(88－６)H・N　H－４－M・N地区出土の土器
図版21　東奈良遺跡(88－６)H・N　H－４－M・N地区出土の土器
図版22　東奈良遺跡(88－６)H・N　H－４－M・N地区出土の土器・石器・鉄器
図版23　東奈良遺跡(88－10)H・N　H－４－A・B地区出土の土器
図版24　東奈良遺跡(88－10)H・N　H－４－A・B地区出土の土器
図版25　東奈良遺跡(88－10)H・N　H－４－A・B地区出土の土器
図版26　東奈良遺跡(88－10)H・N　H－４－A・B地区出土の土器
図版27　東奈良遺跡(88－10)H・N　H－４－A・B地区出土の土器
図版28　中条小学校遺跡(89－１)　出土の土器
図版29　中条小学校遺跡(89－１)　出土の土器
図版30　中条小学校遺跡(89－１)　出土の土器
図版31　東奈良遺跡(89－１)H・N　C－３－K－G地区出土の土器
図版32　東奈良遺跡(89－１)H・N　C－３－K－G地区出土の土器
図版33　茨木市の遺跡
図版34　各調査地区位置図
図版35・36　東奈良遺跡(88－５)　H・N　H－４－E・F地区
図版37・38　東奈良遺跡(88－６)　H・N　H－４－M・N地区
図版39　東奈良遺跡(88－６)　H・N　H－４－M・N地区溝－３、土器溜り１
図版40　東奈良遺跡(88－６)　H・N　H－４－M・N地区土壙－７・９、甕棺墓
図版41　東奈良遺跡(88－８)　H・N　G－２－K・O地区
図版42　中条小学校遺跡(89－１)
図版43・44　東奈良遺跡(88－９)H・N　K－１－A・B・E地区
図版45・46　東奈良遺跡(88－10)H・N　H－４－A・B地区第Ⅰ遺構面
図版47・48　東奈良遺跡(88－10)H・N　H－４－A・B地区第Ⅱ遺構面
図版49・50　東奈良遺跡(89－１)H・N　C－３－K・G地区

図版51　東奈良遺跡(88－５)H・N　H－４－E・F地区出土の土器
図版52　東奈良遺跡(88－５)H・N　H－４－E・F地区出土の土器
図版53　東奈良遺跡(88－５)H・N　H－４－E・F地区出土の土器
図版54　東奈良遺跡(88－５)H・N　H－４－E・F地区出土の土器
図版55　東奈良遺跡(88－６)H・N　H－４－M・N地区出土の土器
図版56　東奈良遺跡(88－６)H・N　H－４－M・N地区出土の土器
図版57　東奈良遺跡(88－６)H・N　H－４－M・N地区出土の土器
図版58　東奈良遺跡(88－６)H・N　H－４－M・N地区出土の土器
図版59　東奈良遺跡(88－６)H・N　H－４－M・N地区出土の土器
図版60　東奈良遺跡(88－６)H・N　H－４－M・N地区出土の土器
図版61　東奈良遺跡(88－６)H・N　H－４－M・N地区出土の土器
図版62　東奈良遺跡(88－６)H・N　H－４－M・N地区出土の土器
図版63　東奈良遺跡(88－10)H・N　H－４－A・B地区出土の土器
図版64　東奈良遺跡(88－10)H・N　H－４－A・B地区出土の土器
図版65　東奈良遺跡(88－10)H・N　H－４－A・B地区出土の土器
図版66　東奈良遺跡(88－10)H・N　H－４－A・B地区出土の土器
図版67　中条小学校遺跡(89－１)出土の土器
図版68　中条小学校遺跡(89－１)出土の土器
図版69　各地区出土の石器・土製品・鉄器
図版70　各地区出土の石器

挿図・挿表目次

挿図－１　H・N　G－２－K・O地区とG－２－C・P・G・H地区との遺構関連図　30
挿図－２　H・N　K－１－A・B・E地区　東壁面方形周溝状遺構土層　33
挿図－３　H・N　H－４－A・B地区　土壙Ⅰ－１　土器出土状況図　39
挿図－４　H・N　C－３－K・G地区　北壁面土層図　53
挿図－５　H・N　C－３－K・G地区　甕(須恵器)出土状況図　54

挿表－１　H・N　H－４－E・F地区(88－５)弥生式土器観察表　6
挿表－２　H・N　H－４－E・F地区(88－５)土師器観察表　8
挿表－３　H・N　H－４－E・F地区(88－５)土製品・石器観察表　9
挿表－４　H・N　H－４－M・N地区(88－６)弥生式土器観察表　17
挿表－５　H・N　H－４－M・N地区(88－６)土師器観察表　18
挿表－６　H・N　H－４－A・B地区(88－10)弥生式土器観察表　40

挿表－７　Ｈ・Ｎ　Ｈ－４－Ａ・Ｂ地区(88－10)土師器観察表　42
挿表－８　中条小学校遺跡(89－１)土器観察表　49

Ⅰ　東奈良遺跡(88－5)　Ｈ－４－Ｅ・Ｆ地区

1.　調査経過

所 在 地　茨木市沢良宜西１丁目

調査面積　360㎡

調査期間　昭和63年６月１日～７月22日

届出理由　共同住宅建設

東奈良遺跡Ｈ・Ｎ　Ｈ－４地区は、昭和63年から平成元年にかけての発掘調査をもってほぼ全域の調査を実施したことになる。その調査結果によると、弥生時代中期、古墳時代前期の２面の生活面がみられ、特に同時期の大形の溝が検出されるところである。そのため、全体に含水性の高い砂・砂質土が広がっている関係から、住居・土壙など集落と墓などには適さないためか、その検出例は当地区の北側に比較して皆無に近い。

昭和63年３月17日、マンション建設に伴う埋蔵文化財確認調査依頼によって試掘調査を実施した結果、現ＧＬ－0.7mから遺物が検出された。さらに上記のように遺構・遺物が検出される可能性が高いため、発掘調査の必要があることを依頼者に報告する。その後、依頼者と茨木市教育委員会との協議の結果、昭和63年６月１日から発掘調査を実施することが決定した。

2.　層　　位(図版35・36)

当地区の基本層位は、上層より耕土・床土、弥生時代中期～古墳時代後期にかけての遺物を含む淡茶灰色砂質土層・黄白色粘質土層が調査地区全体に広がって堆積している。以下、大形溝状遺構の堆積の影響を受けて複雑な砂・砂質土・粘質土が互層状態を成している。弥生時代中期～古墳時代前期にかけての生活面は、青灰色粘土層(一部黄灰色粘土層)であり、平均標高約5.7mを測る。弥生時代前期の生活面は、灰色粘土層であり、同じく約5.3mを測る。また、調査地区南西部で砂質土層の互層状態の中に、弥生時代中期の土器片が土器溜め状態で検出された。

3.　遺　　構(図版35・36)

当調査地区からは、弥生時代前期から同後期の大形の溝４条、土壙１基、少数の柱穴跡が検出された。

溝－１

溝－１は、調査地区内の南東部を北東から南西に連なる断面Ｖ字形の溝で、溝幅約4.0m、深さ約1.18mを測り、溝底は南西に低くなっている。溝は、弥生時代中期の生活面青灰色粘土層(一部黄灰色粘土層)の下層の、灰色粘土層より掘られており、溝－１の南西部は溝－３によって、北東部は溝上部が溝－２によってそれぞれ切られている。溝内には、

レンズ状に５層に分けられる粘土・粘質土・砂土が堆積しており、下層の黒色粘土より畿内第Ⅰ様式の壺・甕の土器片が僅かながら出土している。これらの点から、溝－１は弥生時代前期の溝と思われる。また、その関係は調査地区外であるため明確でないが、溝－２の最下層の溝と出土遺物の時期並びに層位が同一であることから、交差・合流するものと思われる。

溝－２

溝－２は、調査地区内を北西から南東に連なるが、その大部分が調査地区外に延びるため溝の規模・性格などは明確でない。溝は、出土遺物・層位から弥生時代前期と同中期、古墳時代前期の３時期に渡って存在し、同前期は溝－１と同じく灰色粘土層を溝肩とし、同中期は青灰色粘土層(一部黄灰色粘土層)を肩として掘られている。また、上層の古墳時代前期の溝は調査地区北部では溝－３(Ｅ)の堆積層と交わっており、層位的には溝－３(Ｅ)埋没後に溝－２は掘られている。

弥生時代前期の溝－２は、灰色粘土層を溝肩として、なだらかな傾斜で掘られており、調査地区内では溝の西肩のみしか検出されなかったため明確でないが、北から東へほぼ直角に蛇行しているものと思われる。しかし、その形態と周辺の調査から同時期のこれほどの規模の溝が検出されていないことから、溝でなく沼地のような落ち込みであったとも考えられる。その規模は、幅８ｍ以上、深さ0.8ｍ以上を測る。落ち込みの中・上層は、同中期の溝によって削平されており、最下層の黒色粘土層が底から肩にかけて薄く検出されたのみである。同粘土層より畿内第Ⅰ様式の土器片が僅かに検出された。

弥生時代中期の溝－２は、調査地区の東半を溝－３(Ｅ)と並行して北西から南東に連なり、溝－１を削平している。溝肩を越えた堆積土は、溝－３のそれと交わって調査地区全体に広がっている。溝－２の規模は、その全体を検出していないため明確でないが、幅10ｍ以上、深さ1.2ｍ以上を測る。また、その堆積層の状態と出土遺物から、同時代中期(畿内第Ⅲ様式)以降溝は造られ、同中期(畿内第Ⅳ様式)頃埋没した。その後、古墳時代前期頃幅１～２ｍ・深さ0.4～0.6ｍ前後の自然流路が何度もでき、また埋まるといったことを繰り返して、溝は短期間で完全に埋没する。

溝－３

溝－３は、調査地区中央を北西から南東に、並行して連なる溝－３(Ｗ)と同(Ｅ)の２条の溝である。２条の溝は、調査地区北部では合流するが、南部では、幅1.5ｍ以上の堤をもって分流する。層位的には、溝－３(Ｅ)埋没後に同(Ｗ)が掘られている。

溝－３(Ｅ)は、西肩の上層は同(Ｗ)によって削平されているため規模は明確でないが、幅５ｍ以上・深さ2.03～2.15ｍを測る断面Ｕ字形の大形の溝で、底部は北から南へ僅かに低くなっており、平均標高3.6ｍである。また、調査地区南東部で、溝－１を削平している。溝内にはレンズ状あるいはブロック状に砂・砂質・粘質土・植物遺体層が互層状態を成して、複雑に堆積している。上層は溝－３(Ｗ)の堆積層と重複しているため、溝－３

(E)の遺物として取り上げておらず、中・下層の各層から畿内第II様式～第IV様式の土器が検出された。

溝－3(W)は、東側を同(E)の上層を削平して連なる幅約8m、深さ2.08～2.17mを測る断面U字形の大形の溝で、底部は一部2段の肩を成す。また底部は北から南へ僅かに低くなっており、平均標高3.55mである。溝内には、砂・砂質土、植物遺体層がレンズ状あるいはブロック状に互層状態を成して、複雑に堆積している。上層の堆積層は他の溝と同じく、溝肩を越えて広く広がり、西側の生活面には、流れによって削り取られたと思われる落ちこみが見られる。また、激しい流れを思わせる痕跡として、溝の壁面が抉り取られて、その粘土が溝の堆積層内に玉状になって転がっているのが観られた。遺物は、上・中・下層の3層に別けて検出を試みたが、溝の堆積状態からみても層位的検出は困難であり、事実各層での遺物の時期差はほとんど無く、比較的上層に古墳時代前期が多く、中・下層に畿内V様式が多くみられた程度である。その他各層から機内第III～第IV様式の土器片が、少ないながらも検出されている。

土壙1

土壙－1は、溝－2の堆積層上に位置する径0.62m、深さ0.25mの円形すりばち状土壙で、土壙内には灰色砂質土が堆積しており、畿内第III様式の土器片が検出されたが、層位的には弥生時代後期～古墳時代前期頃のものと思われる。

柱穴跡

当調査地区は、調査面積の60%以上を溝状遺構が占めているためもあり、柱穴跡は少なく、11穴のみであった。そのいずれもが、径0.1～0.2m、深さ0.05～0.15mほどの小形のもので、時期も土壙－1と同じく溝－2の堆積層上に位置することから、弥生時代後期～古墳時代前期頃のものと思われる。

4. 遺　　物(図版51～54・69・70)

当調査地区からは、コンテナバットに約45箱の遺物が出土した。その多くは、溝－2と溝－3(E)・(W)である。しかし、その多くは溝出土の土器であるため細片が多く、復元・図示できるものは少なかった。また、溝自体も遺物の層位的検出が困難であったため、明確な層位的差が認められない。他に石器・銅鐸型土製品などが出土している。以下、各遺構別に記述していく。なお、古墳時代前期の土器に関しては、東奈良遺跡の土師器編年(東奈良遺跡調査概報I　昭和54年)を使用している。また個々の土器の詳細は、土器観察表を参照されたい。

溝－2

溝－2からは、上・中・下・最下層より畿内第I様式～古墳時代前期の土器が出土したが、いずれも細片が多く、図示できるものは少なかった。

弥生式土器

壺1・2、甕3・4は、いずれも破片ながら畿内第Ⅰ様式。その他図示できなかったが、畿内第Ⅰ様式の壺・甕の口縁・底部片が最下層の黒色粘土層から出土している。無頸鉢5は畿内第Ⅲ様式、壺7は畿内第Ⅲ様式、壺13は畿内第Ⅳ様式、高坏22は、内傾ぎみに立ち上がる浅い鉢型の坏部の畿内第Ⅳ様式。そのほか脚部の12・24が出土しており、いずれも下層並びに中層出土である。

土師器

壺31・32は東奈良Ⅲに位置すると思われ、上層出土である。そのほか同時期の細片が出土しているが図示できるものは少なかった。

溝－3（E）

溝－3（E）は、上層を溝－3（W）によって削平されているため、中・下層の2層に別けて土器を検出している。下層は中層に比較して出土量が少なく、図示できるものもなかったが、いずれも畿内第Ⅲ～第Ⅳ様式である。

弥生式土器

壺6は太い頸部から外反し、口唇部で上下に肥厚するタイプで、畿内第Ⅲ様式。同14は口唇部が下方に大きく肥厚するタイプ、15・17は口縁部がくの字形に外反し、口唇部で立ち上がるタイプ、18は無頸壺で、いずれも畿内第Ⅳ様式。甕9は肩部にモミを押し付けたような記号が3ヵ所見られる。同10・20は大形品で、10には口唇部端面に凹線紋を施す。9は畿内第Ⅲ様式、10・20は第Ⅲ～第Ⅳ様式である。鉢23は口唇部外面に2条の凹線紋を施す第Ⅳ様式である。その他壺蓋26が出土している。

溝－3

溝－3（W）は、上・中・下層の各層から畿内第Ⅴ様式～古墳時代前期の土器が出土しており、特に上・中層から多くの土器が出土した。

弥生式土器

下層出土の壺27は、長頸壺と呼ばれるタイプで、口頸部にヘラによる記号のようなものが描かれている。中層出土の同28は、27に比較して口唇部でやや外反、同じく肩部にヘラ記号が描かれている。甕29は下層出土、台付き片口の同30は上層出土、中層出土の甑40は口唇部外面に粘土紐をたし厚く肥厚させている。いずれも畿内第Ⅴ様式である。

土師器

甕34・35は、口唇部端部に横ナデによる面を持ち、叩き目も底部まで行っていない突出平底であることから畿内第Ⅴ様式の要素を残す東奈良Ⅰである。同36・38は叩き目を底部まで行い、37は底部底にも叩き目を行っている。36・38は東奈良Ⅱ、37は同Ⅲである。

土器溜り

調査地区南西部で、淡灰白色砂質層の一部に淡茶灰色砂質層が互層状態で検出され、多くの畿内第Ⅲ～第Ⅳ様式の土器片が出土したが、図示できるものは2点のみであった。

弥生式土器

壺16は、口縁部がくの字型に外反し、口唇部で立ち上がるタイプ。用途不明の39は、底部・側面に多数の穴を穿ち、口唇部にも一対の穴を穿った多孔土器。内面には淡灰白色の付着物が残っている。

包含層

調査地区全体に広く堆積していた淡茶灰色砂質層・黄白色粘質土層より畿内第Ⅲ様式～古墳時代前期が出土している。

弥生式土器

壺８は口頸部を欠くが、胴部に雑な櫛描き直線紋と波状紋を施す。11は口縁部外面に櫛描き簾状紋・同波状紋を施す。いずれも畿内第Ⅲ様式である。その他、畿内第Ⅳ様式の甕19・高坏21・同脚部25が出土している。

その他の遺物

銅鐸型土製品41は、鈕の部分のみであるが、両面に鋸歯紋が施されていた溝－３(W)上層出土である。溝－３(E)出土の土製品42は、用途が不明確であるが、径4.6㎝・長18.5㎝・重さ505ｇを測り、長軸のほぼ中心に穴を貫通させていることから、大型の土錘とも考えられる。

石器

石器としては、溝－３(E)中層から石槍43・蛤刃石斧44、他に土器溜りから扁平石斧46が、包含層から柱状石斧45・環状石斧47・石包丁48が出土している。

5. 結　　語

当調査地区は、弥生時代前期から古墳時代前期にかけての溝状遺構が集中する箇所であった。弥生時代前期には北東から南西に連なる溝－１が存在し、溝－１埋没後弥生時代中期中葉ころ、北西から南東に連なる溝－２・３(E)が造られた。溝－２・３(E)が埋没あるいはその機能を失った頃の弥生時代後期には再び、溝－３(E)にほぼ並行する溝－３(W)が造られている。各溝が人口のものか自然のものか明確でないが、大形の溝が長期間必要であった環境がこの付近一帯にあったものと思われる。

HN　H－4－E・F地区(88－5)弥生式土器観察表

(　　)現存値

図版番号 写真－実測図 土器番号	遺　構	法　量 (cm)	形　態	技　法	備　考
13－51 1	溝－2 最下層	口径　16.8 腹径　— 底径　— 器高　(5.7)	頸部から大きく外反する後縁部。 口唇部は、丸味をもった面をもつ。	口唇部内外面は横なで、他は風化によって不明。頸部にヘラ描き沈線紋2条を施す。	淡乳白褐色 2～5㎜の砂粒を含む。 良好
13－51 2	溝－2 最下層	口径　— 腹径　9.3 底径　4.4 器高　(6.6)	丸味をもった体部。底部は、体部に比較して大きく、器壁も厚い。	体部外面はヘラ磨き、底部外面は指おさえ、他は風化によって不明。	淡乳白褐色 2～5㎜の砂粒・金雲母を含む。 良好
13－52 3	溝－2 最下層	口径　34.7 腹径　— 底径　— 器高　(5.0)	口縁部は短く外反し、口唇部は丸く終る。	口縁部外面に指おさえの後、内外面横なで、体部外面は縦ヘラ磨き、他は風化によって不明。	淡乳白褐色 0.5～5㎜の砂粒を多く含む 良好
13－52 4	溝－2 最下層	口径　18.7 腹径　— 底径　— 器高　(8.8)	大きく外反する口縁部。口唇部は、丸味のある面をもつ。	口縁部内外面ともに横なで。体部外面は縦ハケ調整。内面は風化によって調整不明。頸部に幅広いヘラ描き沈線紋6条、口唇部端面に同刻目紋を施す。	乳白色 2㎜程の砂粒を多く含む。 良好
13－51 5	溝－2 下層	口径　34.8 腹径　38.6 底径　— 器高　(10.4)	最大腹径部より内傾ぎみに立ち上がり、頸部付近で直立する。口縁部は水平に短く屈曲し、口唇部端部に面をもつ。	口縁、頸部は、内外面とも横なで。体部内外面ともなで調整。頸部から最大腹径まで、直線紋で始まり、波状紋で終る櫛描紋を交互に施す。	乳赤白色 1～3㎜の砂粒、クサレ礫を含む。 良好
13－51 6	溝－3(E) 中層	口径　20.8 腹径　— 底径　— 器高　(11.8)	外傾ぎみの頸部から、口縁部で大きく外反する。口唇部で上下に肥厚し面をもつ。	口縁部から頸部上位まで内外面とも強い横なで。頸部下位内面は横方向、体部縦方向のなで。外面は縦方向のハケ目調整が残る。頸部から肩部に櫛描波状紋、同直線紋を施す。口縁部内面に列点紋、口唇端部に凹線紋を施す。	淡黄褐色 0.5～1㎜の砂粒、クサレ礫、金雲母を含む。 良好
10－51 7	溝－2 下層	口径　21.6 腹径　— 底径　— 器高　(12.7)	太い頸部から大きく外反する口縁部。口唇部は上・下に肥厚し、内傾ぎみの面をもつ。	口縁部から頸部上位まで内外面とも横なで。頸部中位から体部の内面はハケ目、同外面は調整不明。頸部から肩部に櫛描直線紋、口縁部内面に同波状紋、口唇部外面に凹線紋を施す。	乳白褐色 0.5㎜程度の砂粒、クサレ礫を含む。 良好
10－51 8	包含層	口径　— 腹径　16.2 底径　4.4 器高　(11.8)	最大腹径の張りが大きく、体部中位にある。	体部内外面の調整は、風化が著しく不明わずかに体部内面下位に雑なハケ目と指痕が残る。肩部から最大腹径部に雑な櫛描直線紋を施し、同波状紋で終る。	淡乳褐色 1㎜程度の砂粒、クサレ礫を多数含む。 良好
10－52 9	溝－3(E) 下層	口径　13.9 腹径　16.2 底径　5.7 器高　21.4	器形に比較して、大きい底部。最大腹径は上位にある。口縁部は大きく屈曲し、口唇部で上方にわずかにつまみ上げ、面をもつ。	口縁部・頸部は内外面ともに横なで。体部上位はなで。下位はヘラ削りの後一部なで。底部は指おさえ、底面はなで。体部内面は指おさえの後なで。肩部に籾を押さえ付けたような跡が3カ所。最大腹径下位に薄くすす付着。	淡灰黄色 微砂粒を含む。 良好。堅緻
－52 10	溝－3(E) 下層	口径　28.4 腹径　— 底径　— 器高　(11.5)	大きく張った肩部。口縁部は「く」字形に外反し、口唇部端面で上方に肥厚する。	口縁部・頸部は内外面ともに横なで。体部外面縦ハケの後なで。内面頸部は横ハケ、体部は荒いハケの後細いハケ目調整頸部外面に粘土紐の後が残る。	乳灰黄色 微砂粒を含む。 良好
－53 11	包含層	口径　24.0 腹径　— 底径　— 器高　11.3	体部下位より内弯ぎみに立ち上がり、口唇部端部は断面三角形をなし、内側にわずかにつまみ出している。	口縁部内外面とも、櫛描紋施紋後横なで体部外面横方向のヘラ磨き、内面横方向のなで。口唇部にヘラ刻目紋、口縁部外面に雑な櫛描簾状紋と波状紋を施す。	淡乳灰色 1～3㎜の砂粒を含む。 良好

図版番号 写真－実測図 土器番号	遺　構	法　量 (cm)	形　態	技　法	備　考
－53 12	溝－2 下層	口径　— 腹径　— 底径　9.7 器高　(5.9)	裾開きの下さい脚部。脚端部は丸く終る。	脚部内外面は縦ハケ目調整、端部は横なで。紋様は上位より雑な櫛描波状紋、ヘラ描き沈線紋4～5条。ヘラ描鋸歯紋、ヘラ描沈線紋1条を施す。	乳灰白色 1㎜の黒色砂粒を含む。 良好
10－51 13	溝－2 下層	口径　25.8 腹径　— 底径　— 器高　(11.5)	太い頸部から、外反する口縁部、口唇部は下方へ肥厚し、幅広い面をもつ。	口縁部は内外面とも横なで、頸部は内外面ともなでを行っており、外面に小さな指圧痕が残る。口唇部外面に凹線紋7条貼付円形浮紋8ケ所、同内面に櫛描扇状紋。頸部に凹線紋2条、櫛描波状紋を施す。	乳赤白色 0.5～1㎜の砂粒とクサレ礫を含む。 良好
10－51 14	溝－3(E) 中層	口径　13.6 腹径　— 底径　— 器高　(4.8)	頸部から外反する口縁部。口唇部で下方へ肥厚し、面をもつ。器形に比較して、器壁が厚い。	口縁、頸部は内外面とも横なで。口唇部外面に凹線紋3条、貼付円形浮紋6ケ所内面に櫛描波状紋を施す。	淡乳茶灰色 0.5㎜前後の砂粒とクサレ礫を含む。 良好
13－ 15	溝－3(E) 中層	口径　45.9 腹径　— 底径　— 器高　(16.6)	太い頸部から外反し、曲折して、外傾ぎみに立ち上がる口縁部・口唇部は内外に肥厚する。	口縁部外面上位から内面にかけて、横なで。口縁部外面下位から曲折部下位まで、横方向のハケ目。以下頸部まで縦方向のハケ目、同内面は横方向のハケ目調整を行っている。頸部に指押え貼付突帯紋を施す。	淡灰黄色 1～2㎜の砂粒、長石を含む。良好 全体の1/15の破片よりの反転復元のため、口径に誤差があると思われる。
10－51 16	包含層 (土器溜り)	口径　22.6 腹径　— 底径　— 器高　(14.7)	内傾する頸部から外反し、曲折して、外傾ぎみに立ち上がる口縁部。口唇部は内面へわずかに肥厚する。	口縁曲折部は内外面とも横なで。他は風化が著しく不鮮明であるが、外面を縦、内面を横方向にハケ目調整を行っていると思われる。頸部にヘラ押え貼付突帯紋を施す。	乳赤白色 0.5～1㎜の砂粒とクサレ礫を含む。 やや軟質
－51 17	溝－3(E) 中層	口径　27.4 腹径　— 底径　— 器高　(6.8)	口縁部は、大きく外反し、曲折して外傾ぎみに立ち上がる口縁部。口唇部は内面へわずかに肥厚する。	口縁曲折部は内外面とも横なで、他はなで調整。凹線紋2条を施す。	淡灰黄色 1㎜前後の砂粒と金雲母を含む 良好
13－51 18	溝－3(E) 下層	口径　15.8 腹径　18.7 底径　— 器高　(12.1)	最大腹径は中位より上位にあって、よく張っている。口縁部は内弯し、口唇部で内面に肥厚する無頸壺。	口唇部内外面は横なで、他は内外面とも横ヘラ磨き。口縁と最大腹径上位に凹線紋を1条と3条施す。2孔一対の円孔を口縁部に穿つ。	淡灰褐色 微砂を含む。 良好
13－52 19	包含層	口径　36.0 腹径　43.1 底径　— 器高　(15.0)	最大腹径が体部上位にある。口縁部は、「く」の字形に屈曲し、口唇部で上下に肥厚し面をもつ。	口縁・頸部は横なで、体部内面下位は縦、下位は横方向のハケ目調整。外面は風化のため不明。	淡乳黄色 1～3㎜の砂粒を含む。 良好
－52 20	溝－3(E) 中層	口径　32.2 腹径　— 底径　— 器高　(12.2)	内傾ぎみで立ち上がる頸部。短く外反する口縁部。上下にわずかに肥厚する口唇部。	口縁部内外面とも横なで。頸部から体部上位は、縦ハケ目の後なで、その後横方向のハケ目。内面は斜、横方向のハケ目調整。	暗褐色 微砂粒を含む。 良好
11－53 21	包含層	口径　21.9 腹径　— 底径　— 器高　(12.5)	坏部下位は内湾ぎみに伸び、曲折して斜上方に立ち上がる。口唇部は内外に肥厚する。円板充塡法。	口縁曲折部は内外面とも横なで。坏部下位は、内外面とも風化が著しく不鮮明であるが、ヘラ磨きと思われる。	乳黄灰色 1～3㎜の砂粒を含む 口縁部外面に黒斑。 良好
－53 22	溝－2 下層	口径　28.1 腹径　— 底径　— 器高　(9.4)	鉢型の坏部。口縁部は内傾し、口唇部で内外に肥厚する。	口縁部内外面は横なで。坏部下位内面は横方向ヘラ磨き、外面は摩耗が著しく不明。	淡黄灰色0.5～2㎜の砂粒とクサレ礫を含む。 良好。
13－53 23	溝－3(E) 中層	口径　17.1 腹径　— 底径　4.1 器高　8.8	体部は底部より内弯ぎみに立ち上がり、口唇部で内面へ肥厚する。	口縁部内外面は横なで。体部外面中位から下位はヘラ削り、同内面はヘラ磨き。口縁部外面に凹線紋2条を施す。	灰褐色 0.5～2㎜の砂粒とクサレ礫を含む。 良好

図版番号 写真－実測図 土器番号	遺　構	法　量 (cm)	形　態	技　法	備　考
－53 24	溝－1 下層	口径　— 腹径　— 底径　12.2 器高　(11.4)	脚台部のみ残存。太い中空柱状部から斜めに開く裾部。	柱・裾部外面は縦ヘラ磨き、同内面なで。裾端部内外面は横なで。円板充塡法。	淡灰黄色 1～2㎜の砂粒と金雲母を含む。 良好
－53 25	包含層	口径　— 腹径　— 底径　15.3 器高　(15.2)	脚部のみ残存。弯曲ぎみの中空柱状部から下方へ大きく外反する裾部。裾端部は上下へ肥厚する。	柱・裾部外面は縦ヘラ磨き。裾部内面はヘラ削り。裾端部内外面は横なで。円板充塡法。	暗灰褐色 2～3㎜の砂粒を含む。 良好
13－51 26	溝－3(E) 中層	口径　— 腹径　— 底径　17.0 器高　(3.9)	笠型壺用蓋形土器。端部で下方へわずかに肥厚し、小さな面をもつ。	内面はなで。端部は横なで。	暗灰褐色 微砂粒を含む。 良好
11－53 27	溝－3(W) 下層	口径　13.2 腹径　18.3 底径　5.3 器高　31.1	完形品。内弯ぎみの円筒状の口頸部。突出平底の底部。腹部の張りが大きく、体部高より大きい。	口唇部は指押えの後なで。口縁、頸部内面はなで、外面は縦ヘラ磨き。体部は斜め方向のハケ目の後で、粗く横方向のヘラ磨き、頸部にヘラ記号。体部に粘土紐の継ぎ跡が残る。体部下位に円形の黒斑。	灰褐色 0.5～1㎜の砂粒を含む。 良好
－53 28	溝－3(W) 中層	口径　12.3 腹径　— 底径　— 器高　(15.2)	円筒状の頸部から、外反する口縁部。	口唇・口縁部は内外面とも横なで。頸部外面は斜め方向のハケ目、同内面は指押えと無調整に近いなで。肩部にヘラ記号。	淡赤黄褐色 0.5～1㎜の砂粒とクサレ礫を含む。 良好
12－52 29	溝－3(W) 下層	口径　13.3 腹径　12.5 底径　5.7 器高　12.6	倒鐘形の体部をなし、口縁部は外反し、腹径より大きい。口唇部は小さな面をもつ。底部は器形に比較して大きい。	口縁・頸部は内外面とも横なで。体部内外面はなで。底部は指押え。体部上位に薄く煤が付着する。	灰褐色 1㎜前後の砂粒を含む。 良好
11－52 30	溝－3(W) 上層	口径　13.1 腹径　12.7 底径　8.6 器高　15.1	脚台部が付く甕。最大腹径は体部上位にある。頸部が締り、口縁部が外反し、口唇部で上方へわずかにつまみ上げており、片口になっている。	口縁・頸部は内外面とも横なで。体部外面は縦ヘラ磨き。体部内面と脚台部内外面ともなで。体部中位に黒斑。	淡乳灰黄色 1㎜前後の砂粒を含む。 良好
11－54 39	包含層 (土器溜り)	口径　6.4 腹径　7.2 底径　4.6 器高　8.0	口縁部はやや内弯し、体部上位がやや張る。平底、体部下位から底部に、焼成前の多数の穿孔があり、口縁部にも1対の穿孔がある。	口縁部は内外面とも横なで。体部外面はハケ目、内面は白濁色の付着物のため不明。	淡灰褐色 1～2㎜の砂粒を含む。 良好
12－53 40	溝－3(W) 中層	口径　23.2 腹径　— 底径　3.1 器高　11.8	甑型土器。小さな突出ぎみの底部から外上方へのびる体部。口縁部外面に粘土紐を継ぎ足して肥厚させている。	口唇部は雑な横なで。体部内外面とも放射状のハケ目調整。底部指押え。 1孔(厚さ0.9cm)	淡茶褐色 0.5㎜と5㎜大の砂粒を含む。 良好

HN　H－4－E・F地区(88－5)土師器観察表

(　　)現存値

図版番号 写真－実測図 土器番号	遺　構	法　量 (cm)	形　態	技　法	備　考
－54 31	溝－2 上層	口径　(17.4) 腹径　— 底径　— 器高　(7.1)	外反ぎみの頸部から、外反する口縁部。口縁部は稜をもってさらに外反すると思われるが剝脱している。	口縁部は内外面とも横なで。頸部、肩部外面はヘラ磨き、同内面はなで。口縁部中位に櫛描波状紋を施す。	乳赤黄色 2㎜程の砂粒とクサレ礫を含む。 良好

図版番号 写真－実測図 土器番号	遺　構	法　量 (cm)	形　態	技　法	備　考
－54 32	溝－2 上層	口径 19.1 腹径 — 底径 — 器高 (7.9)	二重口縁。筒状頸部から水平近く屈曲し稜をもって外反する口縁部。口唇部は丸く終る。	口縁部は内外面とも横なでの後、内面は横方向のヘラ磨き、外面は荒い横・縦方向のヘラ磨き。他は内外面ともなで。	乳黄灰色 1～3㎜の砂粒とクサレ礫を含む。　良好
－54 33	溝－3(W) 上層	口径 — 腹径 13.3 底径 — 器高 (13.3)	体部のみ残存。丸底の球方の体部。	内外面とも風化が著しく調整不明。	白濁色 0.5～1mの砂粒とクサレ礫を含む。 良好
－54 34	溝－3(W) 上層	口径 16.2 腹径 17.5 底径 4.0 器高 21.5	体部は最大腹径が上位にあって、縦長である。口縁部は外反し、口唇部で斜め上方へつまみ上げ面をもつ。底部は突出ぎみの平底。	口縁部は内外面とも横なで。体部外面は右上りの叩き目3段。一部なで。底部に木葉痕が残る。	乳黄色 1～3㎜の砂粒とクサレ礫を含む。 良好
－54 35	溝－3(W) 上層	口径 14.8 腹径 — 底径 — 器高 (6.4)	体部は肩部が張る。口縁部は外反し、口唇部でつまみ上げ面をもつ。	口縁部は内外面とも横なで。体部外面は右上りの叩き目、内面は指押え、ハケ目を行っている。	淡灰褐色 1㎜前後の砂粒を含む。 良好
12－54 36	溝－3(W) 上層	口径 16.2 腹径 19.4 底径 3.9 器高 24.7	最大腹径が中位にある胴長の体部。口縁部は外反し、口唇部は小さな面をもつ。平底。	口縁、頸部は内外面とも横なで。体部外面は右上りの叩き目2段、内面は横方向のハケ目の後なで。体部中位より上部に厚く煤が付着。	淡灰黄色 2～7㎜大の砂粒を多く含む。 良好
12－54 37	溝－3(W) 上層	口径 15.4 腹径 18.3 底径 4.5 器高 19.5	最大腹径の張りが大きく、体部中位やや上位に位置する。外反ぎみの頸部よりさらに外反する口縁部。口唇部は小さな面をもつ。平底。	口縁・頸部は内外面とも強い横なで。体部外面は右上りの叩き目2段、同内面はなで。底部は叩き底。底部上位より上部に厚い煤付着。	淡灰濁色 1～3㎜の砂粒を多く含む。 良好
12－54 38	溝－3(W) 上層	口径 14.2 腹径 13.7 底径 2.2 器高 12.2	最大腹径が中位より上にあり、器高より腹径が大きい。口縁部は外反し、口唇部に小さな面をもつ。頸部内面に稜がある。小さな平底。	口縁・頸部は内外面とも横なで。体部外面は右上りの叩き目の後一部なで、内面はなで。外面に煤付着。	淡灰黄色 1～2㎜の砂粒を含む。 良好

HN　H－4－E・F地区(88－5)土製品・石器観察表　(　　)は現存値

図版番号 写真－実測図 番　号	遺　構	法　量 (cm・g)	特　徴
13－69 41	溝－3(W) 上層	高 (3.3) 厚 1.0 幅 (6.4) 重量 —	銅鐸型土製品の紐の部分。断面は幅の狭い台形をなす。両面に鋭利なもので彫った鋸歯紋が描かれている。
13－54 42	溝－3(E) 中層	長 18.5 穴径 0.9 径 4.6 重量 50.5	板状の粘土を棒状の芯に巻きつけ成形し、焼成前に抜き取ったと思われ、その継ぎ跡の亀裂がみられる。表面はなで調整。
13－69 43	溝－3(E) 中層	長 10.3 厚 1.15 幅 2.7 重量 30.5	打製石槍。断面は菱形、鎬部は両面ともステップ状剥離、側辺と先端部は調整剥離と混在し、全体に粗雑な作り。サヌカイト。
13－69 44	溝－3(E) 中層	長 (9.5) 厚 (5.2) 幅 (7.0) 重量 (614.5)	太型蛤刃石斧。基部中央で横割れ、基端の一部が破損。基端は幅広く、厚く敲打痕が残る砂岩？
13－69 45	包含層	長 (21.3) 厚 3.5 幅 3.3 重量 (607.5)	柱状片刃石斧。長さ21.3cm以上、重量607.5g以上の大形品。B面刃部とA面刃部側面が剥離欠損。断面は正方形。粘板岩。
13－69 46	包含層 (土器溜り)	長 (15.5) 厚 (1.9) 幅 (7.1) 重量 (313)	扁平片刃石斧。大形品。刃・基端部が欠損。平面は長方形、断面は扁平な長方形で、基部より刃部の幅が広い。泥岩。
13－69 47	包含層	外径 (9.1) 厚 2.1 内孔径 2.8 重量 (83.7)	環状石斧。約1/2個体。刃部は蛤刃状をなすが刃縁の欠損が著しい。刃部の一部は再研磨が施されている。しかし、残存部は研磨痕・線状痕もなく、中心孔に光沢が有る。粘板岩。
13－69 48	包含層	長 (11.4) 厚 0.8 幅 4.3 重量 (57.5)	石包丁、内弯刃形・片刃。右側へいくにつれて幅が狭く、厚みも薄くなる鎌形をなす。紐擦れ痕はほとんど認められない。

II　東奈良遺跡(88－6)H・N　H－4－M・N地区

1.　調査経過

所 在 地　茨木市沢良宜西1丁目28－1

調査面積　440m²

調査期間　昭和63年7月11日～同年8月26日

届出理由　共同住宅建設

当地区は、昭和48年以来の周辺の発掘調査によって、弥生時代中期から古墳時代前期にかけての大形の溝が集中するところであることが確認されており、事実当地区南東約30mの昭和63年4月に実施したH・N　I－4地区の調査によって古墳時代前期の溝が確認され、その連なりから当地区西部で検出されると思われていた。

そのH・N　I－4地区の調査中の昭和63年5月6日、マンション建設に伴う埋蔵文化財確認調査依頼によって試掘調査を実施した結果、耕土面下約0.5mの茶灰色砂質層から土師器片が検出され、また上記の事実から遺構・遺物を検出することが十分予測されるため、発掘調査の必要があることを依頼者に報告する。その後、依頼者と茨木市教育委員会と協議の結果、昭和63年7月11日から調査を実施することになった。

2.　層　　位(図版37・38)

当調査地区の層位は、東・南・北壁面の一部、また南壁面に並行に掘ったトレンチを利用して実施した。その結果、耕土面下約0.4～0.6mまでは耕土・床土・包含層が比較的フラットに堆積しているのに対して、調査地区西部から南東部にかけてはそれより下層が大形の溝が影響して複雑な堆積状態を示していた。基本層位は、上層から耕土、灰色砂質層・淡灰色砂質層(床土)・暗灰色粘質砂層が全面に堆積し、以下北東部・東部では、古墳時代以降の一時期の生活面である灰黄色砂質層、弥生時代中期から古墳時代前期にかけての遺物を含む暗茶灰色砂質層・淡茶灰色砂質層、弥生時代中期から古墳時代前期にかけての生活面である淡灰色微砂質層が堆積している。西から南東部にかけては、大形の溝を含む2条の溝の影響を受けて砂・砂質層がレンズ状に、包含層の暗茶灰色砂質層上に堆積しており、以下弥生時代中期から古墳時代前期にかけての生活面である灰色砂質層、黄白色砂質粘土層、灰色粘土層、黒色粘土層、暗灰色粘土層、黒灰色粘土層、灰色粘土層が堆積している。なお、弥生時代中期から古墳時代前期にかけての生活面の平均標高は、5.8～6.0mを測る。

3.　遺　　構(図版37・38)

当調査地区から検出された遺構は、溝5条、土壙10基、甕棺墓1基、柱穴跡約20穴、土器溜りなどである。

溝－1

溝－1は、調査地区の西端部をほぼ南北に縦走する幅約10m、底幅約1.0～2.0m、深さ約1.8～2.3mを測る断面U字形の大形の溝である。なお、溝底は北から南へ僅かに低くなっており、標高約4.0～3.6mを測る。溝－1の東肩に層位的にはやや時期がさかのぼる溝－5があり、西肩はその一部を検出したのみである。この大溝は、生活面の灰色砂質土以下、沖積層の灰色粘土層、黒色粘土層、暗灰色粘土層、黒灰色粘土層、灰色粘土層、淡灰色粘土層まで掘られている。なお、一部がさらに下層の砂層にまで達しているため溝底が砂地に成っている。溝内には、20層以上に分けられる砂・砂質土・粘質土・植物遺体層が、レンズあるいはブロック状に互層を成して堆積している。上層の堆積は生活面を越え、層位的にはさらに上層の古墳時代以降まで溝の流れが存在していたことを示している。中・下層の砂・粗砂・植物遺体層からは、多量の古墳時代前期の土器が検出された。溝－1は、当地区北北西約90mのH－3－A地区で昭和47年度調査(東奈良遺跡調査概報Ⅰ昭和54年)の時に検出された溝Ⅱ－3(大溝)、さらに昭和48年度調査の北北西約220mのG－3－A地区で検出された溝－Ⅴ(大溝)、また南東約30mのⅠ－4－B・C地区で昭和63年度調査(昭和63年度発掘調査概報　茨木市教育委員会)の時に検出された溝－1と各々規模・形態は多少異なるものの溝の方向、出土遺物から同一の溝と思われる。今回検出された溝－1とⅠ－4－B・C地区の溝－1は、他の溝に比較して溝肩・底に起伏が多く自然水路に近い形態をしていることから、東奈良遺跡の西部を北北西から南東へ縦走する古墳時代前期の大溝は自然水路の一部を改修して利用したものと思われる。

溝－2

溝－2は、調査地区南東部で僅かに検出されたため明確でないが、溝幅0.37～0.43m、深さ0.1mの小形の溝で、北東から南西に連なり、溝内には淡茶灰色粘質砂層が堆積していたが、遺物などは全く検出されなかった。層位的には、北側の畿内第Ⅲ様式と思われる土壙－2よりも新しい。

溝－3

溝－3は、調査地区北西部を北東から南西に連なる幅0.6～0.7m、深さ0.1～0.15mを測る深さに比較して、底幅の広い溝である。溝内には、茶灰色砂質土が堆積し、畿内第Ⅲ様式～第Ⅳ様式の土器が検出された。土器の多くは、溝底に接して検出され、また細片であったが、一部溝の南西部で検出された土器はほぼ完形品で、溝上にはみ出した形で検出された。(図版40)

溝－4

溝－4は、調査地区内でわずかに検出されたのみであるため明確でないが、北北西から南南東へ延び、土壙－6よって切られ、とぎれている。溝幅0.68m、深さ0.3mを測り、断面U字形をなし、溝内には茶灰色砂質土が堆積するが、遺物などは検出されなかった。また、調査地区外であるため明確でないが、溝－4は溝－3と交差、あるいは規模なども

同じことから同一のものとも考えられる。

溝－5

溝－5は、溝－1の東肩に接して連なり、調査地区南部で東へ大きく蛇行する。溝幅は、溝－1によって西肩が削平されているため明確でないが、0.5m以上あったものと思われ、深さは約0.5mを測る。溝内には、砂・砂質・粘質土がレンズ状に互層を成して堆積し、遺物は全く出土しなかった。層位的には、溝－1よりはさかのぼるが、時期差はあまりないものと思われる。

土壙－1

土壙－1は、調査地区中央東よりで検出された径1.2m、深さ0.25mを測る円形の土壙。土壙は、包含層検出時に既にその一部を検出していることから、実際はその深さはもっと深かったものと思われる。土壙内には、炭化物を含む黒色砂質層を中心に、淡灰色土層がレンズ状に堆積し、古墳時代前期の土器が検出された。

土壙－2

土壙－2は、長軸1.53m、短軸1.0m、深さ0.28mを測り、長軸を北西－南東にとる隅丸長方形摺りばち状土壙。土壙内には、淡茶灰色・淡灰色砂質層が堆積しており、畿内第Ⅲ様式の土器片が検出された。また、土壙－2には南東に延びる溝状遺構を伴う。

土壙－3

土壙－3は、長軸1.75m、短軸1.0m、深さ0.24mを測り、長軸を西北西－東南東にとるやや歪んだ隅丸長方形摺りばち状土壙。土壙内には、茶灰色砂質層が堆積し、畿内第Ⅲ～第Ⅳ様式の土器と石器が検出された。

土壙－4

土壙－4は、溝－4の南西に位置し、長軸1.7m、短軸0.55m、深さ0.33mを測り、長軸を北東－南西にとるやや歪んだ細長い楕円形摺りばち状土壙。土壙内には、茶灰色砂質層が堆積し、古墳時代前期の土器片が検出された。

土壙－5

土壙－5は、土壙－4の南西にほぼ並行して位置する小形の楕円形土壙。長軸0.92m、短軸0.3m、深さ0.23mを測る。土壙内には、他の土壙と同じく茶灰色砂質層が堆積していたが、遺物などは全く検出されなかった。

土壙－6

土壙－6は、溝－4を切るように、溝の南西に位置する。長軸0.85m、短軸0.64m、深さ0.22mを測る円形に近い摺りばち状土壙。土壙内には他の土壙と同じく、茶灰色砂質層が堆積し、畿内第Ⅲ～第Ⅳ様式の土器片が検出された。

土壙－7（図版39）

土壙－7は、調査地区北東部に位置し、径0.62m、深さ0.13mを測る円形の土壙。土壙底部は、浅いピット状の落ち込みのために起伏がある。土壙内には茶灰色砂質層が堆積し、

土壙底部より浮き上がった形で畿内第Ⅲ様式の甕型土器片が検出された。

土壙－8

土壙－8は、調査地区東部でその一部を検出したのみであるため明確でないが、東側の土層壁面にその落ち込みが見られることから、さらに東側へ延び、土壙－2と重複するものと思われる。土壙内には茶灰色砂質層が堆積し、畿内第Ⅳ様式の鉢型土器片が検出された。

土壙－9（図版39）

土壙－9は、調査地区北東部で検出された不整形な大形の土壙。長軸を北西－南東にとり、長軸3.05m、短軸0.8～1.2m、深さ0.11mを測る。土壙上には、包含層検出時から土器溜り状に多数の土器が集中して検出された。これらの土器の大多数は、検出時の土壙肩より0.1～0.2m浮いており、唯一水差型土器54のみが土壙底に接して検出された。土器自体は、完形品は少なく、一部を欠くものや細片であり、畿内第Ⅲ（新）～第Ⅳ様式である。

甕棺墓（図版39）

甕棺墓は、調査地区南西部の溝－2に接するように検出された。甕棺埋設の土壙自体は、やや歪んだ円形の2段に掘られた摺りばち状をなし、径0.65～0.70m、深さ0.38mを測る。甕棺は、畿内第Ⅲ様式（新）の甕型土器の口縁部を上にして立った状態で検出され、また口縁上には甕型土器の底部で蓋をしたような状態で検出された。さらに、包含層検出時に既にその一部を検出していることから、包含層上・中面から掘られていたものと思われる。

土器溜り（図版40）

包含層検出時に土器が集中的に検出される箇所が、土壙－9以外にも2ヵ所検出された。この土器溜り1は、土壙－9の南南西約2.5mの距離を隔てて、北西－西南西に弓なり状に長さ約2.5m、幅約0.8mの間に渡って存在した。土器は、土壙－9上のそれと同じく、畿内第Ⅲ（新）～第Ⅳ様式で、遺構検出面から0.1～0.25m浮き上がった状態で検出された。しかし、遺構面には土壙状の落ち込みは見られず、土器自体も大多数は細片化していた。また、そのほかにも小規模の土器溜り2が土壙－3の北東で検出されている。

このような土器溜りは、昭和47年度調査のH－3－H地区（東奈良遺跡調査概報Ⅰ昭和54年）同63年度調査のⅠ－4－C地区（昭和63年度調査概報）でも検出されている。

土壙－10

土壙－10は、調査地区北東部に位置する径1.32m、深さ0.47mを測る円形の土壙。土壙底部には、径0.5m、深さ0.1mを測る浅い落ち込みがある。土壙内には、6層に分けられる堆積層が見られ、11世紀頃の瓦器・土師器片が検出された。土壙－10は、検出時の深さが浅いものの井戸の可能性がある。

4. 遺　　物（図版55～62・70）

遺物は、各遺構・包含層から弥生時代中期から古墳時代前期の土器を中心にコンテナー

バットに約50箱出土した。その中心は、溝－1・土器溜りからのものであるが、土器溜り出土の土器は残存状態が悪く復元図示できるものは少なかった。なお、各土器の詳細は土器表に記述している。

弥生式土器

壺型土器　49・50は、最大腹径がやや下位にある球形に近い体部、太く短い頸部から外反して、口唇部で上下に肥厚し凹線紋を施す。51は、最大腹径が中位にある球形に近い体部、細く短い頸部から外反し、口唇部で下方に肥厚し凹線紋を施す。52は、外反ぎみの頸部から屈曲して立ち上がる口縁部、頸部に指押えの突帯紋を施す。49は溝－3、50・51は土壙－9出土の畿内第Ⅲ様式(新)。52は包含層出土の畿内第Ⅲ様式。

水差型土器　53は、算盤玉状の体部と直口口縁部、脚部が付く。54は、やや胴長の体部に外反する口縁部の壺に把手を付けたタイプ。53は畿内第Ⅲ様式(新)、54は第Ⅳ様式の土壙－9出土である。

甕型土器　55～57は、55・56は甕棺に転用していたもので、55は頸部が水平近く外反し、57はくの字形に外反する。57は土壙－7出土のいずれも畿内第Ⅲ様式である。

用途不明の土器　63は、甕あるいは壺の体部を縦に1/3にして、その側面部を使用したような土器。土壙－9出土で、供伴土器から畿内第Ⅲ～Ⅳ様式であると思われる。その他、土器溜り1出土の高坏脚部58、土壙－3出土の脚部59、土器溜り2出土の甕用蓋型土器60、土器溜り2出土の台型土器61、包含層出土の同62がある。いずれも、畿内第Ⅲ～Ⅳ様式である。

土師器

土師器は、溝－1を中心に出土し、上・中・下層に分けて検出を試みたが、溝の複雑な堆積状況からみて、層位的差を求めるのは困難であったため、一括出土土器として取り扱った。なお、土師器の編年は東奈良編年(東奈良遺跡調査概報Ⅰ昭和54年)を使用している。

壺型土器　64・65は、いずれも突出平底の東奈良Ⅰに位置する。64は口縁部が外反し、65はいわゆる二重口縁であるが、内面に稜はみられない。また65は、肩部から明確な稜をもたずに内傾する頸部であることから、岡山の酒津の影響を受けているものと思われる。

66～74は、外上方へ広がる直口口縁のタイプで、体部に比較して口縁部の小さい大形と口縁部の大きい中形、そして体部・口縁部がともに小さい小形品がある。いずれも体部・頸部外面にヘラ磨き調整を行っている。66・67は小さい平底をもつ東奈良Ⅱ、68・69は尖底ぎみの東奈良Ⅲ、72～74は丸底で口縁部の器壁も薄く内弯ぎみになることから東奈良Ⅳ、70・71は口縁部の形態・技法から東奈良Ⅱ～Ⅲと思われる。75は短い頸部から短く外反し、外上方へ立ち上がり口唇部で短く外反し、その形態から岡山の酒津の影響を受けているものと思われる。

甕型土器　76・77は、いずれも突出平底であるが、77は押しつぶしたような形態の底であることから東奈良Ⅱ、76は東奈良Ⅰに位置する。78・79は小さい平底の東奈良Ⅱ。82～

90は、いずれも底部に意識が薄れる尖底の東奈良Ⅲに位置する。89・90は胎土から河内産である。他は在地のもので、82・84・85は外面に刷毛目、内面にヘラ削りが見られることから他より新しいものと思われる。91～94は底部が丸底となり、外面も叩き目が消え刷毛目調整を行い、内面はヘラ削りを行っている。91・94は胎土から河内産、他は在地のもので東奈良Ⅳに位置し、94は口唇部端部が内面に肥厚することから他より新しいものと思われる。95は岡山の酒津式の口縁部の特徴をもつもので、東奈良Ⅳに位置するものと思われる。

高坏型土器　今回検出された高坏には、坏部底部が水平あるいは内弯ぎみにのび、坏部上部が直線あるいは内弯ぎみにのびるタイプと、坏部上部が屈曲してのびるタイプと椀型の坏部をもつタイプがあった。このなかで最も古い要素をもつものは、屈曲部下位の浅い96が東奈良Ⅲと思われる。97～100は、坏部あるいは屈曲部下位が深く、坏部底部が小さいことから東奈良Ⅳと思われる。弯型高坏の101・102は、胎土の清良さと作りの丁寧なことから東奈良Ⅳと思われる。その他、脚部のみでは編年が困難だが、脚部103～109がある。

器台型土器　110～112は皿部がやや深く、脚柱部が長く、裾の広がりも小さいため東奈良Ⅲ、113・114は皿部が浅く、脚部も接合面から広がり、丁寧な作りのため東奈良Ⅳと思われる。115は、いわゆる鼓型器台と呼ばれているものである。

鉢型土器　小型の鉢116～118は平底、119～121は小さな底をもつ東奈良Ⅱ。同121～130は、ヘラ削りあるいは叩き目を行って床部を尖底・丸底風に作っていることから東奈良Ⅲ。131は叩き目の後、ヘラ磨きを行い丁寧な作りであることから東奈良Ⅳと思われる。中形の132・133は平底の東奈良Ⅱ、同134・135は尖底・丸底風であることから東奈良Ⅲと思われる。大形の136は頸部でくびれ、短く外反し稜をもって外上方へ直線的にのびる口縁部をもつ。このタイプの鉢は、在地にないことから、他地域からの影響を受けているものと思われる。脚台付きの137～139は、137が作りも粗雑であることから東奈良Ⅲ、138・139はヘラ磨きを丁寧に行っていることから東奈良Ⅳと思われる。その他、140は、口径に比較して器高の高い鉢、破損はしているものの脚台が付くものと思われる。

甑型土器　141～144は底部を叩き目を行って尖底・丸底風に作っていることから東奈良Ⅲ、145は、底部の器壁を薄く仕上げていることから東奈良Ⅳと思われる。

その他　土壙－10より、僅かながら土師器小皿・瓦器椀が出土している。

土師器小皿146は、形状がややいびつで、口縁部を外に折り返し、端部で僅につまみ上げている。口径9.85㎝、器高1.6㎝を測る。瓦器椀147は、1/5の破片からの反転復元である。内面は丁寧な螺旋状の暗紋、外面はやや荒いものの底部まで暗紋を施している。高台は、分厚いものの稜が明確でない。口径15.2㎝、器高5.7㎝を測る。いずれも11世紀と考えられる。

石器　土壙－3出土の扁平片刃石斧148は、法量長さ5.5㎝・幅3.9㎝・厚さ1.5㎝・重量60.8ｇを測る砂岩製である。

鉄器　包含層出土の鉄斧149は、法量残存長6.4㎝・幅3.3～3.8㎝・重量48ｇを測る。柄部は、鉄板を折り曲げた楕円形の袋状になっており、柄挿入部の長さ4.3㎝、内径2.7×1㎝を測る。

5. 結　　語

当調査地区からは、弥生時代中期・古墳時代前期・平安時代期の３時期の遺構が検出された。

弥生時代中期の遺構は、土壙・溝・甕棺墓・土器溜りである。溝－３・４と土壙－９および土器溜りの位置関係と土器出土状態から、方形周溝墓の可能性もあるが、供献土器のみが残存して周溝が残らないとは考えられないので、その可能性は薄いと思われる。しかし、溝－３は、土層断面からは封土を確認できなかったものの、溝内出土の土器出土状況と溝の方位がこの付近検出の方形周溝墓の周溝と一致することから、方形周溝墓の可能性は高く、北西側に広がっていると思われる。

古墳時代前期の溝－１は、前述のように東奈良遺跡を北北西から南東に縦走する大溝の一部と思われる。大溝は、Ｈ－３・Ｇ－３地区では溝肩が２段に掘られていたことから、人工の溝と思われていた。しかし、当地区とＩ－４地区では自然水路の状態であったことから、自然水路を一部改修した溝であることが判明した。各地区の大溝からは多量の土器が出土しており、大溝全体に埋没している土器量は膨大なものとなる。なぜ膨大な土器が短期間のうちに埋没したのかは、今後の調査・研究を待ちたい。

ＨＮ　Ｈ－４－Ｍ・Ｎ地区（88－６）弥生式土器観察表

（　　）は現存値

図版番号 写真－実測図 土器番号	遺　構	法　量 （㎝）	形　態	技　法	備　考
14－55 49	溝－3	口径　21.7 腹径　29.2 底径　6.6 器高　35.1	最大腹径は大きく張り、体部中位にある太く、やや長い頸部から、口縁部は大きく外反し、口唇部で上下に肥厚する。	口縁部の内外面は横なで、体部中位内面にハケ目調整痕が残るが、他は風化が著しく不明。口唇部端面に凹線紋３条。頸部から最大腹径まで、一部風化で消失しているが、櫛描直線紋11段、同波状紋が施されている。	乳赤黄色 １～２㎜の砂粒とクサレ礫を含む。 良好
14－55 50	土壙－9	口径　23.6 腹径　— 底径　— 器高　(11.4)	太い頸部から、大きく外反する口縁部。口唇部は上下に肥厚し、面をもつ。	口縁部の内外面は横なで、頸部内面はなで、外面は風化によって不明。口唇部端面に凹線紋５条。同内面に櫛描列点紋。頸部に櫛描直線紋を施す。	乳灰褐色 ２㎜程の砂粒を含む。 良好
14－55 51	土壙－9	口径　14.1 腹径　23.8 底径　5.4 器高　27.2	最大腹径は大きく張り、体部中位にある。細い筒状の頸部から、口縁部は外反し、口唇部で下方へ屈曲して幅広い面をもつ。	口縁部は内外面とも横なで。他は内面なで、外面は横・縦方向のヘラ磨きと思われるが摩耗が著しく不鮮明。口唇部外面に凹線紋３条、円形浮紋２カ所以上。頸部に凹線紋３条、以下櫛描直線紋と同波状紋を交互に施す。	乳灰白色 １㎜程の砂粒を含む。 良好
－55 52	包含層	口径　23.3 腹径　— 底径　— 器高　(12.2)	漏斗状の頸部から、屈曲して立ち上がる受口状の口縁部。口唇部は内外に肥厚する。	口縁部は内外面とも横なで。口縁部下位から頸部外面は、縦ハケ目、内面は風化によって不明。口縁部に凹線紋２条、頸部に貼付突帯指頭圧痕紋を施す。	乳灰白色 0.5～２㎜の砂粒とクサレ礫を含む。 良好
14－55 53	土壙－9	口径　8.2 腹径　17.5 底径　— 器高　(15.2)	体部は算盤玉状によく張る。口頸部は内弯ぎみに立ち上がり、口唇部でわずかに内弯し、把手側を１㎝程えぐっている。肩部に差し込みの横位の把手が付く。脚台が付く。	全体風化が著しく、調整、紋様等は全く不明。	乳赤白色 0.5～３㎜の白色砂粒とクサレ礫を含む。 良好
14－55 54	土壙－9	口径　10.5 腹径　17.5 底径　4.8 器高　(16.9)	最大腹径が中位にあるやや胴長の体部。短い頸部から、小さく外反する口縁部。口唇部で短く下方へ屈曲する。肩部から頸部に貼付の横位の把手が付く。	全体風化が著しく、調整・紋様等は全く不明。	乳赤白色 １㎜の白色砂粒とクサレ礫を含む。 良好
14－56 55	甕棺墓	口径　32.1 腹径　39.1 底径　9.1 器高　48.5	最大腹径が体部上位にあるやや胴長の体部。口縁部は、水平近くまで短く屈曲し口唇部でわずかに上方へ肥厚し、小さな面をもつ。	口縁部は内外面とも横なで。体部外面中上位と内面は、縦ハケ目。体部下位から底部はヘラ削りを行っている。	淡灰黄褐色 0.5～１㎜程の砂粒を含む。 良好 棺として転用。
－56 56	甕棺墓	口径　— 腹径　— 底径　8.1 器高　(27.8)	底部より内弯ぎみに立ち上がり、腹径が大きい体部。壺型土器底部と思われる。	底部から体部内面はなで、外面は風化が著しく調整不明。	乳黄白色 １～３㎜の砂粒とクサレ礫を含む。 良好 棺の蓋として転用。
－56 57	土壙－7	口径　32.5 腹径　— 底径　— 器高　(12.5)	「く」の字形に屈曲する口頸部。口唇部でわずかに上方へ肥厚する。	口頸部は内外面とも横なで。肩部外面は縦、以下斜ハケ目。内面は風化のため調整不明。	乳黄濁色 １㎜程の砂粒とクサレ礫を含む。 良好
－56 58	土器溜り１	口径 腹径 底径　15.2 器高　(13.8)	中空の柱部よりなだらかに広がる脚部。裾端部で上下に肥厚し、面をもつ。	裾部は内外面とも横なで。柱部内面はヘラ削りの後なで、外面は風化のため不明円板充塡法。	乳黄濁色 １㎜程の砂粒を含む。 良好
－56 59	土壙－3	口径 腹径 底径　16.7 器高　(15.5)	中空の太い柱部よりなだらかに広がる脚部	裾部は内外面とも横なで。他は風化のため不明。裾部に凹線紋３条。各８ヶ所の円孔を交互に配置して、３段に穿つ。	黄灰色 １～５㎜大の砂粒を含む。 良好

図版番号 写真－実測図 土器番号	遺　構	法　量 (cm)	形　態	技　法	備　考
－56 60	包含層	口径　14.2 腹径　— 底径　4.7 器高　4.6	甕用蓋型土器低い笠形をなし、つまみ部は上方に拡張し、中央に凹む。	口縁部は内外面とも横なで。他は風化のため不明。	淡茶褐色 1～3㎜の砂粒を含む。 良好
15－56 61	包含層	台径　17.7 腹径　— 底径　— 器高　(6.3)	台型土器。円形の台部の中央には径12cm、深さ1cm程のすりばち状の凹みがある。台部よりわずかにくびれて脚部がのびる。	台部上面は摩耗・風化によって不明。脚部外面は縦ハケ目調整。内面はなで。	淡黄灰濁色 1～3㎜の砂粒とクサレ礫を含む。 良好
15－56 62	土器溜り1	台径　26.0 腹径　— 底径　— 器高　(6.0)	台型土器。円形の台部の中央に径11cm、深さ0.2cm程の凹みと端部がわずかに凹む。台部より大きくくびれて脚部がのびる。	台部端部は横なで。脚部は縦ハケ目。内面はなで。他は摩耗・風化によって不明。	乳黄色 0.5～3㎜の砂粒とクサレ礫を含む。 良好
15－55 63	土壙－9	長　24.0 幅　15.9 高　6.5	用途不明土器。甕あるいは壺型土器を縦に3等分して、その側面を利用したものと思われる。端部の一方はえぐられている。	両端面は横なで。側面は弱い横なで。他は風化によって不明。外面の一部に薄く煤付着。	淡茶灰色 0.5～2㎜程の砂粒を含む。 良好

HN　H－4－M・N地区(88－6)土師器観察表

(　　)は現存値

図版番号 写真－実測図 土器番号	遺　構	法　量 (cm)	形　態	技　法	備　考
15－57 64	溝－1 中層	口径　12.7 腹径　23.8 底径　5.2 器高　24.7	最大腹径がやや下位にある球形の体部。細い口縁部から外反する口縁部。口唇部は丸く終る。突出平底であるが底部が丸味があり安定しない。	口縁部は内外面とも横なで。頸部は指押え。体部外面上位は叩き目の後、斜めヘラ磨き、中位は横ヘラ磨き、下位はハケ目の後なで、底部は指押え。体部内面中上位はなで、下位はハケ目。体部下位に薄く煤付着	淡灰濁色(外面) 暗灰色(内面) 1～3㎜の砂粒を含む。 良好
15－57 65	溝－1 下層	口径　17.3 腹径　29.1 底径　4.6 器高　30.5	最大腹径が中位にあり、大きく張り出す頸部は体部との稜がなく、内傾している口縁部は外反し、中位で外下方へ肥厚しさらに外反する二重口縁。口唇部は器壁厚く丸く終る。突出平底。	頸部から体部外面上位は縦ハケ目。下位はなで。内面は頸部・体部ともハケ目。口縁部内面に櫛描波状紋を施す。	淡灰褐色 2～5㎜の砂粒を多く含む。 良好 頸部に酒津式の影響を受けている。
16－57 66	溝－1 下層	口径　13.5 腹径　28.3 底径　3.9 器高　30.0	球形の体部。頸部は屈曲し、内面では明確な稜がある。口縁部は斜上方へ短くのび、体部に比較して小さい。口唇部には小さな面がある。平底。	口唇部は横なで、口縁部外面は縦、内面は横方向のヘラ磨き。体部外面は縦ヘラ磨き、内面は横ハケ目。頸部から体部上位にはヘラ磨きの下にハケ目が残る。	淡灰黄色 0.5～4㎜大の砂粒を多数含む。 良好
16－57 67	溝－1 下層	口径　14.2 腹径　22.8 底径　4.0 器高　27.5	最大腹径は中位にあり、底部へは急激に小さくなる。頸部は屈曲し、内面では明確な稜がある。口縁部は斜上方へ長くのび、口唇部で丸く終る。底部はゆがんだ平底。	口縁・頸部は内外面とも横なで。頸部内面ハケ目。体部外面斜め方向のヘラ磨き。体部内面ハケ目の後なで。	乳灰白色(外面) 灰色(内面) 1～3㎜程の砂粒を含む。 良好
16－58 68	溝－1 下層	口径　7.1 腹径　12.2 底径　— 器高　15.9	最大腹径がやや上位にあり、下位へ急激に小さくなる。頸部は細くくびれ、口縁部が内弯ぎみに立ち上がり、中位で器壁が肥厚する。尖底。	口縁部上位内外面とも横なで、外面はその後ヘラ磨き。口縁部中位から体部中位ハケ目、体部斜めヘラ磨き。体部下位縦ヘラ磨き。底部はヘラ削り。体部内面はなで。底部に黒斑。	乳茶灰色 0.5～1㎜の砂粒をわずかに含む。 良好
－58 69	溝－1 中層	口径　10.9 腹径　12.2 底径　— 器高　15.2	やや胴長の体部。頸部のくびれは小さく口縁部が斜め上方へのびる。口唇部は丸く終る。尖底。	口唇部は内外面とも横なで。口縁部内面横方向、外面縦方向のハケ目。体部は2段の叩き目の後、ハケ目・なで調整。体部内面はハケ目。	乳灰褐色 0.5～1㎜の砂粒を含む。 良好

図版番号 写真－実測図 土器番号	遺　構	法　量 (cm)	形　態	技　法	備　考
16－57 70	溝－1 上層	口径　13.5 腹径　24.8 底径　— 器高　(23.3)	最大腹径が中位にある球形の体部。頸部は屈曲し、口縁部は斜め上方へのび、口唇部でわずかに外反し、丸く終る。	口縁部は内外面とも横なで。体部外面は風化によって不明。内面は横方向のハケ目調整。最大腹径部に煤付着。	淡赤白色 1㎜程の砂粒とクサレ礫を含む。 良好
16－57 71	溝－1 下層	口径　13.3 腹径　— 底径　— 器高　(10.6)	口縁部は、斜め上方へ直線的にのび、口唇部でわずかに外反し、丸く終る。	口縁部外面は、縦ハケ目の後、上位は横なで、下位は縦ヘラ磨き。内面上位は横なで、下位は横ハケ目の後、荒い縦ヘラ磨き。頸部外面はハケ目が残り、体部は斜ヘラ磨き、内面は指押えの後なで。	赤黄褐色 1～3㎜の砂粒を多く含む。 良好
－58 72	溝－1 下層	口径　10.9 腹径　15.5 底径　— 器高　17.3	やや胴張りの球形の体部。体部に比較して太い頸部から、口縁部は直線的に斜上方へ直線的にのびる。口唇部は丸く終り、器壁は薄くなる。丸底。	口縁部は内外面とも横なで。内面はその後、横・斜方向のヘラ磨き。頸部外面なで、内面指押え。体部外面斜め方向のヘラ磨き、内面なで。	淡灰白色 1～3㎜の砂粒を多く含む。 良好
－58 73	溝－1 下層	口径　— 腹径　15.3 底径　— 器高　(12.5)	胴が大きく張る扁平な球形の体部。口縁部は斜め上方へ直線的にのびる。丸底。	体部外面は細い縦ヘラ磨き。内面はなで薄く炭化物付着。口縁部横なで。	淡黄灰色 1～5㎜の砂粒を多く含む。 良好
－58 74	溝－1 上層	口径　— 腹径　14.6 底径　— 器高　(13.9)	やや扁平な球形体部。頸部はくびれ、口縁部は内弯ぎみに斜め上方へのびる。	口縁部から頸部まで、内外面とも横なで。頸部外面は指押え。体部外面は風化のため不明確ながらヘラ磨きと思われる。内面はなで。	乳黄灰色 1～3㎜の砂粒を多数含む。 良好
22－58 75	溝－1 中層	口径　10.0 腹径　— 底径　— 器高　(7.4)	頸部で大きくくびれて、口縁部が短く外反し、外面に肥厚した後、真すぐ立ち上がり、口唇部で外反し、端部でわずかにつまみ上げている。	口縁部外面は縦ハケ目の後、口唇部・口縁部中位・下位を横なで。内面はなでの後横なで。頸部下位ヘラ削り。	淡黄灰色 微砂粒を含む。 良好 中国地方の影響を受けていると思われる。
17－58 76	溝－1 下層	口径　13.1 腹径　12.9 底径　3.5 器高　14.7	最大腹径が中位にある胴長の体部。口・頸部は「く」の字形に外反する。口唇部は丸く終る。突出平底。	口・頸部は内外面とも横なで。体部中上位はやや右上りの叩き目。下位底部はらせん状の叩き目。内面はなで、内面底部はハケ目。	淡灰褐色 0.5～2㎜の砂粒を多く含む。 良好
17－58 77	溝－1 下層	口径　14.2 腹径　16.1 底径　4.6 器高　18.8	最大腹径が中位にあって、やや胴長の体部。頸部のくびれが小さく、口縁部が「く」の字形に外反する。突出平底が潰れている。	口・頸部は内外面とも横なで。体部外面は右上りの叩き目2段。体部内面上位は横方向のハケ目、下位はなで。体部外面に厚く煤付着、内面下位に炭化物付着。	灰黄色 1～3㎜の砂粒を含む。 良好
17－58 78	溝－1 下層	口径　12.9 腹径　14.1 底径　2.8 器高　12.8	最大腹径が上位にあって、器高を上回る体部。頸部は屈曲し、口縁部は中位で肥厚する。ゆがんだ平底。	口・頸部は内外面とも横なで。体部外面は水平の叩き目。体部内面はヘラなで。	灰黄褐色 0.5～2㎜の砂粒を多く含む。 良好
17－56 79	溝－1 下層	口径　— 腹径　14.9 底径　2.5 器高　(14.2)	最大腹径が中位よりやや上に位置する胴長の体部。頸部のくびれが小さい、太い頸部。小さな平底。	体部外面は右上りと水平の叩き目。体部内面はなで。底部にも叩き目。	暗灰褐色 1㎜前後の砂粒を含む。 良好
18－58 80	溝－1 下層	口径　14.1 腹径　18.6 底径　— 器高　(12.3)	やや胴長の体部。頸部のくびれが小さい。口縁部は外反し、口唇部でさらに外反し端部に小さな面がある。	口・頸部は内外面とも横なで。体部外面右上りの叩き目。内面なで。体部から口縁部外面に煤付着。	乳黄濁色 1～4㎜の砂粒を多く含む。 良好
18－58 81	溝－1 中層	口径　16.2 腹径　17.4 底径　— 器高　(13.8)	胴長の体部。頸部のくびれが小さい。口縁部は外反し、下位で肥厚し、口唇部は薄くなり丸く終る。	口・頸部は内外面とも横なで。体部外面右上りの叩き目、内面なで。内面に粘土紐の跡が残る。	淡黄灰色 1～3㎜前後の砂粒を含む。 良好

図版番号 写真－実測図 土器番号	遺　構	法　量 (cm)	形　態	技　法	備　考
17－58 82	溝－1 下層	口径 12.4 腹径 14.8 底径 — 器高 14.5	最大腹径が中位にある球形に近い体部。頸部のくびれが小さい。口縁部は外反し口唇部で上方へつまみ上げる。尖底。	口・頸部は内外面とも横なで。体部外面風化が著しく不明。内面はヘラ削り。内面下位は無調整。内面底部に炭化物付着。	乳赤白色 2～5㎜の砂粒とクサレ礫を含む。 良好
－59 83	溝－1 下層	口径 — 腹径 18.4 底径 — 器高 (19.7)	最大腹径が中位よりやや上にある球形に近い体部。頸部は丸くくびれる。口縁部は大きく外反する。尖底。	口・頸部は内外面とも横なで。体部外面は水平・右下りの叩き目、一部風化が著しく不鮮明。内面なで、下位指押え。体部から口縁部外面に煤付着。	暗褐色 細粒と10㎜大の小石が混る。 良好
－59 84	溝－1 中層	口径 14.6 腹径 14.4 底径 — 器高 14.9	胴の張りが小さく、口径より小さい体部。頸部は小さくくびれる。口縁部は外反し口唇部は丸く終る。	口・頸部は内外面とも横なで。体部外面は叩き目の後、縦ハケ目。底部は叩き目体部内面はなで、底部内面は指押え。	淡赤黄色 1～3㎜の砂粒とクサレ礫を含む。 良好
－59 85	溝－1 下層	口径 16.0 腹径 20.5 底径 — 器高 20.6	最大腹径と器高がほぼ同じの、胴の張った球形に近い体部。頸部は丸くくびれる。口縁部は外反し、口唇部へ向って器壁が薄くなる。丸底風の小さな平底。	口縁部内外面と頸部外面が横なで。体部上位は細い右下りの叩き目の後ハケ目。体部下位は縦叩き目。頸部・体部上位内面はヘラ削りの後なで。下位ヘラ削り。	乳灰褐色 1～3㎜の砂粒を含む。 良好
－ 86	溝－1 下層	口径 12.7 腹径 17.1 底径 — 器高 (11.1)	最大腹径が大きく張る丸い体部。頸部は丸くくびれる。口縁部は外反し、口唇部は丸く終る。	口・頸部は内外面とも横なで。体部外面は右上りの叩き目。内面はなで。体部中下位外面に煤付着。	淡赤黄色 1㎜前後の微砂粒とクサレ礫を含む。 良好
22－59 87	溝－1 下層	口径 13.9 腹径 21.4 底径 — 器高 (19.8)	最大腹径が大きく張り、中位にある球形の体部。頸部は大きくくびれる。口縁部は外反し、中位で肥厚する。	口縁部内外面と頸部外面が横なで。体部外面は右上りの荒い叩き目3段。内面はなで。最大腹径部に煤付着。	赤黄色 1～4㎜の砂粒とクサレ礫と雲母を含む。 良好
－59 88	溝－1 下層	口径 14.7 腹径 16.8 底径 — 器高 (14.2)	最大腹径が張るやや扁平ぎみの丸い体部。頸部は小さくくびれて、口縁部が外反し、口唇部は丸く終る。	口・頸部は内外面とも横なで。体部外面は風化しているものの右上りの叩き目。内面はなで。	乳灰褐色 0.5～1㎜程の砂粒を含む。 良好
18－59 89	溝－1 下層	口径 18.0 腹径 23.5 底径 — 器高 24.1	最大腹径が中位にある球形に近い体部。頸部で大きくくびれ、口縁部は内弯ぎみに外反する。口唇部で上方へわずかにつまみ上げる。尖底。	口・頸部は内外面とも横なで。体部外面肩部なで。以下中位下まで水平・右上りの細かい叩き目。下位から底部ハケ目。内面肩部なで。以下中位までヘラ削りの後なで、以下なでと思われるが炭化物が付着し不明。体部外面下位に煤付着。	茶褐色 1㎜前後の微砂粒と金雲母を多数含む。 良好 胎土から河内系と思われる。
18－59 90	溝－1 中層	口径 16.2 腹径 20.3 底径 — 器高 (21.3)	最大腹径が上位にあり、以下底部へ小さくなり、底部が欠損するが尖底と思われる。頸部は鋭くくびれ、口縁部が外反し、口唇部で内弯ぎみに立ち上がる。頸部内面に鋭い稜がある。	口・頸部内外面とも横なで。体部外面中位まで細かく、丁寧な右上りの叩き目。以下叩き目の後、ハケ目。内面頸部以下ヘラ削り、ハケ目調整。下位は炭化物が付着し不明。体部・口縁部外面に煤付着。	茶褐色 1㎜前後の微砂粒と金雲母を多数含む。 良好 胎土から河内系と思われる。
18－60 91	溝－1 中層	口径 13.7 腹径 17.5 底径 — 器高 (18.9)	最大腹径がやや上位にあって、肩が張る丸い体部。頸部は丸くくびれ、口縁部は外反し、中位で肥厚しやや内弯する。口唇部で内外にわずかに肥厚する。底部は欠損するが丸底と思われる。	口・頸部と肩部は内外面とも横なで。体部外面はハケ目と思われるが、煤付着となでのためか不鮮明。内面は中位下までヘラ削り、以下炭化物付着で不鮮明。	淡灰黄色 1～2㎜の砂粒と金雲母をわずかに含む。 良好
18－60 92	溝－1 中層	口径 14.0 腹径 18.3 底径 — 器高 19.8	最大腹径が中位にあり、肩が張る球形の体部。頸部は丸く屈曲する。口縁部は外反し、中位で内弯ぎみに立ち上がる。丸底。	口縁部内面と口・頸・肩部外面は横なで体部・底部外面は煤付着のため不鮮明ながらハケ目。内面ヘラ削りの後なで。内面底部炭化物付着。	淡灰黄色 1～3㎜の砂粒を含む。 良好
22－59 93	溝－1 下層	口径 13.4 腹径 13.1 底径 — 器高 (10.3)	最大腹径が中位より上にあり、口径が腹径より大きい器高が低い器形。頸部は鋭くくびれる。口縁部は内弯ぎみに斜め上方へたち上がる。	口・頸部は内外面とも横なで。体部外面はハケ目の後丁寧ななでと思われるが、煤付着のため不鮮明。内面はヘラ削りの後丁寧ななで。口縁・体部外面に厚く煤付着。	淡茶灰色 1㎜前後の微砂粒を含む。 良好

図版番号 写真－実測図 土器番号	遺　構	法　量 (cm)	形　態	技　法	備　考
－60 94	溝－1 下層	口径　16.1 腹径　21.2 底径　— 器高　23.1	最大腹径がやや上位にあって、肩が張る丸い体部。頸部は丸くくびれる。口縁部は内弯ぎみに斜め上方へ立ち上がる。口唇部でわずかに内面へ肥厚する。丸底。	口・頸部外面と口縁部内面は横なで。頸部内面なで。体部外面は縦ハケ目と横ハケ目。内面ヘラ削り。口縁部と体部中位以下外面に煤付着。	淡茶灰色 1㎜前後の微砂粒と金雲母をわずかに含む。 良好
22－59 95	溝－1 中層	口径　13.7 腹径　— 底径　— 器高　(4.2)	頸部は丸くくびれる。口縁部は外反し、中位より短く直立する。口唇部で内面に肥厚する。	口・頸部内外面とも横なで。肩部外面縦ハケ目、内面ヘラ削り。口縁部外面にヘラ描き沈線紋が施されている。	淡灰濁色 0.5㎜程度の微砂粒を含む。 良好
19－60 96	溝－1 下層	口径　17.1 腹径　— 底径　— 器高　(11.1)	坏部下半は短く張り、段をもって上半が大きく斜上方へ張り出す。内面も段があり、下半はすりばち状に凹んでいる。柱部は充実。	口唇部内外面と段外面は横なで。坏部上半内外面と坏部下半・柱部外面は荒い縦方向のヘラ磨き。坏部下半内面はなで。	淡灰黄色 2～5㎜大の砂粒を含む。 良好
19－60 97	溝－1 下層	口径　23.8 腹径　— 底径　— 器高　(7.5)	坏部下半は短く張り、稜をもって斜上方へ短く立ち上がり、わずかに屈曲して外上方へ外反する。内面は同じくわずかに屈曲して中央部が深くなっている。口唇部は幅狭い面取りがなされている。	口唇部内外面と稜外面は横なで。坏部上半内外面と下段下面内外は荒いヘラ磨き円板充塡法。	乳灰白色 1～2㎜の砂粒を含む。 良好
－60 98	溝－1 下層	口径　23.1 腹径　— 底径　— 器高　(15.9)	坏部下半は短く内弯ぎみに張り、稜をもって上半は外反し、中位で内弯ぎみに斜め上方へのびる。内面下半はわずかに中央へ深くなる。充実・裾広がりの柱部。	口唇部内外面は横なで。坏部外面は縦、内面は横方向のヘラ磨きであるが風化が進み、ハケ目が露出している。坏部下半内外面と柱部外面は風化で不鮮明であるが、ヘラ磨きと思われる。さし込み法。	乳灰褐色 0.5～1㎜の砂粒を多く含む。 良好
19－60 99	溝－1 下層	口径　— 腹径　— 底径　14.6 器高　(15.4)	坏部下半は短く張り、稜をもって上半が立ち上がり、屈曲してのびる。充実の柱部。裾部は段があり、上半はなだらかに下る。	坏・柱・裾部外面はハケ目の後、縦方向のヘラ磨き。坏部内面上半は横方向のヘラ磨き、下半はなでとハケ目。裾端部内外面は横なで。裾部内面はハケ目。裾部上段・下段に円孔を交互に4ヵ所。	淡灰褐色 淡黄濁色(坏部内面)微砂粒を含む。 良好
22－60 100	溝－1 下層	口径　17.8 腹径　— 底径　— 器高　(6.6)	坏部下半は短く張り、稜をもって上半が立ち上がり、屈曲し再び稜をもって斜め上方へのびる。内面も2段に屈曲しており、下面は小さい。	口唇部内外面と2段の稜外面は横なで。坏部内面は横方向、内面下面と上半外面は縦方向のヘラ磨き。他はなで。坏部上半外面に櫛描波状紋と貼付円形浮紋、ヘラ刻目紋。下半外面にヘラ描き裾瘢紋。	淡赤黄色 1㎜前後の砂粒とクサレ礫を含む。 良好
19－61 101	溝－1 下層	口径　11.4 腹径　— 底径　— 器高　(5.7)	椀型高坏。坏部は下位が広く、弯曲して立ち上がり、口唇部で内弯し、丸く終る。	口唇部は内外面とも横なで。坏部外面は横・斜方向、内面は放射状のヘラ磨き。脚部の継ぎ目外面はヘラ押え。	乳黄濁色 精良。 良好
－61 102	溝－1 下層	口径　10.8 腹径　— 底径　— 器高　(5.4)	椀型高坏。坏部は下位から弯曲して立ち上がり、口唇部で内弯し、丸く終る。	口唇部は内外面とも横なで。坏部外面は横方向、内面は放射状のヘラ磨き。	乳灰褐色 1㎜前後の砂粒とわずかに金雲母を含む。 良好
－60 103	溝－1 下層	口径　— 腹径　— 底径　14.8 器高　(10.4)	短く充実した柱部より、ラッパ状に開く裾部。端部は丸く終る。	裾端部から中位まで内外面とも横なで。柱部から裾部外面はヘラ磨きと思われるが、風化のため不鮮明。裾部内面上半はなで。円孔4ヵ所。	乳灰褐色 1㎜前後の砂粒とわずかに金雲母を含む。 良好
－60 104	溝－1 下層	口径　— 腹径　— 底径　15.1 器高　(9.7)	裾広がりの充実した柱部。裾部は内弯ぎみに広がり、端部でわずかに下方へ肥厚する。	裾端部の内外面は横なで。裾部外面はなでの後横方向のヘラ磨き、内面はなでとヘラ押え。柱部外面は縦ヘラ磨き。円孔4ヵ所。	乳黄白色 1㎜前後の砂粒を多く含む。 良好
－60 105	溝－1 下層	口径　— 腹径　— 底径　12.9 器高　(8.6)	裾広がりの充実した柱部。裾部は中位でやや盛り上がり広がり、端部でわずかに外反する。端部は面取りがなされている。	裾端部の内外面は横なで。裾・柱部外面は縦方向のヘラ磨き。裾部内面はハケ目調整。円孔4ヵ所。	淡赤黄色 1～3㎜の砂粒を含む。 良好

図版番号 写真－実測図 土器番号	遺　構	法　量 （㎝）	形　態	技　法	備　考
－60 106	溝－1 下層	口径　— 腹径　— 底径　13.8 器高　(14.6)	やや裾広がりの充実した柱部。裾部は大きく広がり、端部でわずかに内弯し、丸く終る。	裾端部の内外面は横なで。柱・裾部外面は縦方向のハケ目。裾部内面は横方向のハケ目。円孔4ヵ所。	淡灰褐色 0.5～2㎜の砂粒を含む。 良好
－60 107	溝－1 中層	口径　— 腹径　— 底径　15.7 器高　(9.3)	やや裾広がりの充実した柱部。裾部は内弯ぎみに大きく広がり、裾端部は丸く終る。	裾端部の内外面は横なで。柱・裾部外面は縦方向のヘラ磨き。裾部内面は縦方向の後横方向のハケ目。円孔4ヵ所。	淡灰褐色 微砂粒を多く含む。 良好
19－60 108	溝－1 下層	口径　— 腹径　— 底径　14.3 器高　(10.0)	エンタシスの充実した柱部。裾部は短く広がり、段をもってさらに外反ぎみに広がる。裾端部は丸く終る。	裾端部の内外面と段の部分は横なで。柱裾部外面は縦方向のヘラ磨き。裾部内面は縦ハケ目。円孔4ヵ所。	淡灰白色 1～5㎜、10㎜大の砂粒を含む。 良好
－61 109	溝－1 下層	口径　— 腹径　— 底径　16.1 器高　(4.8)	椀型高坏の脚部。短い中空柱部。裾部は内弯ぎみに大きく広がり、端部でわずかに下方へ肥厚する。	裾端部の内外面は横なで。他の調整は風化のため不鮮明ながら、裾部内面は横方向のハケ目、外面はヘラ磨きと思われる。円孔4ヵ所。	淡灰濁色 微砂粒を含む。 良好
－61 110	溝－1 上層	口径　6.1 腹径　— 底径　7.3 器高　6.9	受部下位は内弯ぎみに張り、端部でわずかに水平にのびて、上方へつまみ上げる。充実した柱部。裾部は内弯ぎみに、小さく広がる。	受部端部と裾端部の内外面は横なで。他はなで調整。	淡黄灰色 1㎜前後の砂粒を含む。 良好
19－61 111	溝－1 下層	口径　10.1 腹径　— 底径　11.0 器高　9.5	受部は外反ぎみに広がり、端部では面取りがなされている。受部と脚部が貫通する。中空・裾広がりの柱部。裾部は内弯ぎみに小さく広がる。	受部端部と裾端部の内外面は横なで。受部内面は横、外面と柱・裾部外面は縦方向のヘラ磨き。裾部内面はなで。円孔3ヵ所	淡灰褐色 0.5～1㎜の砂粒を含む。 良好
－61 112	溝－1 中層	口径　8.7 腹径　— 底径　11.5 器高　8.3	受部は外反ぎみに広がり、端部で上方へわずかにつまみ上げ、面取りがなされている。短い充実の柱部。裾部は受部径より大きく広がり、端部でわずかに内弯する。	受部端部と裾端部の内外面は横なで。受部内外面は放射状に、柱部中位から裾部外面に縦ハケ目の後縦ヘラ磨き。裾部内面横ハケ目。柱部上部と裾部内面上部はなで。円孔4ヵ所	淡灰黄色 1～2㎜の砂粒を含む。 良好
－61 113	溝－1 中層	口径　9.7 腹径　— 底径　10.7 器高　8.8	受部は斜上方へのび、端部で大きくつまみ上げ、面取りがなされている。短い柱部から内弯ぎみに広がる。裾端部はわずかに外方へ肥厚する。	受部端部と裾端部の内外面は横なで。受部内面は放射状、外面は横方向のヘラ磨き。裾部外面は縦ヘラ磨き。柱部外面は指押え。裾部内面はなで。円孔4ヵ所。	淡灰黄色 1～3㎜の砂粒を含む。 良好
－61 114	溝－1 下層	口径　9.4 腹径　— 底径　— 器高　(6.3)	受部は斜上方へ内弯ぎみにのび、端部で上方へつまみ上げる。柱部は非常に短く、大きく裾部が広がる。	受部端部は内外面とも横なで。受部内面は放射状・横方向、外面は放射状のヘラ磨き。裾部は斜方向のヘラ磨き。柱部外面と裾部内面はなで。円孔4ヵ所。	淡乳黄色 1～3㎜の砂粒を含む。 良好
22－61 115	溝－1 中層	口径　— 腹径　— 底径　12.6 器高　(5.5)	鼓型器台。受部と裾部の接合部が大きくくびれる。受部は稜をもって内弯ぎみに立ち上がり、内面も内弯ぎみ。裾部も稜をもって外反ぎみに広がり、脚部外面にも稜がみられる。	裾端部の内外面と裾・受部の稜外面は横なで。受部内面はヘラ磨き。裾部内面上半はヘラ削り。他はなで。	淡灰黄色 1㎜程の砂粒を含む。 良好
20－61 116	溝－1 下層	口径　8.9 腹径　8.3 底径　3.4 器高　8.4	最大腹径がやや上位にある深い体部。頸部はわずかにくびれる。口縁部は短く外反する。中央が凹む平底。	口縁部は内外面とも横なで。体部は内外面ともなで。	淡灰濁色 1～3㎜の砂粒を含む。 良好
－61 117	溝－1 中層	口径　8.2 腹径　— 底径　3.2 器高　6.9	体部は底部より内弯ぎみに立ち上がる。頸部でわずかにくびれ、口縁部は斜上方へのびる。平底。	口縁部は内外面とも横なで。体部は内外面ともなで。底部は指押え。	淡灰褐色 微砂粒を含む。 良好

図版番号 写真－実測図 土器番号	遺　構	法　量 (cm)	形　態	技　法	備　考
－61 118	溝－1 下層	口径 9.0 腹径 — 底径 2.8 器高 6.8	体部は底部から内弯ぎみに立ち上がる。頸部はわずかにくびれ、口縁部は内弯ぎみに立ち上がり、口唇部は丸く終る。平底。	全体に作りが粗雑で、手捏ね風。口縁部と体部外面にわずかに細かいハケ目が残る。	暗黒色 0.5～1㎜の砂粒を含む。 良好
21－61 119	溝－1 下層	口径 12.8 腹径 — 底径 2.4 器高 12.2	体部は底部から内弯ぎみに立ち上がり、器形は甕に近い。頸部はわずかにくびれ口縁部は上方へ短くのび、口唇部は波打っている。小さな平底。	口唇部内外面は指押え、内面はその後なで。体部外面はなで。体部内面上半はなで。下半はヘラ削り。	灰黄色 微砂粒を含む。 良好
－61 120	溝－1 下層	口径 11.0 腹径 — 底径 1.6 器高 5.7	体部は外上方へ内弯ぎみにのび、口縁部でわずかに外反する。小さな平底。	口縁部内外面とも横なで。体部内面下位にヘラ押え。他は風化のため不鮮明であるが、なでと思われる。	淡灰褐色 0.5～2㎜の砂粒を多く含む。 良好
－61 121	溝－1 中層	口径 9.7 腹径 — 底径 1.8 器高 5.8	小さな底部から内弯ぎみに斜上方へたち上がる。口唇部は器壁が薄く、丸く終る。	口唇部の内外面は横なで。他はなで。	淡灰白色 微砂粒を含む。 良好
20－61 122	溝－1 下層	口径 11.8～13.2 腹径 — 底径 2.8～3.4 器高 7.8	器型全体が楕円形にゆがんでいる。体部は底部より内弯ぎみに立ち上がる。頸部はわずかにくびれ、口縁部は斜上方へ短くのびる。平底。	口縁部の内外面は弱い横なで。体部外面は放射状の叩き目、その後一部なで。内面は、放射状に強いなで上げ。	茶灰色 1～2㎜の砂粒を含む。 良好
20－61 123	溝－1 中層	口径 9.7 腹径 — 底径 1.8 器高 5.8	丸底風の小さな平底。体部は内弯ぎみに立ち上がり、口縁部でわずかに外傾する。	口縁部は内外面とも横なで。他はなで。	淡黄灰色 微砂粒を含む。 良好
－61 124	溝－1 下層	口径 12.3 腹径 — 底径 — 器高 10.0	丸底風の削り底。体部は外上方へのび、中位より上方へのびる。頸部はわずかにくびれ、口縁部は短く外反する。口唇部は外面にわずかに肥厚する。	口縁部は内外面とも弱い横なで。体部は叩き目。底部はなで、ヘラ削り、体部内面はなで。内面底部は指押え。	淡灰黄色 1～2㎜の砂粒を含む。 良好
21－61 125	溝－1 下層	口径 11.8 腹径 — 底径 — 器高 9.5	丸底風の底部から、内弯しながら立ち上がる体部。頸部はわずかにくびれ、口縁部は内弯して斜上方へのびる。	口縁部の内外面は横なで。体部外面は叩き目の後なで。内面はなで。底部は強いなで。	淡灰白色 0.5～3㎜の砂粒を含む。 良好
－61 126	溝－1 中層	口径 9.3 腹径 — 底径 — 器高 7.6	尖底ぎみの底部より、内弯ぎみに立ち上がる体部。頸部はわずかにくびれ、口縁部は外反ぎみに立ち上がる。	口縁内外面・体部外面なで、体部内面はヘラなで。粘土紐が残り、粗雑なつくり。	灰褐色 1㎜程度の砂粒を含む。 良好
－61 127	溝－1 下層	口径 9.6 腹径 — 底径 — 器高 6.2	尖底の底部より、外上方へのび、さらに内弯ぎみに立ち上がる体部。頸部でわずかにくびれ、口縁部はわずかに外反する。頸部内面に稜がある。	口縁部は内外面とも横なで。体部・底部は内外面ともなで。	淡灰濁色 微砂粒を多く含む。 良好
－61 128	溝－1 下層	口径 8.6 腹径 — 底径 — 器高 5.8	丸底の底部。体部は内弯ぎみで立ち上がる。頸部でわずかにくびれ、口縁部は短く外反する。	口縁部は内外面とも横なで。体部内外面はなで。	乳黄白色 1㎜前後の砂粒を含む。 良好
20－61 129	溝－1 下層	口径 10.1 腹径 — 底径 1.4 器高 7.0	尖底ぎみの小さな平底。体部は斜上方へ内弯ぎみに立ち上がり、頸部でわずかにくびれる。口縁部は短く外反し、口唇部は断面三角形で終る。	口縁部内面はハケ目。他はなで。	乳灰黄色 0.5～3㎜の砂粒を含む。 良好

図版番号 写真－実測図 土器番号	遺　構	法　量 (cm)	形　態	技　法	備　考
21－61 130	溝－1 下層	口径 10.8 腹径 — 底径 1.4 器高 8.6	尖底ぎみの小さな平底。体部は内弯ぎみに立ち上がり、頸部はわずかにくびれる口縁部は短く外反する。	口縁部は内外面指押え、その後内面はハケ目。他は全面なで。	淡灰黄色 1～5㎜程の砂粒を多く含む。 良好
－61 131	溝－1 中層	口径 11.0 腹径 — 底径 — 器高 9.9	丸底風の底部から、斜上方へ立ち上がる体部。頸部でわずかにくびれ、口縁部は短く外反する。口唇部は断面三角形で終る。	口縁部外面は叩き目の後、弱い横なで、同内面はその後ヘラ磨き。体部外面は叩き目の後、なでと荒いヘラ磨き。体部内面はヘラなで。底部外面は叩き目。	淡黄灰色(外面) 暗茶褐色(内面) 1～2㎜の砂粒を多く含む。 良好
20－62 132	溝－1 下層	口径 15.2 腹径 — 底径 4.1 器高 7.3	厚手の突出平底。体部は外上方へのび、口縁部で内弯する。口唇部は丸く終る。	口縁部はなで。体部外面はハケ目と思われるが風化によって不鮮明。内面はヘラなで。底部底面に木葉底風のヘラ跡。	乳白黄色 1～3㎜の砂粒とクサレ礫を含む。 良好
21－62 133	溝－1 中層	口径 11.5 腹径 — 底径 3.4 器高 6.4	平底の底部から、内弯ぎみに立ち上がる体部。	口唇部は指押えの後、弱い横なで。体部外面は叩き目。体部内面と底部底面はなで底部内面はヘラ押え。	淡赤黄色 1～2㎜の砂粒を含む。 良好
22－62 134		口径 17.4 腹径 — 底径 3.1 器高 8.3	平底。体部は外上方へのび、口縁部で外反する。	口縁部は内外面とも横なで、内面はその後横方向のヘラ磨き。体部外面は風化のため不鮮明ながらヘラ磨き、内面もヘラ磨き。底部内外面ともなで。	淡灰濁色 1～3㎜の砂粒を含む。 良好
20－62 135	溝－1 上層	口径 14.6 腹径 — 底径 1.0 器高 8.1	尖底ぎみの平底より、外上方へ立ち上がる体部。口唇部は丸く終る。	口唇部は無調整。体部外面は右上りの叩き目。内面はハケ目。底部外面はヘラ削り。	乳黄白色 1㎜程の砂粒を含む。 良好
22－62 136	溝－1 下層	口径 31.8 腹径 31.3 底径 — 器高 (15.7)	腹径が大きく張り、頸部近くある。頸部はくびれる。口縁部は短く外反し、外面へ肥厚し、稜をもって斜上方へのびる。口唇部は外面へ肥厚する。	口縁部内外面と頸部外面は横なで。体部外面ハケ目。内面は上半はなで、中位はハケ目。	淡灰褐色 1～2㎜の砂粒を含む。 良好
－62 137	溝－1 中層	口径 9.8 腹径 — 底径 5.0 器高 5.5	体部は内弯ぎみに立ち上がり、口縁部でさらに内弯する。底部は厚手の大きい突出平底。	口唇部は指押え。体部は内外面ともなで。底部は指押え。全体に粘土紐の跡が残り、粗雑なつくり。	乳黄濁色 微砂粒を含む。 良好
20－62 138	溝－1 中層	口径 8.6 腹径 — 底径 4.7 器高 5.8	体部は内弯ぎみに立ち上がり、口唇部は断面三角形で終る。厚手の低い台部、台部中央がわずかに凹んでいる。	口唇部は内外面とも横なで。体部は内外面とも雑なヘラ磨き。台部指押えの後、なで。	乳黄灰色 1～5㎜の砂粒を含む。 良好
－62 139	溝－1 下層	口径 10.8 腹径 — 底径 5.5 器高 7.5	体部は斜上方へ立ち上がり、口縁部で内弯する。口唇部は断面三角形で終る。厚手の低い台部、台部中央が凹んでいる。	口唇部は内外面とも横なで。体部は内外面とも雑なヘラ磨き。台部外面・下面は指押え。	明赤白色 微砂粒を含む。 良好
22－62 140	溝－1 下層	口径 12.0 腹径 — 底径 — 器高 (14.5)	体部は上方へ立ち上がる高い器形。口縁部は短く、わずかに外反する。脚あるいは台がつくものと思われ、製塩土器に似ている。	口縁部内外面は指おさえ。体部外面は叩き目。内面はなで。	淡黄灰色 1～5㎜の砂粒を含む。 良好
21－62 141	溝－1 上層	口径 14.7 腹径 — 底径 — 器高 12.8	尖底。体部は斜上方へ立ち上がり、深い口唇部は器壁が薄くなり、断面三角形で終る。	口縁部は叩き目の後、内面指押え、外面なで。体部・底部外面叩き目の後、体部上半はなで。体部内面は強いなで上げ。 1孔(厚さ1.4cm)	淡黄灰色 1㎜前後の砂粒を含む。 良好

図版番号 写真－実測図 土器番号	遺　構	法　量 (cm)	形　態	技　法	備　考
－62 142	溝－1 下層	口径 13.4 腹径 — 底径 2.3 器高 9.6	尖底風の平底。体部は底部から斜上方へ立ち上がり、中位でやや張り出す。口唇部でわずかに肥厚し、断面三角形で終る。	口唇部は内外面とも弱い横なで。体部外面は叩き目、内面はなで。内面底部は指押え。1孔(厚さ2.2cm)	淡灰黄色 1mm前後の砂粒と6mm大の小石を含む。 良好
21－62 143	溝－1 上層	口径 14.5 腹径 — 底径 — 器高 9.3	尖底。体部は斜上方へ立ち上がる。口唇部は丸く終る。	口唇・体・底部外面は叩き目。体部内面上半はハケ目、下半はなで。1孔(厚さ1.6cm)	乳黄白色 2～3mmの砂粒と小石を含む。 良好
21－62 144	溝－1 上層	口径 15.9 腹径 — 底径 1.1 器高 8.9	丸底風の小さな平底。体部は外上方へのび、中位より上方へ立ち上がる。口縁部で短く外反する。口唇部は断面三角形で終る。	口縁部は内外面とも横なで。体部外面は叩き目、内面はなで。底部外面は叩き目の後なで。中心よりずれた位置に1孔(厚さ0.7cm)	淡黄白色 2～4mmの砂粒を含む。 良好
22－62 145	溝－1 中層	口径 14.4 腹径 — 底径 — 器高 8.1	尖底。体部は斜上方へ立ち上がり、口径に比較して浅い器形。口唇部は断面三角形で終る。	口唇部は内外面とも弱い横なで。体部外面上半は無調整、下半から底部は叩き目。体部内面はハケ目、底部は指押え。1孔(厚さ1.0cm)	淡灰黄色 1～3mmの砂粒を含む。 良好
－62 146	土壙－10	口径 9.9 腹径 — 底径 — 器高 1.6	土師小皿。口縁部は外反し、口唇部で上方へ肥厚する。	口縁部は内外面とも横なで。他はなでと思われるが、摩耗・風化が著しく不鮮明。	乳赤白色 精良(クサレ礫を含む) 良好
－62 147	土壙－10	口径 15.2 腹径 — 底径 5.4 器高 5.7	瓦器椀。体部・口縁部は内弯ぎみに立ち上がる。高台は断面台形で低い。	口縁内外面は横なで。体部内面は丁寧・密な暗紋、外面は細かいが、雑な暗紋。見込み部は平行線状暗紋。高台は貼り付け。口縁部内面にわずかな凹みがある。	銀黒色 胎土－灰白色 精良 良好

Ⅲ　東奈良遺跡(88－８)　H・N　G－２－K・O地区

1.　調査経過

所 在 地　茨木市天王２丁目

調査面積　180m²

調査期間　昭和63年10月19日～同年11月22日

届出理由　共同住宅建設

当調査地区周辺は、阪急京都線南茨木駅に隣接するため、高層マンションが立ち並ぶ地域である。それとともに、埋蔵文化財の発掘調査も進んでおり、遺跡の環境もおおよそ把握されている。そのなかで当地区は、古墳時代前期の集落と北北西から南東に連なる大溝の西側に位置し、当地区以西では旧境川の影響もあり同時代の遺跡が検出されないことから、集落の西端に位置すると思われているところである。また、当地区北約20m、南東約50mでは、古墳時代前期の土壙が市松状に３列に連なって検出されており、その様子から土壙墓群ではないかと考えられている。

昭和63年８月23日、マンション建設に伴う埋蔵文化財確認調査依頼を受けて、試掘調査を実施した結果、現ＧＬ－1.8mに遺物包含層を検出したため、発掘調査の必要があることを依頼者に報告する。その後、依頼者と茨木市教育委員会と協議の結果、昭和63年10月19日から発掘調査を実施することが決定した。しかし、検出残土の関係から調査地区を南北に二分して調査を実施することになった。

2.　層　　位(図版41)

当調査地区の基本層位は、約1.4mの造成土下に耕土、淡灰色砂質層・淡青灰色粘質土層(床土)、淡青灰色砂質層、茶黄色砂質層、弥生時代後期から鎌倉時代にかけての土器片を僅かに含む淡茶灰色粘質砂層・茶灰色粘質土層(一部暗灰色粘土層)、弥生時代後期から古墳時代前期にかけての生活面である灰濁色粘質砂層(一部同粘土層)に分けられる。なお、弥生時代後期から古墳時代前期の生活面の標高は、6.64～6.30mを測り、北から南へ僅かづつ低くなっている。

3.　遺　　構(図版41)

当調査地区から検出された遺構は、弥生時代後期から古墳時代前期の溝５条、土壙７基である。

溝

今回検出された７条の溝は、調査地区内を縦横に交差しながら連なっており、各溝とも出土遺物が少なく時期差がつかめないが、重複関係から溝３・６は他の溝より古いものと思われる。

溝－1

溝－1は、調査地区内を北から南南西に連なる幅2.4m、深さ0.5mを測る断面U字形の溝。溝底部は、北から南へ僅かづつ低くなっている。溝内には、上層には無遺物の淡青緑色粘土層、溝肩から中層にかけては暗灰色・黒色粘土層、下層には灰色粘土層がレンズ状に堆積し黒色・灰色粘土層から古墳時代前期の土器が検出された。また、層位的には溝－3・6、土壙－5埋没後に造られており、とくに溝－3の底部の一部が溝内に残存していた。

溝－2

溝－2は、調査地区中央を東西に連なり、土壙－4の手前でとぎれる溝。溝は、南肩が2段に掘り込まれており、幅1.7～2.5m、深さ0.26mを測る。溝内には、上層に淡青緑色粘土層、淡灰色砂層、淡灰色粘土層が堆積し、淡灰色砂層から僅かながら古墳時代前期の土器片が検出された。

溝－3

溝－3は、調査地区北部を東西に連なる幅2.8m、深さ0.62mを測る断面U字形の溝。溝底部は、西から南へ僅かづつ低くなっている。溝内には、上層に淡青緑色粘土層、下層に黒色粘土層が堆積していたが、遺物は全く検出されなかった。また溝－3は、溝－1・土壙－3埋没後に掘られたものであることが層位的に確認されたが、溝－1以東では平面・断面では確認されないことから、とぎれるか南へ蛇行していたものと思われる。

溝－4

溝－4は、調査地区南部を東西に連なる幅1.0～1.75m、深さ0.1～0.13mを測る浅い溝。溝は、西から東へ溝幅が狭まり、溝底部も起伏がある。溝内には、灰色砂層が堆積していたが、遺物は全く検出されなかった。

溝－5

溝－5は、調査地区南部を東西に連なり、中央部でほぼ直角に屈曲して、溝－6と重複し、南へ伸びる幅0.4～0.75m、深さ0.12～0.15mを測る断面U字形の溝。溝内には、灰濁色粘質砂層が堆積するが、遺物は全く検出されなかった。

溝－6

溝－6は、調査地区内を各溝と交差・重複しながら南北に連なる幅1.1～2.0m、深さ0.66～0.78mを測り、溝底部は北から南へ僅かづつ低くなっている。溝内には、11層に分けられる砂・砂質層が堆積していたが、遺物などは全く検出されなかった。溝－6は、北半調査時には溝自体の上層を灰色粘土が堆積し、生活面と同色であったため確認できなかったが、溝－1の西肩・溝底部の一部が砂層であったことから溝－6が連なっていたものと思われる。

土壙

当調査地区から検出された土壙7基は、前記したようにH・N　G－2－C・P・G・H地

区(昭和48年度調査)検出の21基、同H－2－D・H－3－A地区(昭和48年度調査)検出の8基の墓と思われる土壙群と形態・規模が似ていることから、土壙墓の可能性がある。

土壙－1

土壙－1は、調査地区中央部で検出された長軸2.05m、短軸1.4m、深さ0.2mを測る楕円形摺りばち状土壙。土壙内には、黒色粘土と淡青灰色粘土の互層・淡灰色砂質粘土層・灰色砂層が堆積し、黒色粘土から古墳時代前期の土器片が検出されている。

土壙－2

土壙－2は、調査地区の北西部でその一部を検出したのみであるが、西壁面土層から推定される規模・形態は、長軸約3.4m、短軸1.1m以上、深さ約0.42mを測り、長軸をほぼ南北に取る円形摺りばち状土壙である。土壙底部は、南側が一段低くなっている。土壙内には、上層より青灰色粘土層、灰色粘土層、黒色粘土層、暗灰色粘土層が堆積し、とくに黒色粘土層は炭化物を含み、土壙の掘り方に沿って薄く三日月状に堆積しており、古墳時代前期の土器片が検出された。

土壙－3

土壙－3は、同じく調査地区の北西部でその一部を検出したのみであるため明確でないが、西壁面土層から推定される規模・形態は、長軸2.9m以上、短軸0.8m以上、深さ0.25m以上を測り、長軸をほぼ南北にとる楕円形摺りばち状土壙と思われる。土壙内には、同じく青灰色粘土層・黒色粘土層・暗灰色粘土層が堆積し、黒色粘土層は炭化物を含み、掘り方に沿って薄く三日月状に堆積している。しかし、遺物は全く検出されなかった。

土壙－4

土壙－4は、調査地区中央部で検出された長軸2.6m、短軸1.5m以上、深さ0.57mを測り、長軸をほぼ南北にとる楕円形摺りばち状土壙。土壙内には、上層から淡茶灰色砂質層、灰濁色粘質砂層、暗灰色粘土層(炭化物を含む)、青灰色粘土層、灰色粘土層が堆積しているが遺物などは全く検出されなかった。

土壙－5

土壙－5は、溝－1によって土壌の約1/2が削平されている。土壙は、径1.6m、深さ0.41mを測る円形摺りばち状土壙と考えられ。土壙内には、灰濁色粘土層・灰色粘土層・黒灰色粘土層(炭化物を含む)・暗灰色粘土層が堆積していたが、遺物などは全く検出されなかった。

土壙－6

土壙－6は、同－4の南約1mにその一部が検出された。土壙の形態は、変形楕円形摺りばち状土壙と思われ、規模も長軸2m以上、短軸1.2m以上、深さ0.5m以上と思われるがいずれも明確でない。土壙内には、灰色粘土層(炭化物を含む)・青緑色粘土層が堆積していたが、遺物などは全く検出されなかった。

土壙－7

土壙－7は、調査地区の南東でその一部が検出され、北側は溝－5によって削平されている。そのため形態・規模は明確でないが、東壁面土層を参考に推定すると、長軸3m以上、短軸1.4m以上、深さ0.4m以上の隅丸長方形の土壙と思われる。土壙内には、青緑色粘土層(炭化物を含む)・淡青緑色砂質粘土層・同粘土層・淡灰色粘土層が堆積していたが、遺物などは全く検出されなかった。

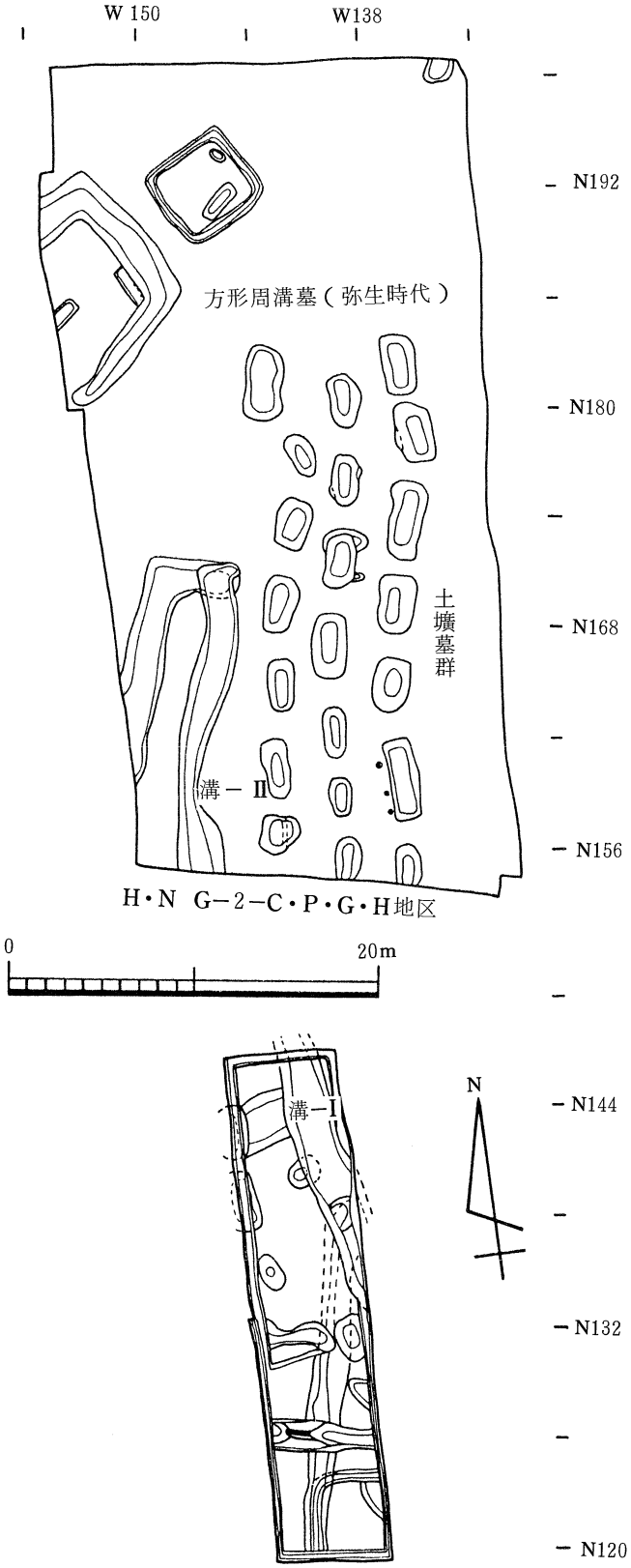
4. 遺　物

今回検出された遺物は、包含層・溝－1を中心に弥生時代後期から中世にかけての土器が、細片で総数340点と少なかった。そのなかで、僅かに溝－1から古墳時代前期(東奈良遺跡土師器編年Ⅲに位置する)甕・壺型土器が3点出土したが、摩耗が著しく図示はできなかった。

5. 結　語

当調査地区は、調査範囲が南北に狭長で狭いうえ、出土遺物も少ないため、7基の土壙と6条の溝の性格を把握することは困難であった。しかし、約10mの隔たりをもって隣接する昭和48年度調査のG－2－C・P・G・H地区とは、密接な関係があるものと思われ、当調査地区検出の遺構を考えるのに重要な参考資料である。

昭和48年度調査のG－2地区からは、弥生時代中期の方形周溝墓2基、同方形周溝状遺構2基、古墳時代前期の土壙墓群と思われる土壙21基、同中期の円形周溝1基、その他溝状遺構などが検出されており、あたかも弥生時代から古墳時代にかけての墓域を思わせる所であった。そのなかで、今回の調査地区とつながりがあると思われる遺構は、土壙と溝である。つながりのある溝としては、当地区の溝－1と昭和48年度調査の溝－Ⅱとは、溝の方向・規模・出土遺物が同じであることから同一の溝であると思われる。溝－Ⅱは、土壙墓群の墓域と他の地区とを区画すると思われていた溝であったが、溝の西側にも土壙が存在することから、それが当てはまらないことが判明した。また、土壙に関しては、昭和48年度調査の土壙が長軸2.1～4.25m、短軸1.25～2.1mの隅丸長方形の土壙が3列に市松状に整然と連なり、そのうち14基から多量の土器が検出されたのに対して、今回検出された土壙はその全容を検出していないため明確でないが、整然とした連なりはみられないものの土壙－1～4・7がその規模・形態や僅かに出土している遺物から同じ性格をもつ土壙墓群の一部であると思われ、土壙墓群がさらに西側へ広がっていることが判明した。しかし、今回の調査地区の西側の試掘調査では、遺構・遺物ともに検出されていないことから、さらに西へは広がらないと思われる。



挿図－1　H・N G－2－K・O地区とG－2－C・P・G・H地区との遺構関連図

Ⅳ　東奈良遺跡(88－9)H・N　K－1－A・B・E地区

1.　調査経過

所 在 地　茨木市天王

調査面積　280㎡

調査期間　平成元年1月9日～同年1月31日

届出理由　共同住宅建設

当地区の現状は、西側に大正川、東側に阪急京都線が走り、その両堤に囲まれた低地に位置する。現在のところ当地区付近では、数多くの試掘調査を実施しているものの遺構・遺物の検出例は少なく、北側約100mの天王小学校のグランドから古墳時代前期の壺棺1基と中世頃の掘立柱建物群が検出されたのが唯一の例である。それらの点と東約200mの沢良宜西集落では中世頃の遺物が多く検出される点から、現大正川に沿っては近世を含み遺物は少なく、東奈良遺跡の西端と考えられているところでもある。

昭和63年10月12日、マンション建設に伴う埋蔵文化財確認調査依頼を受けて試掘調査を実施したところ、耕土面下約0.6mで遺物は含まないものの包含層らしき茶灰色粘土層が検出されたことから、発掘調査の必要があることを依頼者に報告する。その後、依頼者と茨木市教育委員会と協議の結果、平成元年1月9日から発掘調査を実施することが決定した。

2.　層　　位(図版43・44)

当地区の層位は、上層から耕土、茶灰色・淡茶灰色砂質層(床土)、淡灰色・淡茶灰色粘質土層(古墳時代後期から中世頃の土器片を僅かに含む)、生活面の黄色粘土層(一部砂質粘土層)に分けられる。なお、生活面の標高は5.95～6.03mを測り、東から西へ僅かに低くなっている。

3.　遺　　構(図版43・44)

当地区から検出された遺構は、方形周溝状遺構1基、溝2条、土壙3基、柱穴跡9穴と他の地区に比較して、予想されたように少なかった。また、遺構自体も規模に比較して検出時の深さが浅く、包含層検出の遺物も時代幅があり細片化・摩耗していることから、後世に削平されたものと思われる。

方形周溝状遺構

方形周溝状遺構は、幅2.5～3.5m、深さ0.04～0.27mを測る溝がN－46°－W(N－56°－E)にとって方形に回っている。溝に囲まれた台状部は、北東－南西軸長約15.5m、北西－南東軸長11m以上を測る。溝の一部はさらに北東に延びていることから、北東に溝を共有して1基存在するものと思われる。周溝は、北東と北西の溝の底部に僅かに落差があ

るものの、他はほぼ平坦である。溝内には、暗茶灰色粘土層(一部茶灰色)、茶灰色粘土と黄色粘土の互層が堆積しており、古墳時代後期から中世にかけての土器片が僅かに検出された。

土壙－1

土壙－1は、方形周溝状遺構の台状部内のほぼ中央部に位置し、長軸2.0m・短軸1.2～1.6m・深さ0.47mを測る隅丸長方形摺りばち状土壙。土壙内には、生活面の土質とよく似た黄褐色粘質土層が堆積していたが、遺物は全く検出されなかった。土壙の長軸が、方形周溝状遺構の周溝と一致することから何らかの関係があるものと思われる。

土壙－2

土壙－2は、方形周溝状構の北西溝上に位置し、長軸1.1m、短軸0.36m、深さ0.09mを測る小形の楕円形土壙。土壙には、淡灰色砂質層が堆積していたが、遺物は全く検出されず、層位的には溝埋没後に掘られている。

土壙－3

土壙－3は、方形周溝状遺構の南西溝の外側に位置し、長軸0.52m、短軸0.4m、深さ0.16mを測る小形の楕円形土壙。土壙には、灰色砂質層が堆積していたが、遺物は全く検出されなかった。

溝－1

溝－1は、方形周溝状遺構の南西溝埋没後に掘られた溝で、幅0.56m、深さ0.08mを測り、検出長4.7mでとぎれる。溝内には、茶灰色砂質層が堆積しており、少量の炭化物が検出された。

溝－2

溝－2は、調査地区西部に僅かに検出された幅0.4m、深さ0.06mの溝。溝内には、暗茶灰色粘土層が検出されたが、遺物は全く検出されなかった。

柱穴跡

柱穴跡は、方形周溝状遺構の台状部や周溝内に散在して検出された。柱穴は、径0.2～0.3m、深さ0.1～0.3mを測るが、検出数が少ないため建物などは復元できなかった。

4. 遺　物

当調査地区から検出された遺物は、非常に少なく、古墳時代後期から中世(12世紀)にかけての土器片が総点数約80点であった。そのなかで、図示できるものはなかった。

5. 結　語

当調査地区から検出された方形周溝状遺構は、周溝内から古墳時代後期(6世紀末)から中世にかけての遺物が検出されており、包含層と同じく時期幅が広く遺構の時期を限定できなかった。また、台状部から検出された遺構は、土壙1基と僅かな柱穴跡のみであった。

さらに周辺地区の調査は天王小学校のグランドのみであり、それも中世の掘立柱建物跡と古墳時代前期の壺棺以外検出されていないことから、関連遺構・遺物も少なく方形周溝状遺構の性格は判明しなかった。

挿図－2　H・N　K－I－A・B・E地区　東壁面方形周溝状遺構土層断面

V　東奈良遺跡(88－10)H・N　H－4－A・B地区

1.　調査経過

所 在 地　茨木市沢良宜西1丁目

調査面積　312m²

調査期間　平成元年3月9日～同年4月19日

届出理由　共同住宅建設

当調査地区周辺は、十数年前に開発が進み一時期中断していたが、昭和62年頃から再びマンション建設ブームが起こり、今回の調査地区の発掘調査によってH－4地区(108m四方)の調査をほぼ終了したことになる。その内、昭和61・63年度発掘調査概報(茨木市教育委員会)でH－4－B、同－C地区、I－4－B・C・F・G地区を報告し、その他は今回の概報で報告することになる。それらの調査によって、H－4、I－4地区一帯は、弥生時代中期から古墳時代前期にかけての大形の溝が集中するところであることが判明した。

昭和63年12月14日、マンション建設に伴う埋蔵文化財確認調査依頼を受けて、試掘調査を実施した結果、現GL－0.5mから土師器片を包含する淡茶灰色粘質土層が検出され、周辺部の調査からも遺構・遺物が検出されていることから、発掘調査の必要があることを依頼者に報告する。その後、依頼者と茨木市教育委員会で協議の結果、平成元年3月9日より発掘調査を実施することが決定した。

2.　層　　位(図版47・48)

当調査地区の層位調査は、東・南・西壁面を利用して行った。上層から耕土、灰黄色砂質土層(床土)、茶灰色砂質層・淡茶灰色砂質層(包含層)、以下調査地区の北東から南西部にかけては白濁色微砂質層・灰色粘質土層の古墳時代前期頃の生活面が広がる。他の地区は、東から南東に連なる同時期の溝状遺構の砂・砂質層が複雑に堆積している。さらに下層は、西から南東、北西から南東へ連なる大形の溝状遺構のため、調査地区のほぼ全域が溝に含まれ、80層以上に分けられる砂・砂質層、植物遺体層が互層状態を成し複雑に堆積している。以下地山の緑灰色粘質土層、黒色粘土層、淡灰色粘土層、黒色粘土層、淡灰色粘土層、淡青灰色砂質層が続き、溝状遺構の底部は淡青灰色砂質層である。

なお、古墳時代前期頃の生活面の標高は6.34～6.43mを測り、北から南へ僅かに低くなっている。下層の弥生時代中期から古墳時代前期の溝状遺構の溝肩の標高は、全域が溝であるため明確でないが、最も高い溝肩で6.09m、低い所では5m前後である。

3.　遺　　構(図版45～48)

当調査地区からは、2面の生活面が検出され、溝4条以上、土壙5基、掘立柱建物跡1棟を含む柱穴跡40穴などが検出された。そのなかで溝は、調査地区内を弥生時代中期から

古墳時代前期にかけての大形の溝が、互いに重複しながら縦横に走るため、規模・形態・数が明確でないところがある。

第Ⅰ遺構面

掘立柱建物跡

掘立柱建物跡は、第Ⅰ生活面北西部に位置する。建物は、桁行4間(桁行長4.55m)・梁行2間(梁行長4.0m)を測り、建物の主軸(梁行)はN－23°－Wにとる。両梁妻側の柱穴跡は、他のものより小形であり、同規模のものが棟に沿って検出された。両梁行の掘り方は、径(長軸)0.5～0.7m、深さ0.45～0.63m、柱自体の穴径は0.2m前後を測る。それに対して、棟に沿った柱穴跡は径0.16～0.22m、深さ0.10～0.22mの小形である。掘立柱建物跡は、建物・柱穴の規模から倉庫のようなものと思われ、柱穴跡出土の遺物と層位関係より古墳時代前期頃のものと考えられる。

他の柱穴跡からは、建物などは復元できなかったが、出土遺物より同時期のものと思われる。今回検出された柱穴跡は、いずれも後述する大形の溝埋没後の軟弱な地盤上に掘られており、重量のある建物を支えることができないことから、柱穴跡の規模に比べて小形のものであったと考えられる。

土壙

土壙Ⅰ－1(挿図－3)

土壙Ⅰ－1は、調査地区西部で掘立柱建物跡の南側で検出され、土壙Ⅰ－2と重複している。土壙は、長軸をほぼ南北にとり、長軸0.90m、短軸0.83m、深さ0.31mを測る円形に近い楕円形摺りばち状を成す。土壙内には、茶灰色粘質土層、炭化物を含む灰色粘質土層、灰色粘質土と白灰色砂質層の互層が堆積し古墳時代前期の壺・甕形土器が検出された。

土壙Ⅰ－2

土壙Ⅰ－2は、同Ⅰ－1と重複・削平されている。土壙の推定規模・形態は、長軸を北西－南東にとり、長軸2.2m、短軸1.6m、深さ0.25m程の楕円形摺りばち状土壙と思われる。土壙内には、灰色砂質層が堆積し古墳時代前期の土器細片が検出された。

土壙Ⅰ－3

土壙Ⅰ－3は、長軸を北西－南東にとり、長軸3.5m、短軸2.6m、深さ0.21mを測る浅い変形楕円形の大形土壙。土壙内には、5層に分けられる土層がレンズ状に堆積し、上層は茶褐色粘質土に黄色粘質土が混入していることから埋め固められた可能性がある。下層の暗灰色粘質土層より古墳時代前期の土器細片が検出された。

土壙Ⅰ－4

土壙Ⅰ－4は、調査地区北部に位置する長軸1.36m、短軸1.26m、深さ0.21mを測る隅丸方形の土壙。土壙内には、茶灰色砂質粘土層・厚さ0.02m前後の炭化物層・淡灰色粘質砂層が堆積していたが、遺物は全く検出されなかった。

溝

溝Ⅰ－1

溝Ⅰ－1は、調査地区南東部全体が1/4円状に砂層が広がっており、溝状遺構の形態を成していた。溝は、溝の上に溝が流れる自然流路の形態を成すため、プランで溝の連なりを検出するのは困難であった。東・南の土層断面からみると、東断面に2回に分けられる溝状遺構の堆積がみられたが、南側では下層の溝との関係からさらに複雑な堆積のため明確でない。土層断面から推測される規模は、幅約6m・深さ1.4mである。

溝Ⅰ－2

溝Ⅰ－2は、調査地区内南西部でその一部を検出したのみであるため、土壙の可能性もある。検出時の深さ0.3m、幅2m以上を測り、内部には暗灰色砂質粘土・同粘土がレンズ状に堆積しており、古墳時代前期の土器が多量に検出された。

第Ⅱ遺構面

第Ⅱ遺構面は、調査地区内全体が溝状遺構の重複であるため、溝の連なりが平面でも断面でも明確に確認できない状態であった。そのなかで、周辺調査地区で検出された溝との関係から、3条以上の溝が重複しているものと思われる。

溝Ⅱ－1

溝Ⅱ－1は、調査地区北部中央から南東にかけて連なるが、調査地区北側で幅1～2mの堤で溝Ⅱ－3と分けられている。調査地区中央で合流し溝も深くなり、南東へ連なる。北側では、幅6～7m、深さ1.5～2.0m、中央から南側では上・中層を溝Ⅰ－1・Ⅱ－2と重複・削平されているため明確でないが、幅9m以上、深さ2.6m以上あったものと推定される溝。溝よりの遺物は、前述したように上・中層を時期の異なる溝との重複のため畿内第Ⅲ様式～古墳時代前期までの幅広い時期のものが検出された。しかし、溝本来の堆積土が残る溝の北部と中・南部の再下層よりは、畿内第Ⅲ～Ⅳ様式が検出され、僅かながら同第Ⅰ様式も含まれていた。

溝Ⅱ－2

溝Ⅱ－2は、調査地区西部から大きく蛇行して南に連なる。溝は、南東部で上層を溝Ⅰ－1と重複しているため削平されている。また堆積土層から、溝自体が蛇行している関係から北から南へ流れが移動している様子が見られた。これらの点から溝の規模は、明確でないが、当初は幅8～10m、深さ1.2～1.6mと推定される。その後南西へ移動した時は、幅は調査地区外に広がるため判明しないが、深さ1m前後浅いことから広範囲に広がっていたものと思われる。溝Ⅱ－2も他の溝との重複関係から、出土遺物は畿内第Ⅲ様式～古墳時代前期までの土器が検出されたが、溝本来の堆積土が残る溝西部下層からは畿内第Ⅲ～Ⅴ様式、流れが南西に移動した後の堆積土からも同時期の土器が検出された。

溝Ⅱ－3

溝Ⅱ－3は、調査地区北東部でその一部を検出したのみである。溝は、その出土遺物時

期から溝II－1と同時期に存在しており、並行あるいは合流して連なっていたものと思われる。溝の規模は、幅が調査地区外に広がるため不明確であるが11m以上、深さ0.7mと推定される。出土遺物は、畿内第III～IV様式が僅かに検出された。

4. 遺　物

当調査地区からは、溝状遺溝を中心に弥生時代前期～古墳時代前期の土器がコンテナーバットに約40箱検出された。しかし、土器量に比較して復元あるいは図示できるものは少なかった。各土器の詳細は、土器表に記述している。

弥生式土器

壺型土器　150は水差型土器、151は口唇部が下方に長く肥厚する壺、152は台付無頸壺、いずれも畿内第III～IV様式の溝II－1出土である。153は短い筒状頸部から口縁部は短く下方へ屈曲する畿内第IV様式の溝II－2出土である。154は長頸壺で溝II－1、155は短頸壺で溝II－2、156は包含層出土のいずれも畿内第V様式である。

甕型土器　157・158は大形の甕、158には肩部に断面三角形の貼付け突帯紋、口唇部と突帯紋にヘラ刻み目紋が施されている。いずれも溝II－1出土の畿内第III～IV様式である。159は小形の甕で溝II－3、160は口径に比較して胴部が大きく張る甕で溝II－1出土、161は肩部が張る甕で溝II－2出土のいずれも畿内第IV様式である。162は体部にヘラ磨きを行う。163口径に比較して器高の高い小形の甕で、いずれも溝II－2出土の畿内第V様式である。

その他　台付無頸壺の台部164、台付鉢の台部165はいずれも溝II－1出土の畿内第IV様式。高坏脚部の166は溝II－1出土の畿内第V様式。167は、坏部が3段に屈曲する畿内第IV様式の溝II－1出土である。168は小形の鉢で包含層出土の畿内第V様式である。

土師器　今回出土した古式土師器は、東奈良遺跡編年(東奈良発掘調査概報I昭和54年)を使用している。

壺型土器　169～173は、腹部が大きく張る球形に近い体部に短い筒状頸部大きく外反する口縁の壺。169は土壙I－1出土、170は溝I－1出土、171は溝II－1出土のいずれも突出平底の東奈良I。172は尖底ぎみの小さな平底の小形の壺で、溝II－1出土の東奈良II～III。173は口唇部が下方に僅かに肥厚して面を持つことから、東奈良Iの溝II－1出土である。174～176は、球形の体部に斜上方へ伸びる直口口縁の中形の壺、177～179は同小形の壺。174・177は、平底の東奈良IIの溝I－3出土。178は、丸底風の小さな平底の東奈良IIIの溝I－1出土。175は溝I－1、176・179は溝II－1出土のいずれも丸底の東奈良IV～Vである。

甕型土器　溝I－1出土の180、溝I－3出土の181は、口径と腹径の差が少ない胴長の体部に、突出ぎみの平底の東奈良I。溝I－1出土の182・183・185、土壙I－1出土の184は、平底の東奈良II。186・187は、いずれも溝I－1出土の叩き目による尖底ぎみの底

部の東奈良Ⅲ。188は、山陰地方の影響をうけた受口状の口縁の東奈良Ⅲ～Ⅳである。

高坏型土器　189は坏部が中位で弯曲し外反し、190は坏部が直線状に延びるもので、いずれも溝Ⅱ－１出土の東奈良Ⅳ～Ⅴである。

器台型土器　191は、山陰地方の影響を受けた鼓形器台と呼ばれているもので、包含層出土である。

鉢型土器　192は器高に比較して、口径の大きい器形の浅鉢で、突出平底の東奈良Ⅰの溝Ⅱ－１出土。193・194は、小形の鉢で底部を指押えをして突出平底ぎみにしていることから、東奈良Ⅰの溝Ⅰ－１出土。195～197は、平底の小形の鉢で、溝Ⅰ－１出土の東奈良Ⅱであるが、197は内外面ヘラ磨きを施し、椀型高坏の坏部と同じ形態をしていることから、東奈良Ⅲの可能性がある。

その他　東奈良Ⅱの甑型土器198、小形器台の脚部199が溝Ⅰ－１から出土している。

石器

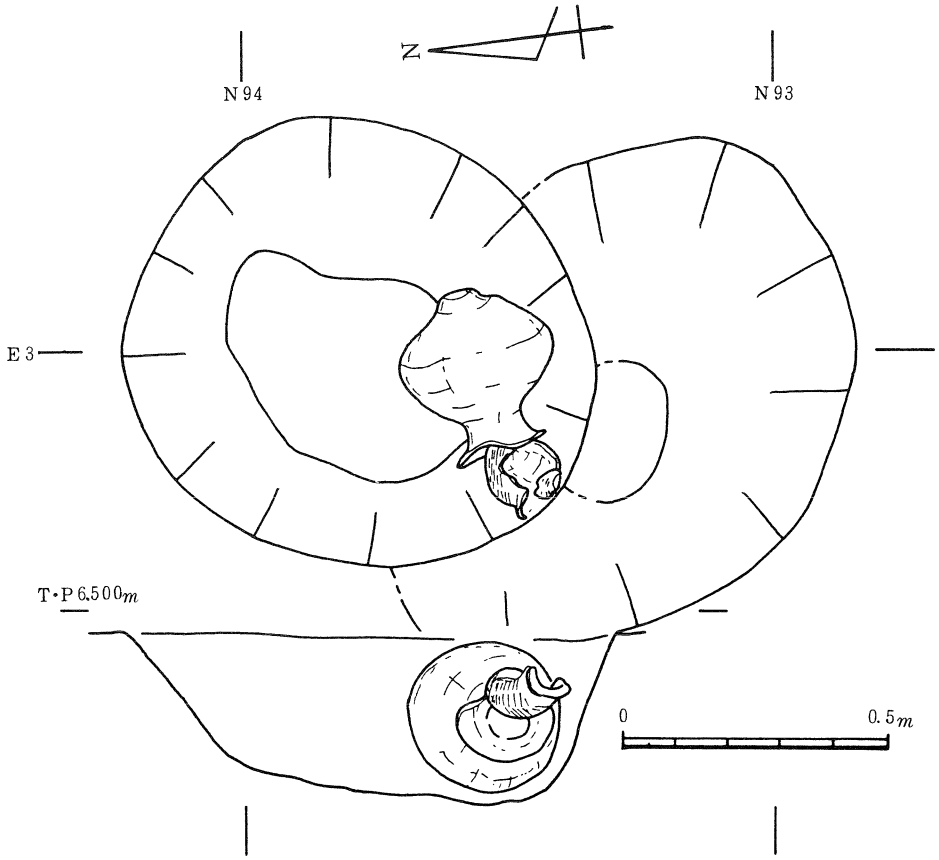
太型蛤刃石斧200は、基部と刃部を斜めに鋭利なもので切られたように破損している。現存長13.4㎝、幅6.2㎝、厚さ4.0㎝、重量355.5ｇを測る。溝Ⅱ－２出土である。

5. 結　　語

当地区は溝Ⅱ－１・２・３、溝Ⅰ－１・２と堆積層からみて、弥生時代中期から古墳時代前期にかけて大形の溝が集中するところであった。各々溝は、基本的には地形の傾斜に沿って北西から南東に連なっているが、当地区では大きく蛇行するものが見られ、さらに溝自体も溝のうえに溝が形成されているため、不安定な地盤による複雑な流れと堆積を成している。この結果、遺物では各溝の形成・廃絶順序を考えるのは困難であるが、周辺の調査で検出された溝と各溝の最下層から出土した土器から、推測してみる。

弥生時代中期中葉頃、東奈良遺跡の北北西から南南東または南東に連なる幅５～８ｍ、深さ２～３ｍの大形の溝が形成された。この溝が当地区では溝Ⅱ－１、南東約17ｍのＨ－４－Ｅ・Ｆ地区(本概報第Ⅰ章参照)では溝－３(Ｅ)、北西約30ｍのＧ－３－Ｌ・Ｐ地区(未報告)では溝Ⅳ－１ｂ、さらに北西から北北西約110～230ｍのＧ－３－Ｂ・Ｃ地区、Ｆ－３－Ｊ地区、Ｆ－３－Ｂ地区(未報告)でも同一規模・同時期の溝が検出されている。この大溝も同中期末頃埋没し、同後期にはその西側に重複あるいは平行して同一の規模の溝が形成された。この溝が当地区では、西から南東へ大きく蛇行する溝Ⅱ－２、南東のＨ－４－Ｅ・Ｆ地区では溝－３(Ｗ)が先の溝－３(Ｅ)とほぼ平行して連なり、北西のＧ－３－Ｌ・Ｐ地区では溝Ⅳ－１ａが溝Ⅳ－１ｂと一部重複・平行して連なる。さらに北西あるいは北北西では同時期の溝は検出されていないが、同中期の溝と重複して存在していたと思われる。再びこの溝も同後期末頃には埋没し、古墳時代前期頃西約50ｍに、ほぼ平行して連なる同一規模の大溝が再び形成された。(本概報第Ⅱ章、東奈良遺跡調査概報Ⅰ　昭和54年、昭和63年度発掘調査概報第Ⅲ章　茨木市教育委員会　平成元年参照)この頃、当地区は溝埋

没後の不安定な地盤上を東から南東に大きく蛇行する溝Ⅰ－1が形成された。この溝が東約5mのH－4－B地区検出の溝－1・2（昭和61年度発掘調査概報Ⅰ第2章　茨木市教育委員会　昭和62年参照）、南東のH－4－E・F地区の溝－2（本概報第Ⅰ章参照）と連なっているものと思われる。また、当地区の溝Ⅰ－1が東から南東へ大きく蛇行する所に、溝に直交する形で杭列と多数の流木が検出されたことと溝が東へ低くなっていることから、井堰を利用して水を西から東へ流していたと思われる。これらの溝も、先の古墳時代前期の大溝が埋没する頃と同じく埋まり、この後当地区では溝は形成されなかった。溝Ⅰ－1が形成された頃、溝Ⅱ－2埋没後の軟弱な地盤上に掘立柱建物・土壙などが作られている。この時期、先の大溝の東側や一部西側で集落が形成されていることから、当地区の一部も好条件とは言えないものの集落圏として利用したものと思われる。今回検出された多くの溝は、いずれもその形態から人工の溝でなく、自然水路であったものと思われる。これらの溝は、砂・砂質土を中心とする土砂で埋まり、出土遺物の時期幅が少ないことからも、短期間の間に埋没していることが考えられ、溝にほとんど手を加えることがなかったものと思われる。その自然水路を改修し、僅かながらも治水できるようになるのは、弥生時代後期から古墳時代前期頃であったと思われる。



挿図－3　H・N　H－4－A・B地区 土壙Ⅰ－1　土器出土状況図

HN　H－4－A・B地区(88－10)弥生式土器観察表　　(　　)は現存値

図版番号 写真－実測図 土器番号	遺構	法量 (cm)	形態	技法	備考
23－63 150	溝II－1 下層	口径 9.2 腹径 — 底径 — 器高 (10.1)	口縁部は、頸部より直線的にのびる直口口唇部でわずかに内弯する。口唇部の一方がえぐられている。	口唇部と口縁内部は横なで。肩部外面に縦ハケ目。他は風化によって不明。口唇口縁部外面に凹線紋4条。頸部から肩部に櫛描直線紋・波状紋を交互に施す。	淡乳褐色 0.5～1㎜の砂粒を含む。 良好
－63 151	溝II－1 下層	口径 15.1 腹径 — 底径 — 器高 (7.4)	短い弯曲ぎみの頸部。口縁部は短く外反し、口唇部で下方へ肥厚し、幅広い面をもつ。全体に器形に比較して、器壁が厚い。	口唇・口縁部内外面とも横なで。体部内面ハケ目。他は風化によって不明。口唇部外面に凹線紋4条と貼付円形浮紋3ヵ所。同内面に櫛描列点紋。肩部は外面に櫛描直線紋を施す。	淡灰褐色 0.5～1㎜の砂粒を含む。
23－63 152	溝II－1 中層	口径 12.1 腹径 16.3 底径 9.2 器高 14.0	体部は底部から外上方へのび、中位やや不方で屈曲して内傾して立ち上がる。口唇部で外面にわずかに肥厚する。脚部は筒状に短くのび、大きく広がり、端部は丸く終る。	口唇部内外面は横なで。体部内外面とも横・縦方向の細かいヘラ磨き。脚部内外面はなで。端部内外面は横なで。口縁部に2孔一対の円孔2ヵ所、脚部に円孔を9ヵ所に施す。	淡褐色 1～3㎜の砂粒を含む。 良好
23－63 153	溝II－2 下層	口径 10.2 腹径 — 底径 — 器高 (13.2)	大きく張る体部。細く短い筒状頸部。口縁部はわずかに外傾し、口唇部で斜下方へ肥厚・拡張し、広い面をもつ。	口唇・口縁部内外面とも横なで。体部外面に縦方向の丁寧なヘラ磨き。他は摩耗によって不明。	暗褐色 0.5～4㎜の砂粒を含む。 良好
23－63 154	溝II－1 上層	口径 — 腹径 12.6 底径 4.2 器高 (19.0)	体部は腹径の張りの小さい長胴。頸部は器形に比較して、太く直線的にのびる長頸壺。底部は中央が凹む平底。	体部・頸部外面はハケ目と思われるが、風化のため不明。底部外面はヘラ削り。体部内面はなで。	乳灰褐色 0.5～3㎜の砂粒を含む。 良好
23－63 155	溝II－2 下層	口径 11.6 腹径 16.6 底径 5.5 器高 21.2	体部は最大腹径が中位にあって、底部に比較して肩部の張りがやや大きい。頸部は筒状にのび、口縁部で短く外反する。口唇部は丸く終る。底部は中央が凹む平底。	口縁部内外面は横なで。頸部から体部外部外面は縦ハケ目。頸部内面は横ハケ目。体部内面はなで。底部はなで。	淡灰黄色 1～3㎜の砂粒を多く含む。 良好
23－63 156	包含層	口径 — 腹径 16.8 底径 5.1 器高 (16.7)	体部は最大腹径が上位にあって、底部に比較して肩部の張りが大きい。底部は突出平底。	体部外面はハケ目の後、縦方向のヘラ磨き。体部内面上位は指押えの後なで、下位は縦ハケ目。底部は指押え、なで。	乳褐色、内面黒灰色 0.5㎜の砂粒を多く含む。 良好 溝II－2の推積土上層より出土。
27－64 157	溝II－1 下層	口径 36.5 腹径 40.1 底径 — 器高 (19.5)	体部は最大腹径が上位にある。口・頸部は「く」の字形に屈曲し、口唇部で上下に肥厚する。	口・頸部内外面とも横なで。体部内外面とも縦方向のハケ目。	乳褐色 0.5～2㎜の砂粒を含む。 良好
27－64 158	溝II－1 下層	口径 41.4 腹径 — 底径 — 器高 (9.6)	口・頸部は、頸部のくびれが小さく、口縁部で短く外反する。口唇部はわずかに上下に肥厚し面をもつ。	口縁部内外面とも横なで。頸部・体部外面縦ハケ目、内面横ハケ目。口唇部外面の上・下の稜にヘラ刻目紋。頸部下位に断面三角形貼り付突帯紋にヘラ刻目紋を施す。	乳黄白色 1～2㎜の砂粒とクサレ礫を含む。 良好
24－65 159	溝II－3 下層	口径 10.1 腹径 11.7 底径 4.6 器高 12.8	体部は最大腹径が中位よりやや上位にある。頸部でわずかにくびれ、口縁部が短く外反し、口唇部に面をもつ。底部は器形に比較して大きい。全体に器壁が厚い。	口縁部内外面とも横なで。体部外面縦ハケ目、内面指押えの後なで。	淡灰褐色 1㎜程の砂粒を多く含む。 良好
27－65 160	溝II－1 下層	口径 19.1 腹径 — 底径 — 器高 (7.1)	頸部は弯曲しながら大きくくびれる。口縁部は短く外反し、口唇部に面をもつ。	口縁部上半は内外面とも横なで。頸部内外面と体部外面縦ハケ目。体部内面は強い指なで上げ。	乳褐色 1～2㎜の砂粒を含む。 良好

図版番号 写真－実測図 土器番号	遺　構	法　量 (cm)	形　態	技　法	備　考
－65 161	溝Ⅱ－2 中層	口径 16.5 腹径 20.4 底径 — 器高 11.0	体部は肩部が大きく張る。口・頸部は大きくくびれ、「く」の字形に外反する。口唇部でわずかに上方へ肥厚する。	口縁部内外面とも横なで。肩部外面縦ハケ目、最大腹径部横方向のヘラ削り。体部内面上位なで、中位横ハケ目。	淡乳褐色 1㎜程の砂粒を含む。 良好
24－65 162	溝Ⅱ－1 上層	口径 15.6 腹径 14.0 底径 3.9 器高 12.6	最大腹径が上位にある体部。口・頸部はわずかにくびれ、短く外反し、口径は腹径より大きい。口唇部は丸く終る。突出平底。	口・頸部内外面とも横なで。体部外面縦方向のヘラ磨き、内面上位なで。下位は縦ヘラ磨き。底部指押えの後なで。	乳灰褐色、内面下位は黒灰色 1～2㎜の砂粒を多く含む。 良好
24－65 163	溝Ⅱ－1 下層	口径 8.9 腹径 — 底径 3.0 器高 9.6	体部は底部より斜上方に直線的にのびる口・頸部は短く水平に折れる。底部は中央が凹む平底。	口縁部内外面なで。体部外面ヘラ削り、内面なで。底部指押え。全体に粗雑な作り。	淡乳褐色 1㎜程の砂粒を含む。 良好
24－66 164	溝Ⅱ－1 中層	口径 — 腹径 — 底径 10.4 器高 (10.5)	台付無頸壺の脚部。脚部は内傾する。体部下位は大きく弯曲しながら立ち上がる。	体部下位は内外面とも横方向のヘラ磨き。体部底部内面は縦ヘラ磨き、外面はなで。脚部外面にハケ目が残る。他は風化によって不明。脚部に凹線紋4条と円孔4ヵ所を施す。	暗褐色 微砂粒と4～10㎜の砂粒を少し含む。 良好
24－66 165	溝Ⅱ－1 中層	口径 — 腹径 — 底径 15.5 器高 (12.7)	台付鉢の脚部。脚部は内弯ぎみに裾部へ広がる。端部で内面へわずかに肥厚する。	体部底部内面ヘラ磨き。脚部外面縦方向のヘラ磨き、内面なで。脚端部は内外面とも横なで。脚部中下位に凹線紋4条と円孔を5段・39ヵ所に施す。	淡乳褐色 0.5㎜程の砂粒を少し含む。 良好
24－66 166	溝Ⅱ－1 中層	口径 — 腹径 — 底径 12.1 器高 (14.8)	高坏の脚部。太い中空柱部より、短く外反する底径の小さい脚部。脚端部は下方へ肥厚し、面をもつ。	脚端部内外面は横なで。柱・裾部外面縦方向のヘラ磨き、内面なで。円孔を4ヵ所に施す。坏部底部内面、雑な放射状のヘラ磨き。	乳褐色 微砂粒と5㎜程の砂粒を少し含む。 良好
27－66 167	溝Ⅱ－1 下層	口径 26.4 腹径 — 底径 — 器高 (7.3)	高坏の坏部。坏部下位で稜をもって屈曲して立ち上がり、外反して再び稜をもって屈曲し、内弯ぎみに立ち上がる。口唇部は内外に肥厚する。	口唇部と外面稜の部分横なで。坏部内面横方向のヘラ磨き。外面は風化によって不明。	乳灰褐色(外面) 暗黒色(内面) 1㎜程の砂粒を含む。 良好
－ 168	包含層	口径 9.7 腹径 — 底径 3.2 器高 7.3	体部は底部より斜上方へ立ち上がり、口径に比較して、器高が高い。底部は中央が凹む平底。	口縁・体部外面は叩き目、内面はなで。底部底面はなで。	淡乳褐色 1～2㎜の砂粒を含む。 良好

HN　H－4－A地区(88－10)土師器観察表

(　　)は現存値

図版番号 写真－実測図 土器番号	遺構	法量 (cm)	形態	技法	備考
25－63 169	土壙－1	口径　— 腹径　28.0 底径　4.5 器高　(24.2)	体部は中位が大きく張る扁平球形。頸部は大きくくびれ、外反ぎみに立ち上がる口縁部は大きく外反する。底部は突出平底。	体部底部外面に縦方向のヘラ磨き。他は風化・摩耗によって不明。	乳白色 1～5㎜の砂粒を多く含む。 良好
25－63 170	溝Ⅰ－1 下層	口径　13.7 腹径　19.3 底径　5.3 器高　20.1	体部は最大腹径が中位にある球形。頸部は大きくくびれ、外傾して短く立ち上がる。口縁部は大きく外反する。口唇部は狭い面をもつ。大きい突出平底。	口縁部内外面とも横なで。頸部内外面ともなで。体部外面上位は斜方向、中位は横方向、下位は縦方向のヘラ磨き。底部なで。体部内面なで。体部下位に焼成後の穿孔1ヵ所。	淡黄褐色 1㎜程の砂粒を含む。 良好
25－64 171	溝Ⅱ－1 上層	口径　18.1 腹径　26.0 底径　3.9 器高　23.5	体部は最大腹径が中位にあり、大きく張り出す扁平な器形。頸部は大きくくびれ筒状に短く立ち上がる。口縁部は水平近くまで外反する。口唇部は上下に肥厚し外傾する面をもつ。突出平底。	口縁部内外面とも横なで。頸部内面斜方向、外面縦方向のハケ目。体部外面上半ハケ目、中位横方向、下位縦方向のヘラ磨き。体部内面上半指押えとなで、下半ハケ目。底部はなで。体部上半外面に薄く編み包みの日焼跡が残る。	淡褐色、内面黒灰色 2～3㎜の砂粒を含む。 良好
－64 172	溝Ⅱ－1 上層	口径　8.8 腹径　9.6 底径　— 器高　11.3	体部は最大腹径が中位にある球形に近い器形。頸部は太い筒状。口縁部は水平近く外反し、口唇部は丸く終る。底部は尖底。	口縁部内外面とも横なで。頸部内面なで、頸部外面・体部外面ヘラ磨き。底部なで体部下位に焼成後の穿孔1ヵ所。	淡乳灰褐色 0.5～1㎜の砂粒を含む。 良好
－64 173	溝Ⅱ－1 上層	口径　14.5 腹径　— 底径　— 器高　9.7	頸部は筒状に立ち上がる。口縁部は大きく外反する。口唇部は下方へわずかに肥厚し、中央が凹む狭い面をもつ。	口縁部内外面とも横なで。口縁部内面その後ヘラ磨き。頸部外面粘土の移動が残り無調整、内面なで。体部外面ヘラ磨き、内面指押えの後なで。	黄褐色 0.5～1㎜の砂粒を含む。 良好
25－64 174	溝Ⅰ－2 下層	口径　10.9 腹径　14.8 底径　2.4 器高　12.5	体部は肩部が張り、最大腹径が中位にある扁平な器形。頸部は細く、口縁部は斜上方へ直線的にのびる。口唇部は器壁が薄くなり、丸く終る。平底。	口縁部内外面とも横なでの後、外面縦方向、内面横方向のヘラ磨き。頸部・体部外面縦・横方向のヘラ磨き。いずれも風化によって不鮮明。	乳白色、体部内面暗黒色。 2～4㎜の砂粒を含む。 良好
25－64 175	溝Ⅰ－1 下層	口径　— 腹径　14.5 底径　— 器高　(14.8)	体部は最大腹径が中位にある球形の器形。頸部はくびれ、口縁部は斜上方へのびる。丸底。	頸部内外面ともハケ目の後、縦方向ヘラ磨き頸部外面にヘラ押えの跡が残る。体部外面は風化のため不鮮明ながら、縦方向ヘラ磨きが残る。体部内面指押え、なで。	乳白色 0.5㎜程の砂粒を少し含む。 良好
25－64 176	溝Ⅱ－1 上層	口径　— 腹径　17.6 底径　— 器高　(14.9)	体部は最大腹径が中位にある球形の器形。丸底。	体部外面ハケ目の後、ヘラ磨き。内面は不明。	乳白色 微砂粒を含む。 良好
－64 178	溝Ⅰ－1 下層	口径　7.2 腹径　7.6 底径　— 器高　7.9	小形壺。体部は最大腹径が上位にあり、底部より肩部が張る器形。頸部は小さくくびれ、口縁部は直線的に斜上方へのびる。尖底。	口縁部内外面とも横なで。体部内面なで、外面は風化によって不明。	乳白色 1～5㎜の砂粒を含む。 良好
－64 179	溝Ⅱ－1 下層	口径　— 腹径　11.6 底径　— 器高　(11.0)	小形壺。体部は最大腹径が中位にある球形の器形。頸部のくびれは小さい。尖底風の丸底。	体部外面は荒い横方向のヘラ磨き、内面はなで。体部外面下位に煤付着。	淡灰褐色 0.5～1㎜の砂粒を含む。 良好
26－65 180	溝Ⅰ－1 下層	口径　14.0 腹径　15.0 底径　3.5 器高　15.8	体部は最大腹径が上位にあり、肩部が張る胴長の器形。口・頸部は「く」の字形に外反し、口縁部中位で肥厚し、口唇部で薄くなり丸く終る。突出ぎみの平底。	口縁部内外面とも横なで。体部外面は水平と右上りの叩き目2段。他は風化によって調整不明。	淡灰褐色 2～5㎜の砂粒を含む。 良好

図版番号 写真－実測図 土器番号	遺　構	法　量 (cm)	形　態	技　法	備　考
26－65 181	溝Ⅰ－2 下層	口径　13.7 腹径　12.4 底径　3.5 器高　12.1	体部は最大腹径が上位にあり、底部へ急激に小さくなる。口・頸部は小さくくびれて、外反する。口唇部は器壁が薄く、丸く終る。突出ぎみの平底。	口縁部内外面とも指押えの後、弱い横なで。体部外面は水平と右上りの叩き目2段、内面はなで。底部外面指押えの後、一部叩き目、底面なで。	乳赤白色 0.5～12㎜の砂粒と小石を含む。 良好
－65 182	溝Ⅰ－1 下層	口径　— 腹径　11.6 底径　3.1 器高　(12.3)	体部は最大腹径が中位よりやや上に位置する器形。口・頸部は小さくくびれ、外反する。平底。	体部外面上半は水平、下半は右上りの叩き目。他は風化が著しく不明。	淡灰褐色 1～5㎜の砂粒を含む。 良好
26－65 183	溝Ⅰ－1 下層	口径　12.1 腹径　11.4 底径　1.5 器高　12.1	体部は最大腹径が中位よりやや上に位置する器形。口・頸部は「く」の字形に外反し、腹径を上回る。口唇部は狭い面をもつ。平底。	口縁部内外面とも横なで。体部外面は螺旋状の叩き目。他はなで。	淡灰褐色 2～3㎜の砂粒を含む。 良好
－65 184	土壙Ⅰ－1	口径　— 腹径　12.3 底径　2.9 器高　(10.5)	体部は最大腹径が上位にあって、低い器形。口・頸部は小さくくびれて外反する。中央が凹む平底。	口・頸部内外面とも横なで。体・底部外面は叩き目。内面はなでと思われるが摩耗によって不鮮明。	暗褐色 0.5～2㎜の砂粒を多く含む。 良好
26－65 185	溝Ⅰ－1 下層	口径　— 腹径　13.4 底径　2.8 器高　(16.7)	体部は、最大腹径がやや上位にある胴長の器形。口・頸部は小さくくびれ、弯曲しながら外反する。底部は突出ぎみの平底。	口・頸部は内外面とも横なで。体・底部外面は叩き目。底部底面・体部内面はなで。いずれも摩耗が著しく不鮮明。	乳白色 2㎜程の砂粒を多く含む。 良好
26－65 186	溝Ⅰ－1 下層	口径　— 腹径　18.3 底径　1.2 器高　(23.3)	体部は、最大腹径がやや上位にある逆卵形の器形。口・頸部は大きくくびれて、弯曲しながら外反する。尖底。	口・頸部は内外面とも横なで。体・底部外面は右上りの叩き目2段、同内面はハケ目。	淡灰褐色 0.5～3㎜の砂粒を含む。 良好
26－65 187	溝Ⅰ－1 下層	口径　— 腹径　14.9 底径　2.4 器高　(10.8)	体部は最大腹径がやや上位にあって、底部へ急激に小さくなる器形。口・頸部は小さくくびれ、弯曲しながら外反する。底部は、平底がゆがんで尖底風になっている。	口・頸部は内外面とも横なで。体・底部外面は水平と右上りの叩き目2段、同内面は摩耗によって調整不明。	淡灰褐色 0.5～1㎜の砂粒とクサレ礫を含む。 良好
27－65 188	溝Ⅰ－1 上層	口径　14.3 腹径　— 底径　— 器高　(5.6)	口・頸部は、「く」の字形に外反し、稜をもって斜上方へ外反ぎみに立ち上がる。口唇部は狭い面をもつ。	口・頸部は内外面とも横なで。体部内面ヘラ削り。肩部に櫛描直線紋を施す。	乳赤黄色 0.5～1㎜の砂粒とクサレ礫を含む。 良好
27－66 189	溝Ⅱ－1 上層	口径　— 腹径　— 底径　— 器高　(13.6)	坏部は、坏底部から面をもって立ち上がり、外反する。脚柱部は充実の裾細り。裾部も坏部と同じく、明確な面をもって広がる。	坏・裾部外面稜は横なで。坏部外面上半・柱部外面は、縦方向のヘラ磨き。坏部内面・底部外面は横方向のヘラ磨き。他は不明。	淡灰白色 0.5～1㎜の砂粒とクサレ礫を含む。 良好
27－66 190	溝Ⅱ－1 上層	口径　21.3 腹径　— 底径　— 器高　(14.4)	坏部は、坏底部は外上方へのび、明確な稜をもって屈曲し、斜上方へ直線的にのびる。口唇部は狭い面をもつ。柱部は中空のエンタシス形。	坏口縁部内外面は横なで。坏部外面稜は弱い横なで。他は縦・横方向のヘラ磨き。	淡灰褐色 1～3㎜の砂粒を含む。 良好
27－66 191	包含層	口径　13.6 腹径　— 底径　— 器高　(6.0)	鼓型器台。受部は太くくびれる接合部より短く外反し、稜をもってさらに外反する。口唇部は器壁が薄くなり、狭い面をもつ。脚部も稜をもって外反する。	風化・摩耗が著しく調整等は不明。	赤黄褐色 1～2㎜の砂粒と金雲母をわずかに含む。 良好
－66 192	溝Ⅱ－1 上層	口径　17.4 腹径　— 底径　4.3 器高　7.3	体部は、口径に比較して浅い器形。口・頸部は、頸部でわずかにくびれ、外反する。口唇部は狭い面をもつ。突出平底。	口縁部内外面とも横なで。体部内面は横方向のハケ目。他は風化によって不明。	淡灰褐色 0.5～2㎜の砂粒を含む。 良好

図版番号 写真－実測図 土器番号	遺　構	法　量 (cm)	形　態	技　法	備　考
－66 193	溝Ⅰ－1 下層	口径　— 腹径　— 底径　2.6 器高　(5.6)	体部は斜上方へ内弯ぎみに立ち上がる。口・頸部はわずかにくびれ外反する。中央が凹む突出平底。	口・頸部内面横方向のハケ目。体部内面ハケ目となで。体部外面は風化のため不明。底部指押え。	淡乳白色 0.5～1㎜の砂粒とクサレ礫を含む。 良好
27－66 194	溝Ⅰ－1 下層	口径　14.8 腹径　— 底径　5.2 器高　9.2	体部は斜上方へ内弯ぎみに立ち上がり、口・頸部でわずかに外反する。口唇部は丸く終る。	口・頸部内外面とも横なで。体部内面横方向のヘラ磨き。体部外面は風化のため不明。底部指押えの後なで。	乳白色 1～2㎜の砂粒を多く含む。 良好
－66 195	溝Ⅰ－1 下層	口径　10.6 腹径　— 底径　3.6 器高　6.4	体部は斜上方へ内弯ぎみに立ち上がり、口縁部でごく短く外反する。口唇部は断面四角形で終る。平底。	全面なで。	淡灰褐色 0.5～1㎜の砂粒を含む。 良好
－66 196	溝－1 下層	口径　14.0 腹径　— 底径　3.4 器高　8.7	体部は斜上方へ内弯ぎみに立ち上がり、口・頸部で短く外反する。口唇部は丸く終る。平底。	口・頸部内外面とも横なで。体部外面は雑なハケ目。他は風化のため調整不明。	淡黄褐色 1～2㎜の砂粒とクサレ礫を含む。 良好
－66 197	溝Ⅰ－1 下層	口径　10.1 腹径　— 底径　2.5 器高　4.9	体・口縁部は、底部より内弯ぎみに立ち上がる椀形。中央が凹む平底。	口縁部内外面とも横なで。体部内外面ともヘラ磨き。底部軽く指押え。	淡乳褐色 1㎜程の砂粒を含む。 良好
27－66 198	溝Ⅰ－1 下層	口径　12.3 腹径　— 底径　2.9 器高　8.8	体部は底部より内弯ぎみに立ち上がり、口縁部で直立する。口唇部は丸く終る。平底。	口唇部は指押え。体部外面は叩き目、内面はハケ目。1孔(厚さ1.0cm)	淡灰褐色 1㎜程の砂粒を含む。 良好
－66 199	溝Ⅰ－1 下層	口径　— 腹径　— 底径　11.2 器高　(5.5)	器台の脚部。斜下方へ広がり、端部は器壁が薄くなり、丸く終る。	脚部外面は縦方向のヘラ磨き、内面はハケ目。端部は横なで。	淡灰褐色 微砂粒を多く含む。 良好

Ⅳ　中条小学校遺跡(89－１)

1.　調査経過

所 在 地　茨木市新中条町

調査面積　220m²

調査期間　平成元年４月25日～同年６月１日

届出理由　共同住宅建設

中条小学校遺跡は、茨木市新中条町の中条小学校を中心に径200m付近に広がる弥生時代中期から中世までの複合遺跡であり、東奈良遺跡の北側に隣接し、密接な関係にある遺跡でもある。

今回の調査地区は、中条小学校遺跡の中でも東端に位置し、古墳時代と中世頃の遺構・遺物が検出されるところである。なお、当地区は昭和54年９月、コンビニエンス・ストアー建設の時に、約20m²の確認調査を実施しており、中世頃の柱穴跡が検出されていたため、試掘確認調査を実施することなく発掘調査を実施する必要があることを依頼者に報告する。依頼者と茨木市教育委員会との協議の結果、平成元年４月25日から発掘調査を実施することになった。

2.　層　　位(図版42)

当調査地区の基本層位は、約0.6mの造成土下に、旧耕土・床土・遺物を含まない淡茶灰色粘質土が堆積し、調査地区西側では床土下層より掘られた溝状遺構の堆積がみられた。以下、10～14世紀頃の土師器・黒色土器・瓦器を含む茶灰色砂質土(一部粘質土)、６世紀前半頃の須恵器と11～13世紀の須恵器・土師器・黒色土器・瓦器などを含む淡茶灰色粘質土の２層に包含層は分けられる。下層の包含層出土の遺物は明確に分れ、また包含層検出の時に遺構の一部も掘り下げたことから、下層包含層の時期は６世紀前半と思われる。さらに生活面の黄白色粘土(一部砂質土)、青灰色砂質土の堆積層に分けられた。なお、生活面は黄白色粘土面とさらに土層断面から、今回検出された遺構の一部が上層包含層の淡茶灰色粘質土面から掘られていることから２面あったものと思われる。しかし、コンビニエンス・ストアー建設・解体の時の攪乱が一部生活面下層まで受けており、調査中は明確でなかった。生活面の黄白色粘土面は、平均標高7.2～7.0mを測り、西・北より南へ僅かに低くなっている。淡茶灰色粘質土面は同7.5～7.1mを測り、同じく西・北より南へ低くなっている。

3.　遺　　構(図版42)

当調査地区からは、古墳時代中期から中世(平安時代中期～室町時代)、近代にかけての井戸状遺構３基以上、土壙７基、柱穴跡約40基、溝などが検出された。

井戸

井戸－１は、長軸1.4m・短軸1.2m・深さ1.98m・底部標高5.15mを測るほぼ円形素掘りの井戸である。井戸内には、上層に近代の瓦片を含む灰色粘土、中層に全く遺物を含まない暗灰色粘土と同砂質土の互層、井戸底部に沿って下層の暗灰色粘土が堆積していた。出土遺物から近代の井戸と思われる。

井戸－２は、層位的には土壙－１埋没後に掘られており、掘り方上口は径2.2mの円形なすが、深さ0.4mのところより一辺1.7mの隅丸方形の掘り方になる。井戸の深さは、1.88mを測り、井戸中央底部に径0.5m・高さ0.38mの底板を抜いた桶が埋めてあった。なお、桶底部の標高は4.91mを測る。井戸内には、上層には12世紀中頃から14世紀前半頃の土師皿・羽釜・瓦器片を含む暗灰色粘土、下層には遺物を含まない灰色粘土と同砂質土の互層が堆積し、井戸中央の上口から底部には節を抜いた竹が打ち込んであった。なお、井戸－２は、層位的には土壙－１埋没後に掘られている。

井戸－３は、掘り方上口は長軸4.0m、短軸3.2mの楕円形をなし、深さ約1.2mのところより径約1.2mの円形の掘り方になる。井戸の深さは約2.95m、底部標高4.21mを測る。井戸中段より、桶の一部と思われる板材が僅かに検出されたことから、同－２と同じく桶を数段積み重ねて井戸枠として利用していたものと思われる。井戸内には、上層に11世紀中頃から14世紀前半頃の土師皿・羽釜・瓦器片、磁器片と獣骨を含む黒色粘土、下層に灰色粘土と同砂質土の互層が堆積していた。井戸－３は、他の井戸が青灰色粗砂質土であるのに対して、さらに下層の赤黄色砂礫土まで掘られていた。

土壙

土壙－１は、長軸4.7m・短軸3.6m・深さ0.36mを測る変形楕円形の大形土壙。土壙中央は工事の時の攪乱を受けていたが、土壙内には暗灰色・黒色粘質土が堆積し、11世紀～12世紀頃の土師質甕・黒色土器椀・土師皿などが多数出土した。土壙の西側には、掘り方と0.3～0.4mの間隔をもって連なる杭列が検出されたが、土壙との関係は明確でない。

土壙－２は、調査地区南東隅にその一部を検出したのみであるため、規模は定かでないが、摺鉢状の土壙で深さは0.75m以上を測る。土壙内には、黒色粘土が堆積し、11世紀から12世紀の須恵器・土師器・黒色土器・瓦器片が検出された。

土壙－３は、同じく南東部でその一部を検出したのみであるため、形態・規模は定かでないが、摺鉢状の土壙で深さ0.3mを測る。土壙内には暗灰色粘土が堆積していたが、遺物などは検出されなかった。

土壙－４は、調査地区北東部に位置し、径0.7m・深さ0.25mの円形摺鉢状土壙。土壙内には、下層包含層と同じ淡茶灰色粘質土が堆積していたが、遺物などは全く検出されなかった。

土壙－５は、同－４の南西に位置し、長軸1.3m・短軸0.7m・深さ0.16mの楕円形摺鉢状土壙。土壙内には、同じく淡茶灰色粘質土が堆積していたが、遺物などは全く検出され

なかった。

土壙－６は、同－５の南に位置し、径0.54m・深さ0.22mの円形土壙。土壙内には、同じく淡茶灰色粘質土が堆積していたが、遺物などは全く検出されなかった。

土壙－７は、調査地区西部に位置し、溝－１によって南側の一部を削平されている。土壙は、長軸2.6m・短軸0.7m・深さ0.09mの浅い長楕円形をなす。土壙内には茶褐色粘質土が堆積し、６世紀頃の土師質甕片が検出された。

溝－１は、井戸－３から西へ延びる溝。溝は、幅0.46m・深さ0.07～0.21mと西から東の井戸に向かって深くなっており、西側では途切れるがさらに西側へ延びていたものと思われる。溝内には、暗灰色粘質土が堆積し、12世紀中頃から13世紀前半頃の土師皿・瓦器片などが検出された。

柱穴跡は、調査地区の西側と北東側を中心に約40基検出された。西側の周辺より僅かに高い箇所で検出された柱穴跡は、径0.15～0.30m・検出時の深さ0.10～0.20mを測る小形のもので、中世頃の土師器・黒色土器・瓦器片が一部の柱穴から僅かに検出した。それに対して、北東側の柱穴跡は、径0.20～0.40m・深さ0.20～0.55mと規模も大きく、検出遺物も時期は判別できないものの須恵器片であった。この点から、いずれも建物などは復元できなかったものの、西側の柱穴跡は他の井戸・土壙と同時期のものと思われ、東北側のそれは黄白色粘土を生活面とする古墳時代中期頃のものと思われる。なお、Ｐ－14からは、径0.12mの柱根が検出された。

4. 遺　　物(図版67・68)

当調査地区からは、包含層・土壙・井戸を中心に、古墳時代中期の須恵器と平安時代中期から室町時代頃までの土師器・黒色土器・瓦器などが検出された。詳細は土器観察表に記述する。

須恵器

坏蓋201～204は、天井部が丸く、口径が器高に比較して小さくなり、稜も明確さを欠く。坏身205・206も同じく底部が丸味を増し、ヘラ削りの範囲も狭くなる。

有蓋高坏207～211は、坏部は坏身と同じく底部が丸味を増す。脚部は短く、三角形・長方形の透かしを三方に施す。

短頸壺212は、短い口縁部が内弯ぎみに立ち上り、肩部が大きく張る。

いずれも、調査地区北東部の下層包含層出土の、陶邑編年Ｉ形式４段階頃と思われる。

土師器

土師皿は、口径11㎝以下を小皿、口径11㎝以上を大皿として記述する。

土師小皿213～223は、口縁部が２段に屈曲し、端部で上方に肥厚する「て」字状口縁をもつ。213は屈曲度も大きく、器壁も薄いことから平安時代中期の11世紀初頭頃のものと思われる。他は、いずれも平安時代後期11世紀頃のものと思われる。同224～227は口縁部

が外反し、平安時代後期12世紀前半頃のものと思われる。同228は内弯する。同229は器高が高く椀状を成し、室町時代14世紀頃のものと思われる。213は井戸－3、217・219・222・224・226～229は包含層、他は土壙－1出土である。

土師大皿230～235は、いずれも口縁部が僅かに外反する。器高が3㎝以下は231のみで、他は3㎝以上を測る。いずれも平安時代中期から後期の11世紀から12世紀頃のものと思われ、230は土壙－1、231・232は井戸－3、他は包含層出土である。

黒色土器

黒色土器椀A類236～242は、いずれも断面逆台形の高台が付き、口縁部内側に沈線が見られるものと無いものがある。ヘラ磨きは摩耗・風化のため不鮮明ながら、内面のみのものと内外面に施すものがあり、全体に器壁は薄い。口径14.6～16.1㎝・器高5.1～5.9㎝を測る。242は上層包含層出土、他は土壙－1出土であり、いずれも平安時代中期の11世紀中頃～後半のものと思われる。

黒色土器椀B類243は、断面逆台形の安定感のある高台が付き、体底部に凸帯が付く。244は断面三角形のやや低い高台が付き、いずれも口縁部内面に沈線が見られ、内外面に細かく密なヘラ磨きを施す。243は土壙－1、244は井戸－3出土の平安時代中期の11世紀中頃～後半頃のものと思われる。

瓦器

瓦器椀245・246は、断面方形の高台が付き、口縁部内面に沈線が見られる楠葉型で、内外面に細かいヘラ磨きを施す。器高指数は33.5～37.5を測り、いずれも上層包含層出土の、平安時代後期の11世紀後半頃のものと思われる。

5. 結　　語

当調査地区から検出された遺構は、北東部において古墳時代中期頃に掘立柱建物を中心とする住居が造られ、生活圏として利用された。その後空白期をおいて、平安時代中期から後期頃の井戸が掘られていることから、再び生活圏として利用されたものと思われる。

しかし、今回検出された遺構・遺物に関しては、調査範囲が狭いため、遺構の一部を検出したのみであるうえ、周辺の調査においても古墳時代と中世頃の遺構・遺物が検出されているものの、いずれも調査範囲が狭く残存状態も悪いものが多かったため、明確な考察はできなかった。

中条小学校遺跡(89－1)土器観察表

(　　)は現存値

器種	器形	図版番号 写真－実測図 番号	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	形態	技法	備考
須恵器	坏蓋	28－67 201	12.1	4.0	—	体部は、ほぼ垂直あるいは外傾ぎみにのび、口縁端部は内傾し段を有す。天井部はやや高く、丸い。稜は、短く鋭さに欠ける。	天井部の3/4～3/5を回転ヘラ削り。口縁・体・稜部は横なで。他はなで。	色調　淡灰色 胎土　201は0.5～2㎜の砂粒を含む。他はやや密。 焼成　良好
		28－67 202	11.4	4.6	—			
		28－67 203	11.2	4.7	—			
		28－67 204	11.4	4.3	—			
	坏身	28－67 205	10.1	4.9	—	たちあがりは、内傾し、口縁部でやや外反する。端部は内傾し段を有す。受部は水平にのび、稜はやや鋭さに欠ける。底部は深く、丸い。	底部の1/2～2/3を回転ヘラ削り。口縁・体・受部は横なで。他はなで。206は、底部に自然釉付着。	色調　淡灰色 胎土　205は0.5～2㎜の砂粒を含む。やや密。 焼成　良好
		28－67 206	9.7	4.5	—			
	有蓋高坏	28－67 207	9.6	8.2	7.45	たちあがりは、内傾し、口縁部で直立する。端部は内傾し段を有す。受部は外上方へのび、稜はやや鋭さに欠ける。脚部は短く、広がり端部で肥厚し垂直に下がる。長方形のスカシ3孔。	坏部は1/5～1/2を回転ヘラ削り。口縁・体・受・脚端部は横なで。207の脚外面は不鮮明ながらカキ目。他はなで。脚は貼り付け。	色調　淡灰色。211は灰白色。 胎土　やや密。微砂粒を含む。 焼成　良好
		－67 208	10.0	8.0	7.4			
		28－67 209	9.6	8.1	7.6			
		－67 210	9.2	(4.7)	—			
		－67 211	—	(4.6)	8.6			
	短頸壺	28－67 212				口縁部は、内弯ぎみに短く立ち上り、端部は丸く終る。体部は肩が張り、底部は丸い。	口縁部は横なで。底部回転ヘラ削り。他はなで。底部内面に指押えの凹凸あり。	
土師器	小皿	－67 213	9.25	1.1	—	○口縁部がS字状に屈折する。 ○口縁端部が丸く終るものと外面に凹みが一周する214・220がある。 ○底部は平底であるが、指押えによる凹凸がある。 ○口径11㎝以下の小皿。 ○器壁は厚手であるが、213は0.3㎝以下の薄手。	○口縁部内外面は横なで。 ○内面はなで、内底面は直線なで。 ○底部外面は指押え、あるいはその後弱いなで。	色調　乳淡黄色。218、222は淡赤黄色。 213、215、221、222は精緻。他は0.5～1㎝程の砂粒を含み、218は大型のクサレ礫を多量に含む。216、217、219は金雲母を含む。 213は井戸－3。217、219、222は包含層。他は土壙－1出土。
		29－67 214	9.2	1.3	—			
		29－67 215	9.4	1.6	—			
		29－67 216	9.8	1.5	—			
		29－67 217	8.9	1.4	—			
		29－67 218	10.6	1.6	—			
		－67 219	9.8	1.8	—			
		29－67 220	10.3	1.6	—			
		－67 221	8.6	1.1	—			
		29－67 222	9.5	1.7	—			
		29－67 223	9.2	1.7	—			

器種	器形	図版番号 写真－実測図 番号	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	形態	技法	備考
土師器	小皿	－67 224	9.6	1.6	—	○口縁部が外反する。224は端部でわずかに上方へつまみ上げる。 ○底部は平底。 ○口径11cm以下の小皿。	○口縁部内外面は横なで。225・226は強い横なで。 ○内面はなで、内底面は直線状なで。 ○底部外面は指押え跡が残り、無調整に近い。 229は、底面に木葉痕が残る。	色調　乳淡黄色 229は淡赤黄色 224・225は精緻。227・228は0.5～1㎜の砂粒を含む。 224・226は金雲母を含む。 225は土壙－1、他は包含層出土。
		29－67 225	10.6	1.8	—			
		29－67 226	10.3	1.5	—			
		29－67 227	10.6	1.8	—			
	皿	29－67 228	8.2	1.6	—	○口縁部が内弯する。		
		－67 229	9.8	2.1	—	○器高が高く椀状を成す。		
	大皿	29－68 230	16.8	3.1	—	○体部は斜上方へ直線的にのび、口縁部でわずかに外反する。 ○底部は平底。224、225は平底ながら丸味があり、器高がやや高い。	○口縁部内外面と体部中位まで1～3段の横なで。 ○体部内面はなで、見込みは直線状なで。 ○底部外面は指押えの後、弱く雑ななで。	色調　乳淡黄色 230・233は底部から体部にかけて薄墨色。 230は2㎜前後の砂粒を含む。他は精緻。クサレ礫、230・233は金雲母を含む。 230は土壙－1、231・232は井戸－3、他は包含層出土。
		－68 231	14.7	2.6	—			
		－68 232	14.4	3.0	—			
		29－68 233	16.6	3.1	—			
		29－68 234	15.0	3.6	—			
		－68 235	14.6	3.8	—			
黒色土器	椀(A)	30－68 236	15.0	5.9	7.6	○体部から口縁部へ内弯ぎみに立ち上がり、端部内面に沈線があるものと、丸く終るもの(238・242)がある。 ○断面逆台形の高台が付く。	○口縁・高台部は内外面とも横なで。 ○238・242は、体部は強い横なでによって起伏がある。 ○242は、体部内面に口縁部まで、ヘラ磨きを施す。239は、体部内面に横方向、見込みは縦方向にヘラ磨きを施す。他は内外面に雑なヘラ磨きを施す。 ○237は底部外面に×印のヘラ記号。	色調　乳白灰色 内面は黒灰色 精緻 242は包含層、他は土壙－1出土。
		30－68 237	15.0	5.7	6.9			
		30－68 238	14.6	5.5	6.3			
		30－68 239	14.8	5.3	6.2			
		30－68 240	15.6	5.5	7.2			
		30－68 241	16.1	5.1	5.7			
		30－68 242	15.2	5.7	6.2			
	椀(B)	30－68 243	16.1	6.2	6.0	○口縁端部内面に沈線。243は体底部に凸帯がめぐる。244は高台・器高指数が低い。	○口縁・高台・凸帯は横なで。 ○体部内外面とも細かい横方向・斜方向のヘラ磨きを施す。	色調　漆黒色 精緻 243は土壙－1、244は井戸－3出土。
		30－68 244	16.0	5.2	6.9			
瓦器	椀	30－68 245	15.2	5.7	5.6	○体部から口縁部へ内弯ぎみに立ち上がり、端部内面に沈線がある。 ○断面方形の高台が付く。	○口縁・高台は横なで。 ○体部内外面とも細かい横方向、246は見込みに縦方向のヘラ磨きを施す。	色調　銀黒色 精緻 いずれも包含層出土。
		30－68 246	15.5	5.2	6.7			

Ⅶ　東奈良遺跡(89－1)H・N　C－3－K・G地区

1.　調査経過

所 在 地　茨木市若草町－1

調査面積　448m²

調査期間　平成元年7月24～同年9月16日

届出理由　関西電力南茨木変電所新設

当調査地区は、昭和52年に当時の国鉄貨物引込線建設の際に発掘調査を行った地域のうち、最も北側の1－A2区のすぐ北にあたり、今回の調査地区はその続きの遺構や遺物が検出される可能性のたかい地域である。

当時の調査結果から、遺構面が2面存在し、第1遺構面は平安時代頃の掘立柱建物跡など、第2遺構面は弥生時代中頃の溝などがみられることから、今回の調査区も遺構面が2面存在し、時代も同時期のものが検出されるだろうことが、はじめから予想された。

平成元年5月10日、建設予定地内において2箇所の試掘を行い、その後、関西電力株式会社と茨木市教育委員会との協議の結果、建設に先だって、平成元年7月24日から、発掘調査を実施することになった。

2.　層　　位(挿図－4)

当調査地区の層位は、北側壁面に並行に掘ったトレンチを用いて実施した。その結果、旧耕土面下約0.5mまでは、旧耕土(第1層)・床土(第2層)および灰白色砂質土層(第3層)が、比較的フラットに堆積しているのに対して、それ以下地山面までは複雑な地層を呈している。

次の茶灰濁色粘土層(第4層)は、弥生時代中期の遺物片を若干含むが、量的には6C後半頃の須恵器片が多く、この層を第1包含層とした。しかしこの層は、あまり一定せず次の第5層である明黄褐色砂層と同レベルであることから、部分的に存在するものである。この第4・5層を取り除くと南北に細い溝状遺構(溝－1)が一部検出されたため、平滑を行ったが、他の遺構は検出されなかった。この面を第1遺構面とした。

第1遺構面を取り除くと、ほとんどの層が部分的で一定しないが、茶濁色砂ジャリ層(第6層)、茶濁色砂質土層(第12層)などの遺物を含む層があり、これらの層を、第2包含層とした。

第2包含層を取り除くと、明黄褐色土層(第16層)の最終生活面が検出され、この層を切り込んで、ピット・溝状遺構などがみられた。この生活面を、第2遺構面とした。

3.　遺　　構(図版59・60)

当調査区では、南端部でピット状遺構が検出されたが、それから北側部分にかけては、

溝状遺構が6条検出された。溝状遺構の中でも、溝－IIは、北・西・南と分けているが、連続制があり、別に方形周溝墓－Iとした。この溝－IIに取り囲まれた内部に、木棺が2基検出された。

溝－V・VIについては、不整形で且つ細くて浅いことから割あいする。

溝－I

第I遺構面に唯一存在する溝で、幅約50㎝、深さ約20㎝の規模で、北端部では消滅している。時期は不詳であるが奈良時代以降のものである。

溝－III

調査区の東壁面に沿った溝であり、調査範囲の関係から中央部でとぎれるが、同一のものである。幅の確認はできなかったが、深さは約60㎝である。溝の肩の部分から羽釜が1点出土している。

溝－IV

調査区の北東のコーナーに溝の一部が検出されたものであるが、しっかりとした溝である。幅約2m、深さ約30㎝で上層と下層には遺物を含まず、中間層の茶濁色砂ジャリ層から6c後半の須恵器片が出土している。

方形周溝墓－I

溝－IIの北・西・南と分けたものであるが、のちに方形周溝墓として取り扱ったものである。規模は北溝が幅約1.5m、深さ約15㎝、西溝が幅約2m、深さ約10㎝、南溝が幅約1m、深さ約20㎝である。西溝は北から南にかけて幅が狭くなっている。

長さの分かる西溝は約10mであることから、方形周溝墓の全体の規模は、一辺10m前後のものである。西溝からは弥生時代中期(畿内第III～IV様式)の遺物が出土している。

木棺－I

方形周溝墓－Iの主体部であり、底板と側板の一部が残っていたが、大部分が腐食していた。主軸はやや西向きながらほぼ南北におく、掘り方は、長約2.5m、幅約1.3mで、その中に内長1.75m、内幅0.55mの木棺を入れている。構造は、底板の外側に側板がくるが、きっちりとしたものでなく、やや外側であるというものである。小口は底板に、その痕跡は認められないものの、埋土の痕跡から両方とも底板の上にのっていたものと考えられる。深さは現存では14㎝である。

木棺－II

方形周溝墓－Iの主体部であり、木棺そのものは腐食してしまっていた、主軸は木棺－Iとほぼ直交している。掘り方は、長約2.4m、幅約1.2mで、その中に内長1.7m、内幅0.5mの木棺を入れている。構造は木棺－Iと同様のものと考えられる。

深さは現存では約10㎝である。

4. 遺　物

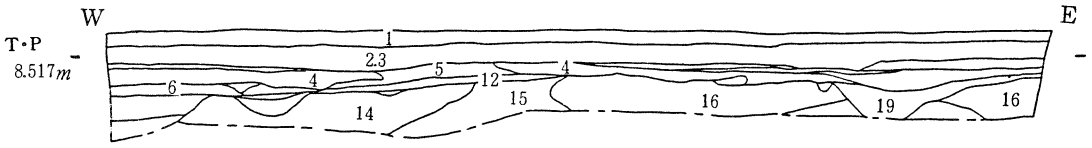
全体の遺物の量は少ないが、溝－Ⅲから羽釜が１点と須恵器の完形の長頸壺が１点、溝－Ⅳから６ｃ後半の須恵器が１個体分出土している。

第１包含層・第２包含層からの出土遺物は、３の遺構の項で若干ふれているように、弥生から奈良時代以降のものまで含むが破片のみである。第２包含層からは、環状土斧が１点(半個体、直径約7.5cm、中央穴部約2.2cm)出土しており、東奈良遺跡としては２例目である。このほか、方形周溝墓の溝－Ⅱから弥生式土器片(畿内第Ⅲ～第Ⅳ様式)が出土している。

5. 結　語

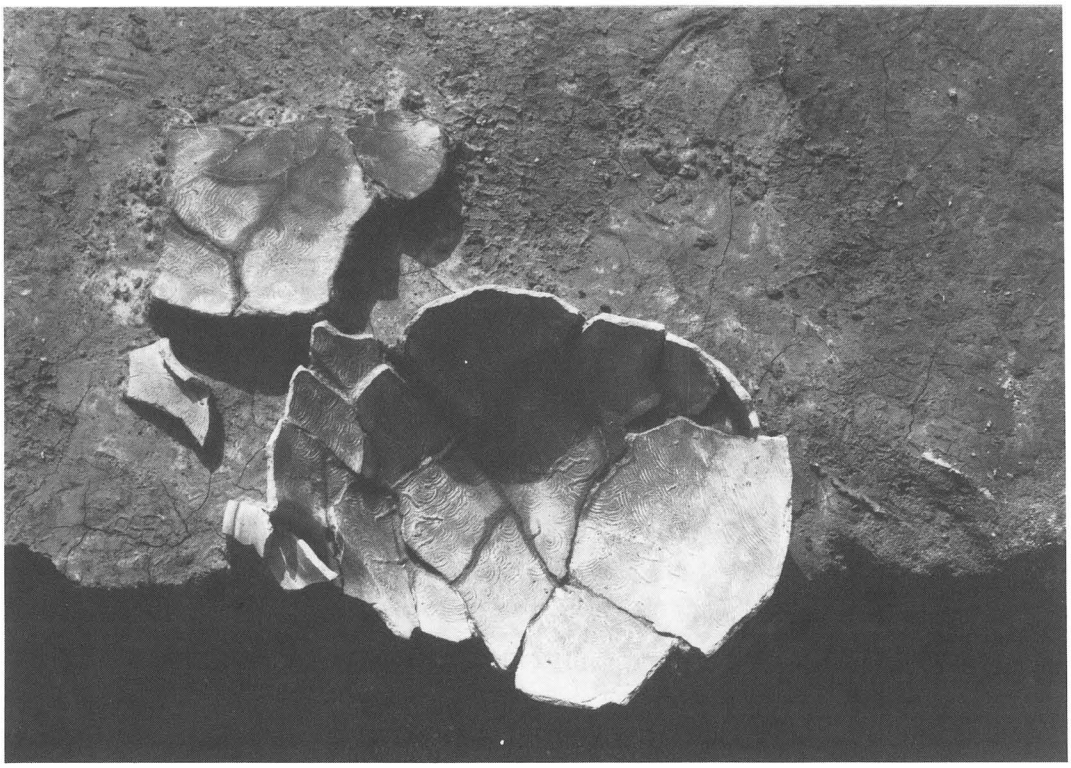
当調査区はムラの中心部からはなれた東奈良遺跡の北西部端にあたり、遺構・遺物ともに少なくなってきている。しかし方形周溝墓が検出されたことにより、墓域の広がりがさらに考えられるものである。

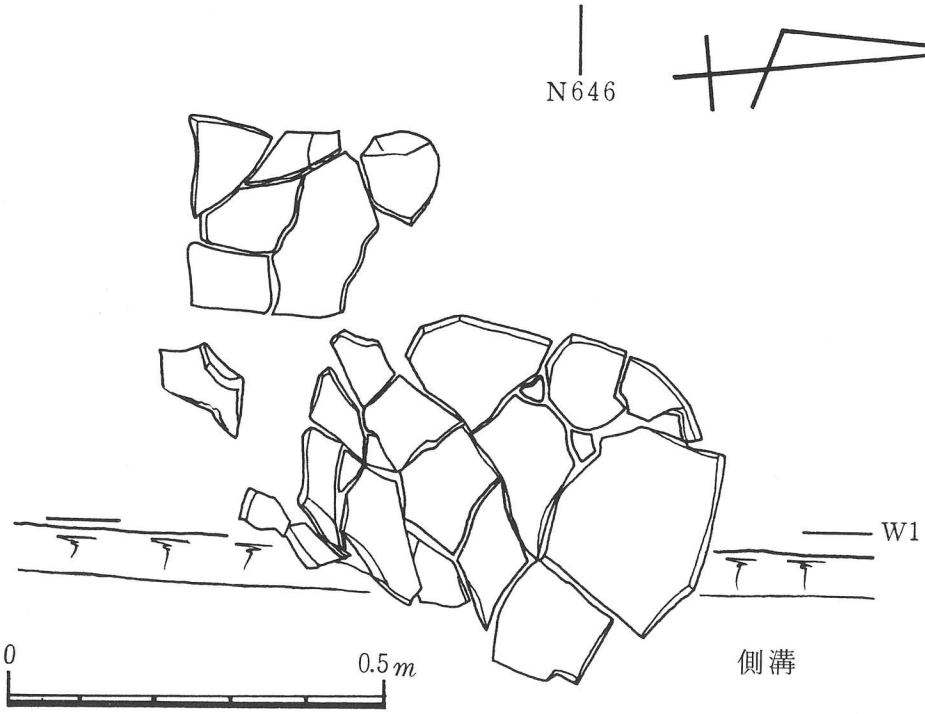
東奈良遺跡としては、これまでに数10基の方形周溝墓や、多くの土壙墓が確認されているが、当調査区のすぐ西側で行った、昭和52年の国鉄貨物線の調査結果から考えあわせると、方形周溝墓としては最も北西端のものではないかと考えられるものである。



1. 耕土
2.3. 床土・灰白色砂質土層
4. 茶灰濁色粘土層
5. 明黄褐色砂層
} 第１包含層
6. 茶濁色粗砂層
12. 茶濁色砂質土層
} 第２包含層
14. 黒色粘土層
15. 青灰色粘土層
16. 明黄褐色土層（地山）

挿図－４　Ｈ・Ｎ　Ｃ－３－Ｋ・Ｇ地区 北壁面土層図





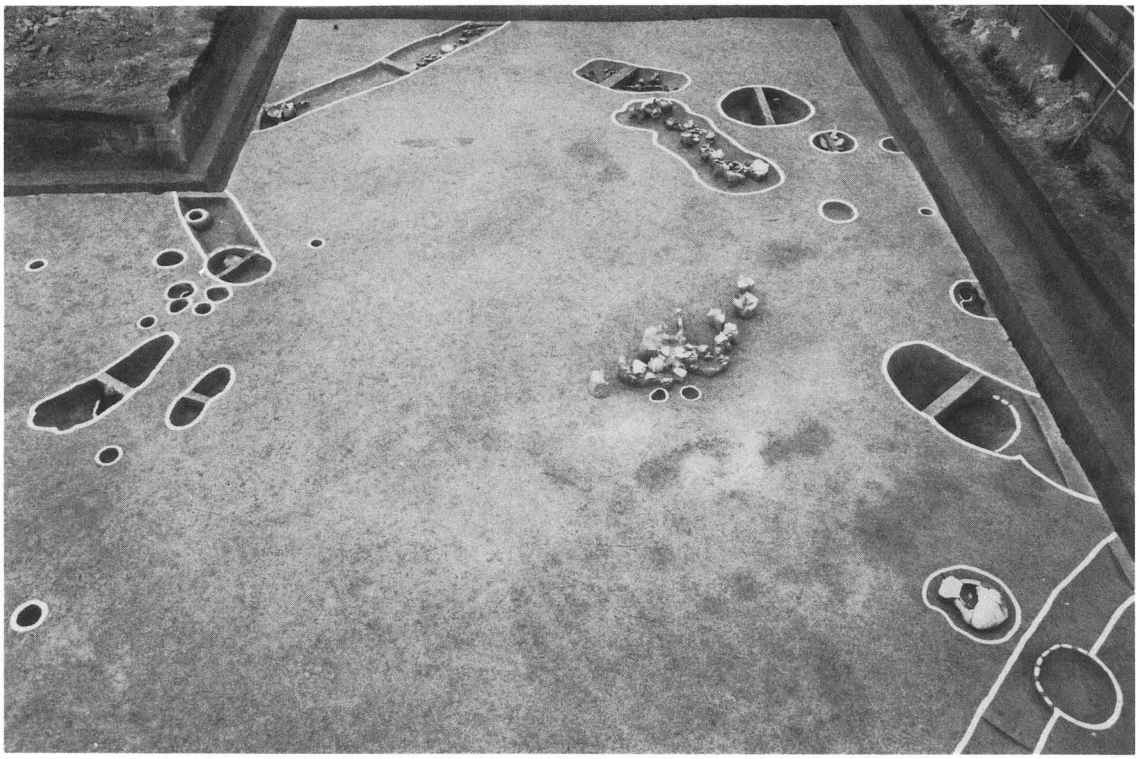
挿図－5　H・N　C－3－K・G地区 甕(須恵器)出土状況図

図　　版

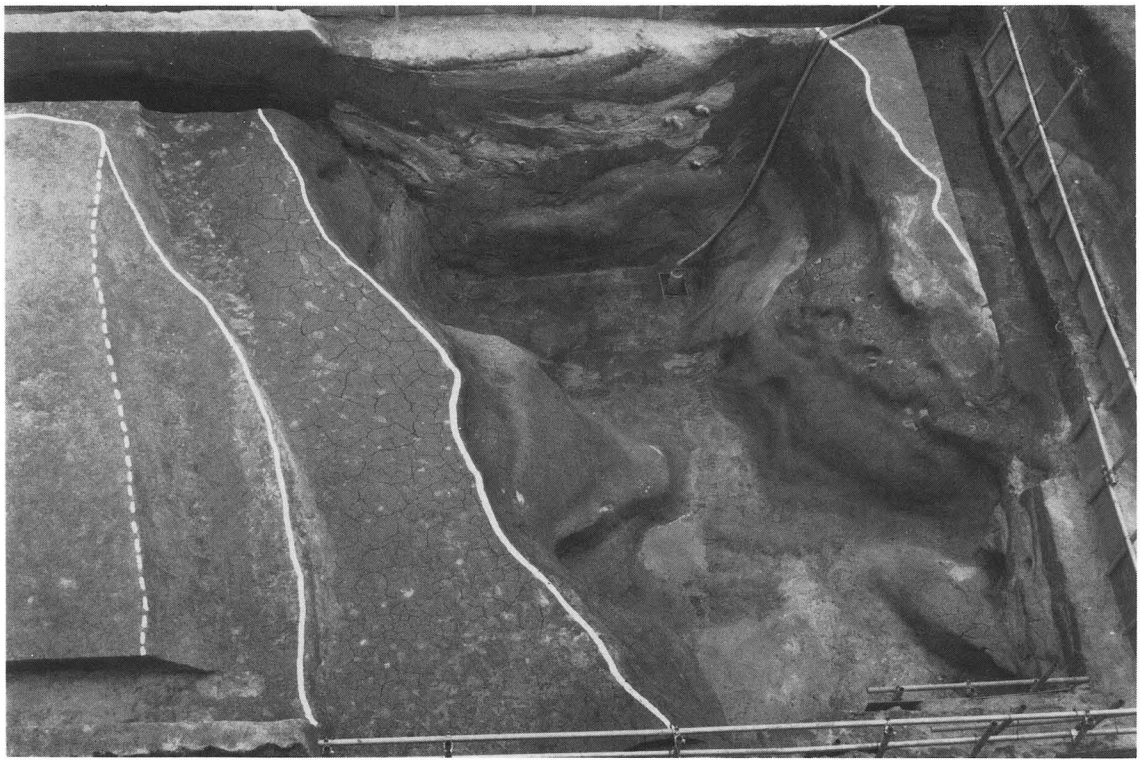
東奈良遺跡（88－5）H・N　H－4－E・F地区　全景（東より）

東奈良遺跡（88－5）H・N　H－4－E・F地区　全景（南より）

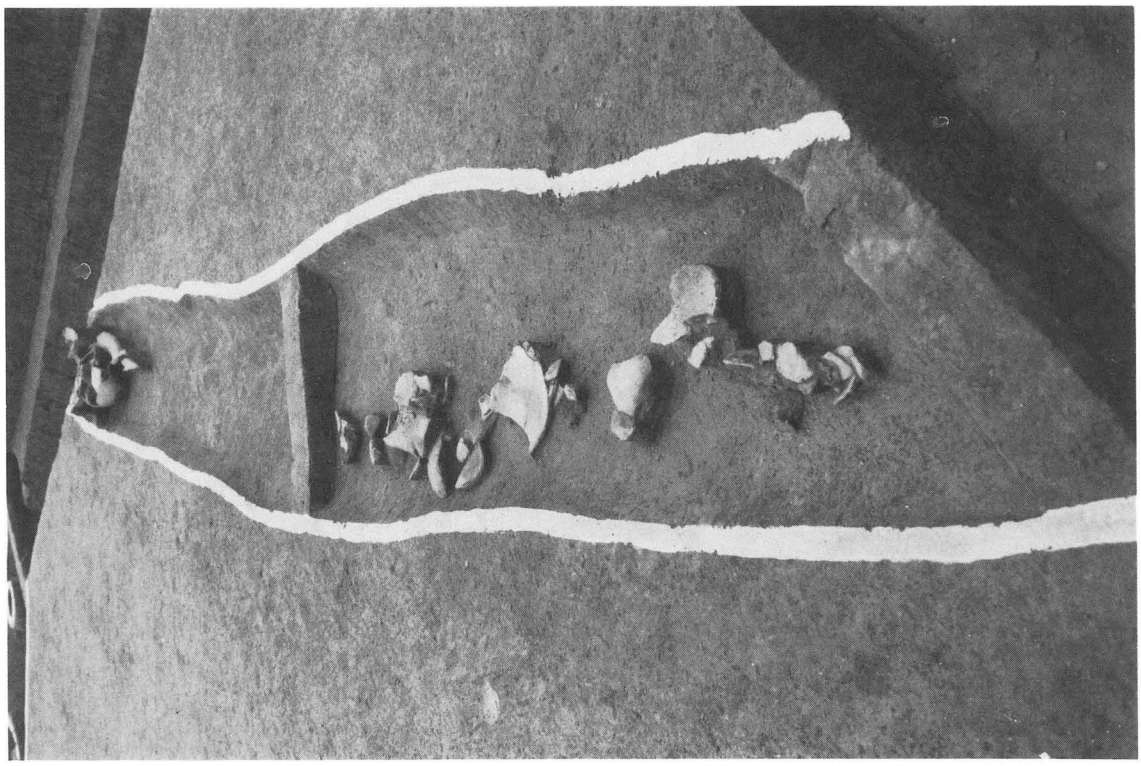
図版二



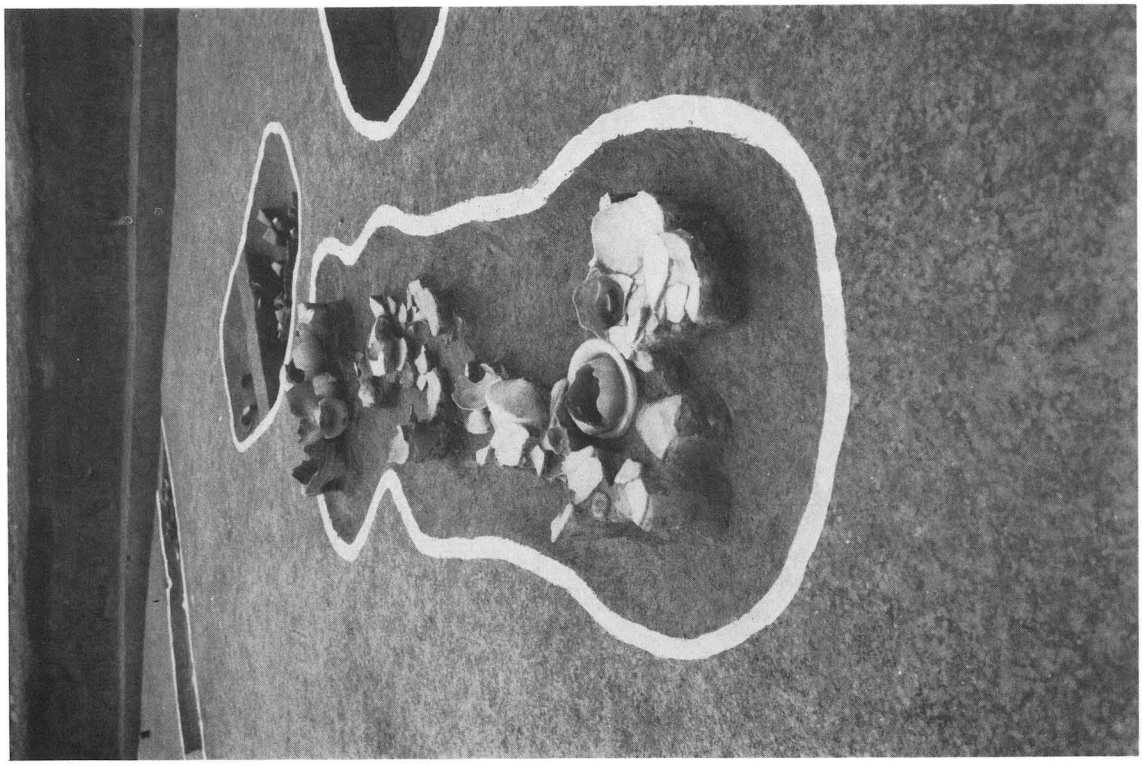
東奈良遺跡(88－6)H・N　H－4－M・N地区　東半(南より)



東奈良遺跡(88－6)H・N　H－4－M・N地区　溝－1(北より)



東奈良遺跡（88－6）H・N　H－4－M・N地区　溝－3



東奈良遺跡（88－6）H・N　H－4－M・N地区　土壙－9

東奈良遺跡(88－8)H・N　G－2－K・O地区　南半(南より)

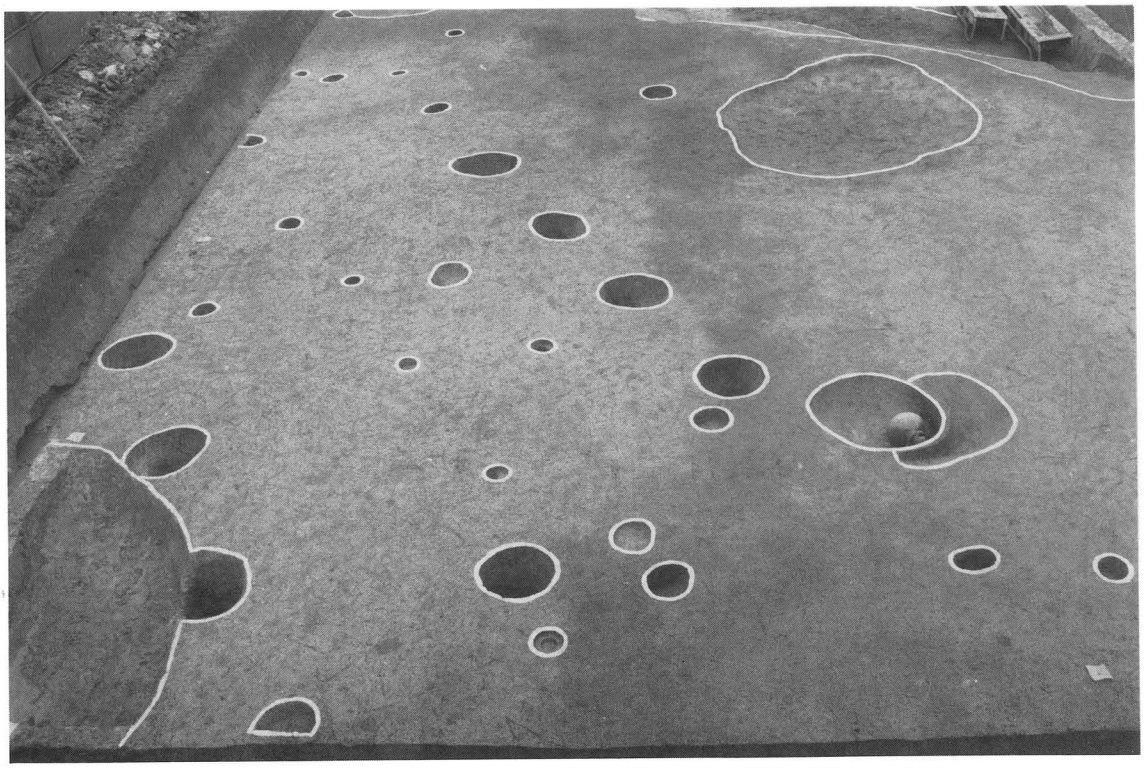
東奈良遺跡(88－8)H・N　G－2－K・O地区　北半(北より)

東奈良遺跡（88－9）H・N　K－1－A・B・E地区　北半（西より）

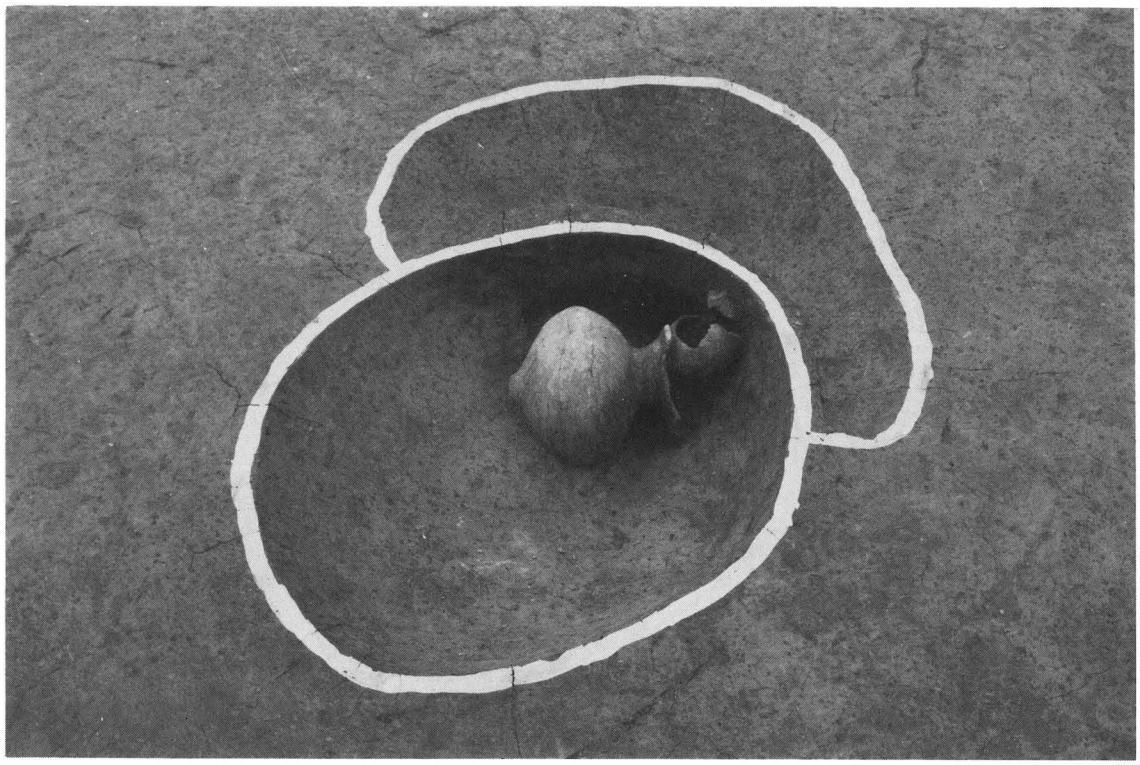
東奈良遺跡（88－9）H・N　K－1－A・B・E地区　南半（北より）

図版六

東奈良遺跡（88－10）H・N　H－4－A・B地区　第Ⅰ遺構面（東より）



東奈良遺跡（88－10）H・N　H－4－A・B地区　第Ⅰ遺構面　掘立柱建物跡



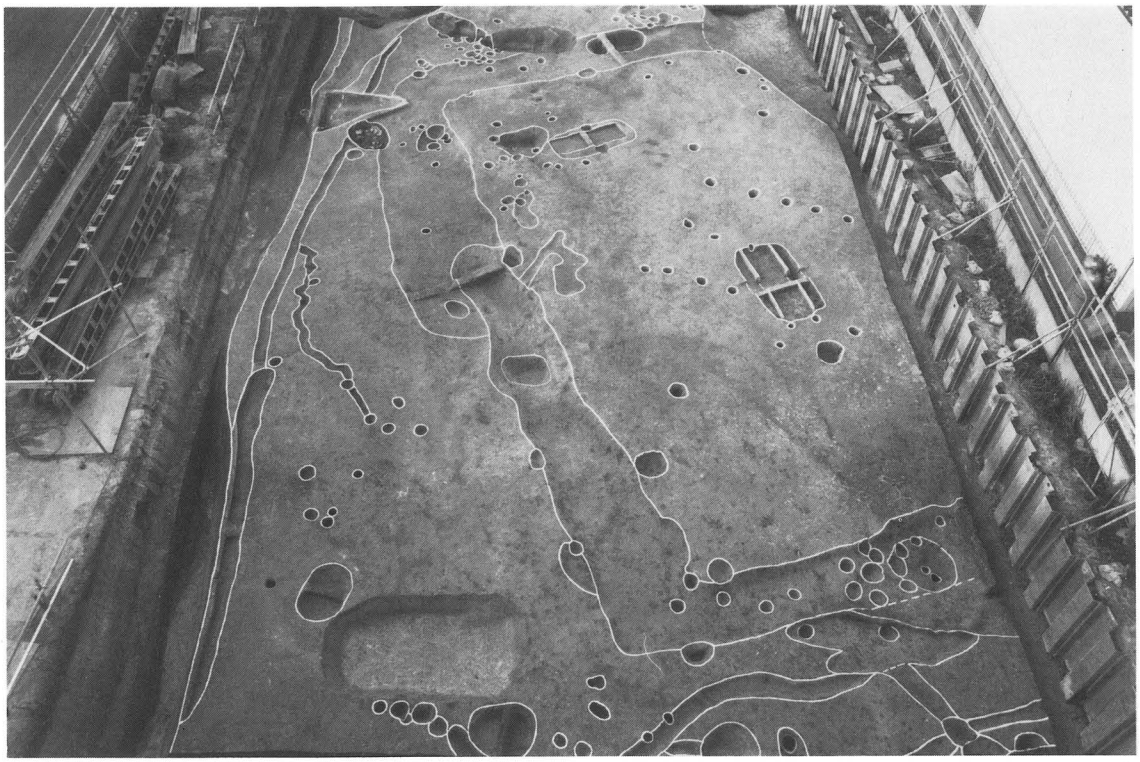
東奈良遺跡（88－10）H・N　H－4－A・B地区　第Ⅰ遺構面　土壙Ⅰ－1

東奈良遺跡（88－10）H・N　H－4－A・B地区　第Ⅱ遺構面　全景（北より）

図版八

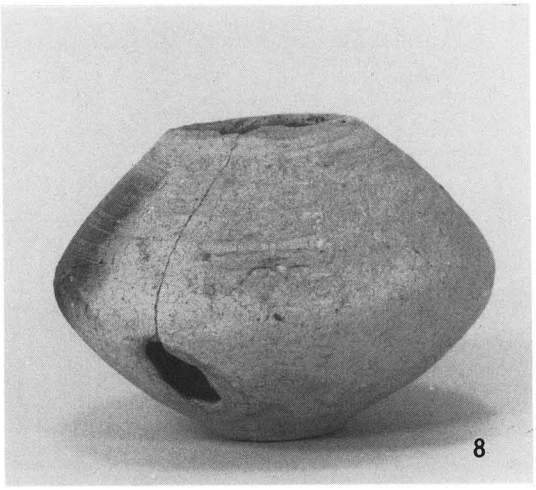
中条小学校遺跡（89－1） 東半（西より）

中条小学校遺跡（89－1） 西半（北より）

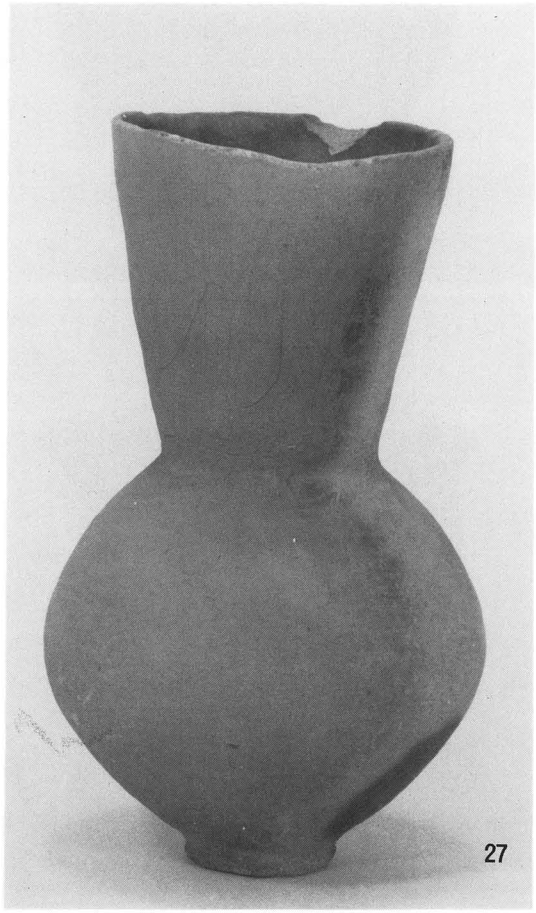


東奈良遺跡（89－1）H・N　C－3－K・G地区　全景（南より）

東奈良遺跡（89－1）H・N　C－3－K・G地区　木棺－Ⅰ

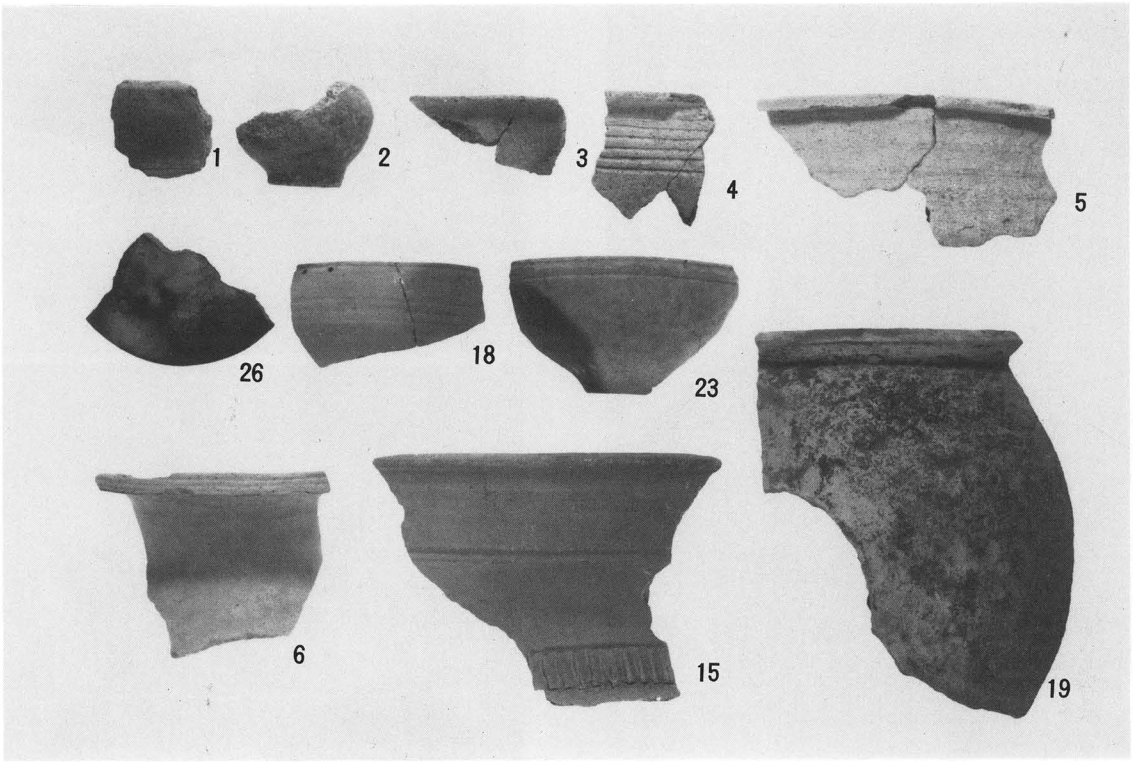


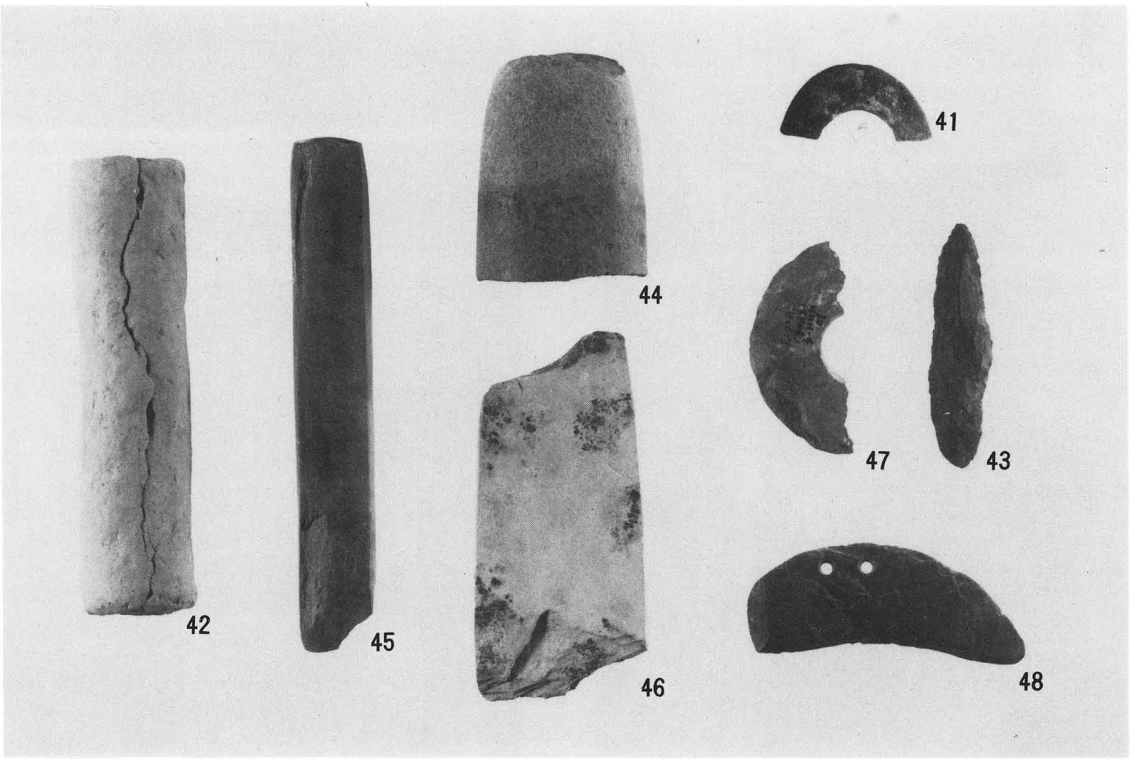
東奈良遺跡（88－5）H・N　H－4－E・F地区　出土の土器



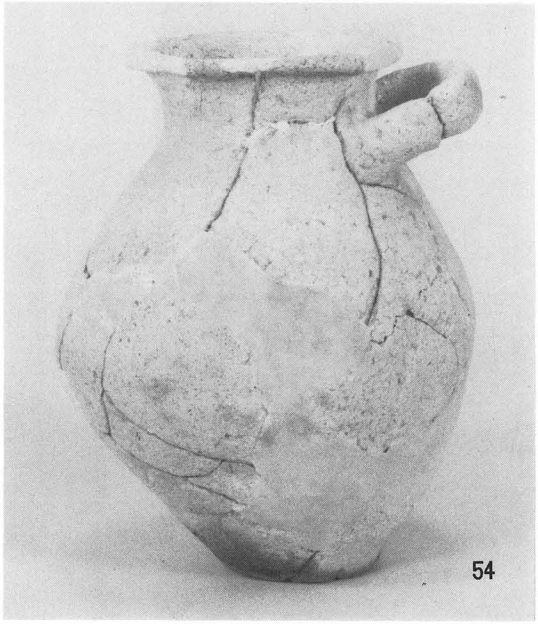
東奈良遺跡（88－5）H・N　H－4－E・F地区　出土の土器

東奈良遺跡（88－5）H・N　H－4－E・F地区　出土の土器



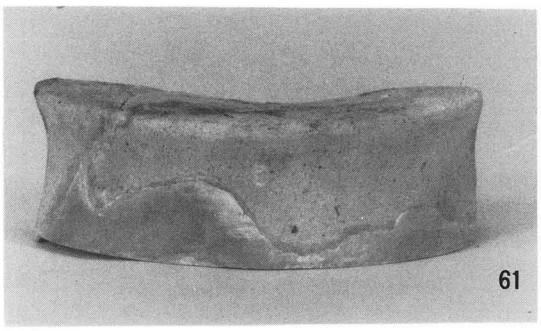


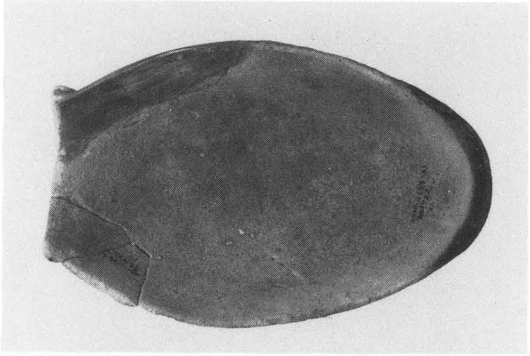
東奈良遺跡（88－5）H・N　H－4－E・F地区　出土の土器・石器・土製品

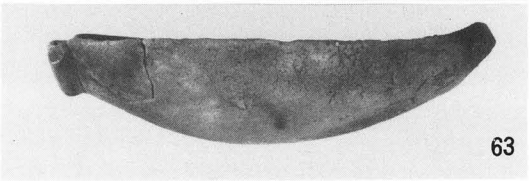


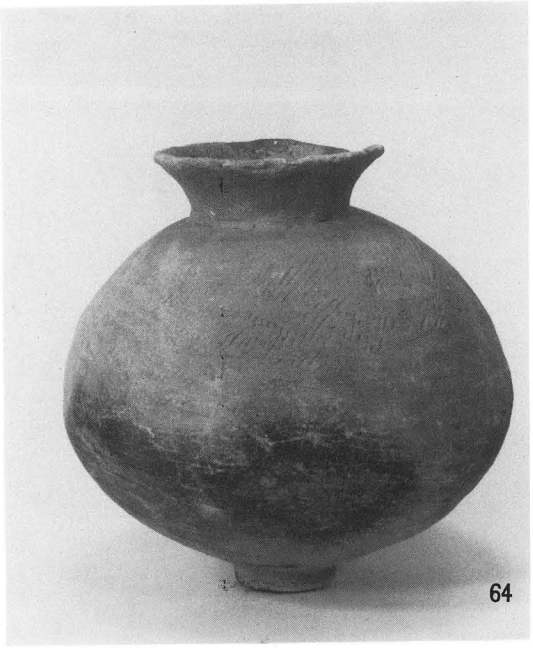
東奈良遺跡（88－6）H・N　H－4－M・N地区　出土の土器

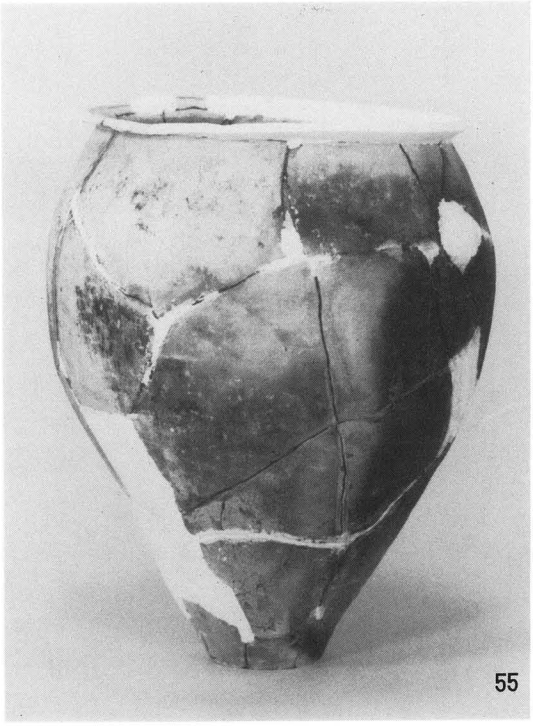
62

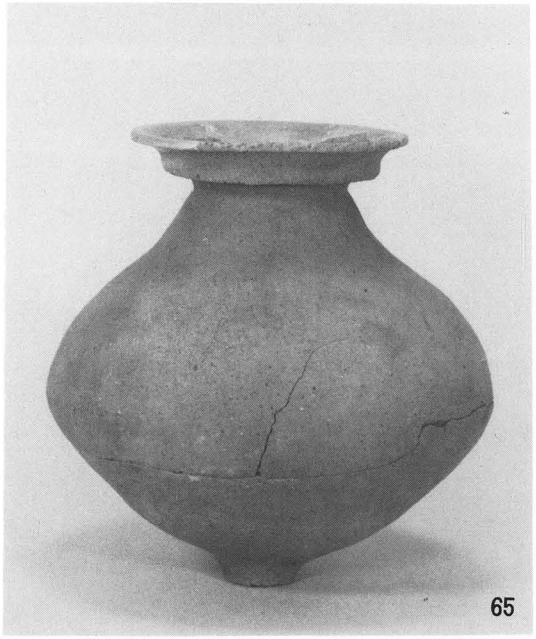

61




63

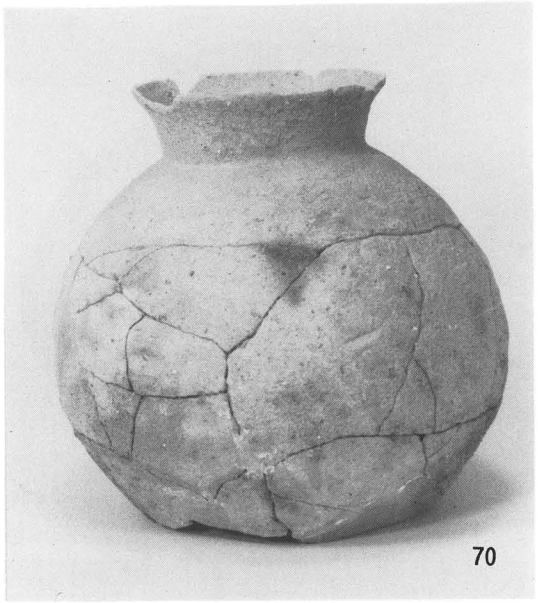

64

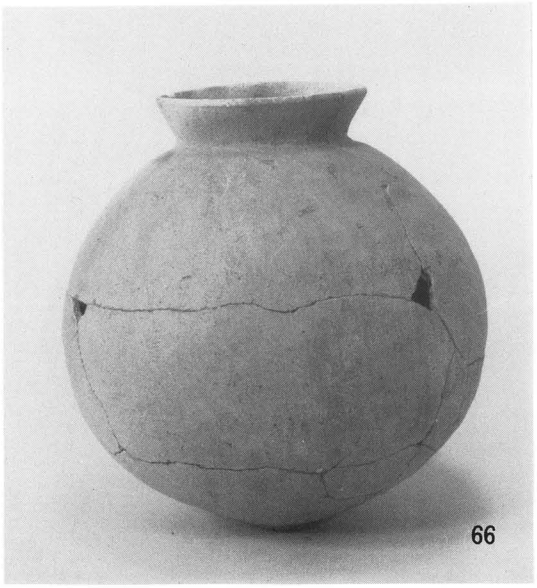

55


65

東奈良遺跡（88－6）H・N　H－4－M・N地区　出土の土器

図版一六

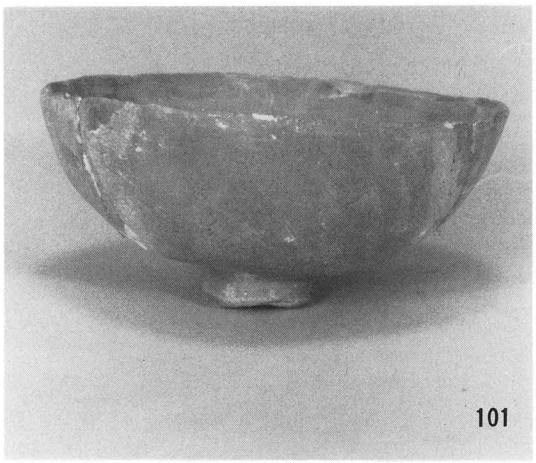




東奈良遺跡（88－6）H・N　H－4－M・N地区　出土の土器

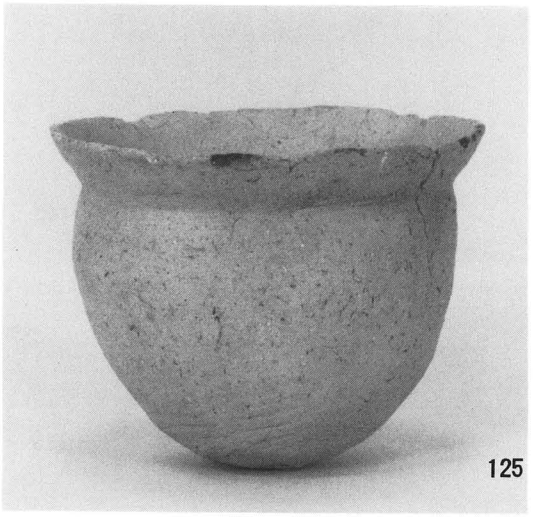
東奈良遺跡（88－6）H・N　H－4－M・N地区　出土の土器

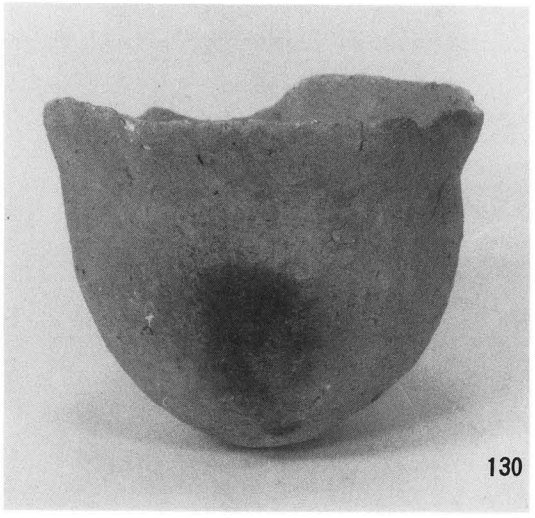
東奈良遺跡（88－6）H・N　H－4－M・N地区　出土の土器



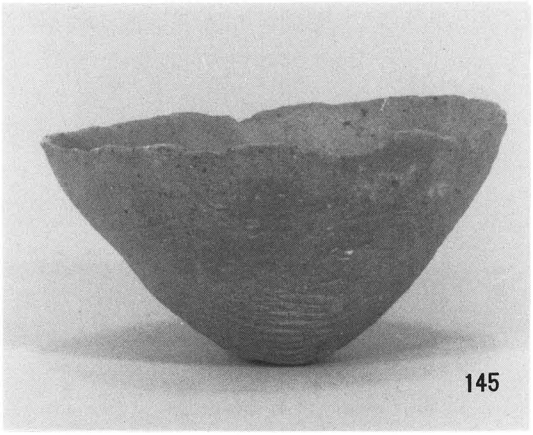
東奈良遺跡（88－6）H・N　H－4－M・N地区　出土の土器

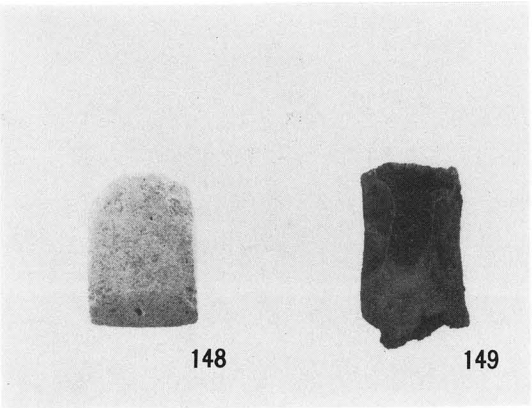
東奈良遺跡（88－6）H・N　H－4－M・N地区　出土の土器

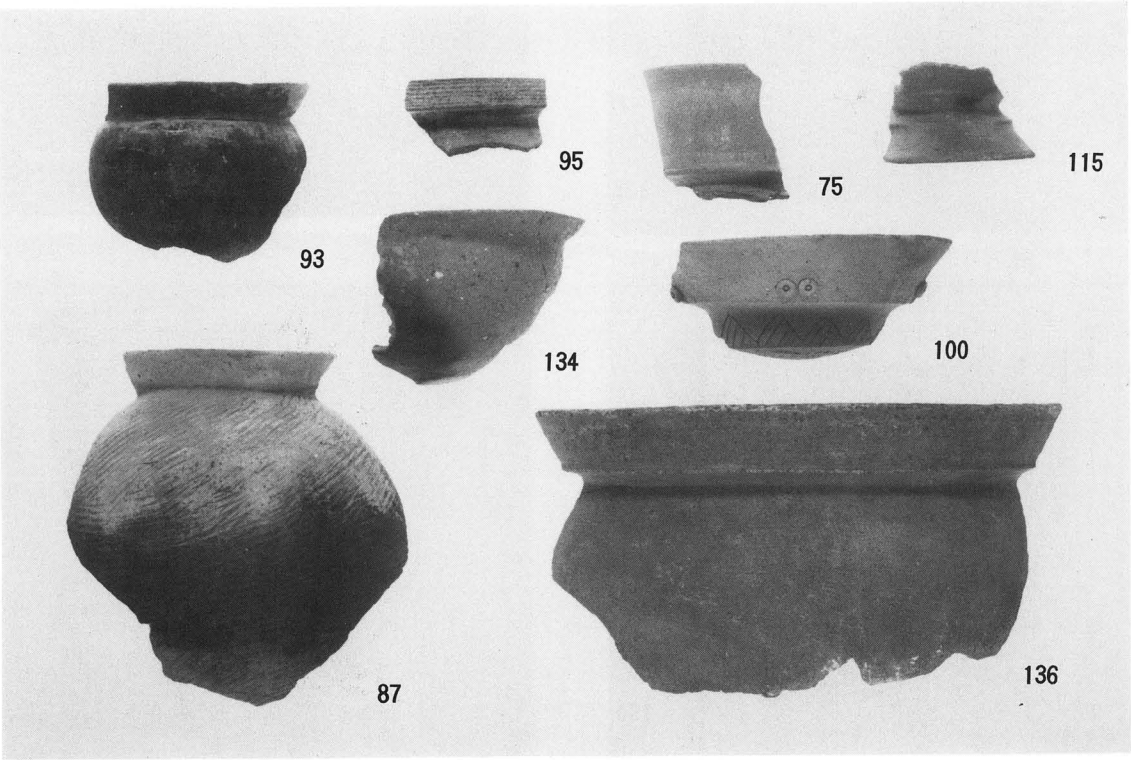




東奈良遺跡（88－6）H・N　H－4－M・N地区　出土の土器







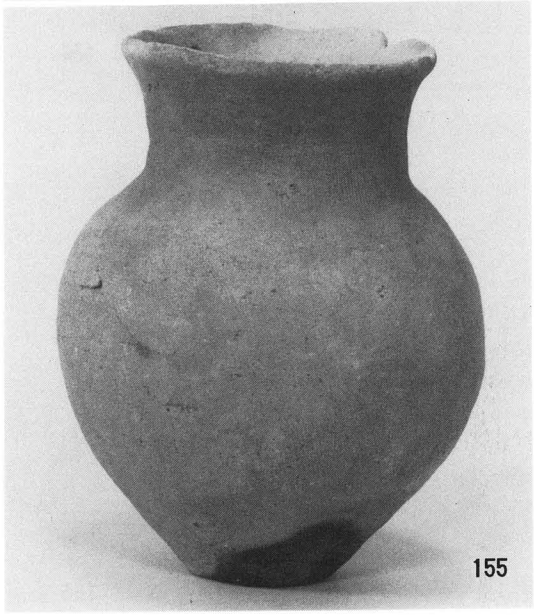
東奈良遺跡（88－6）H・N　H－4－M・N地区　出土の土器・石器・鉄器

図版二三

150

153

152

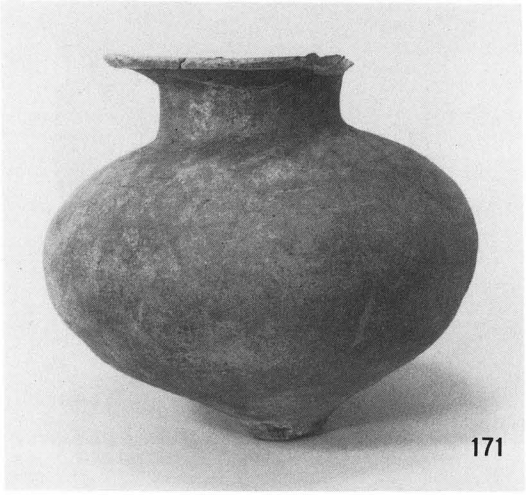

155

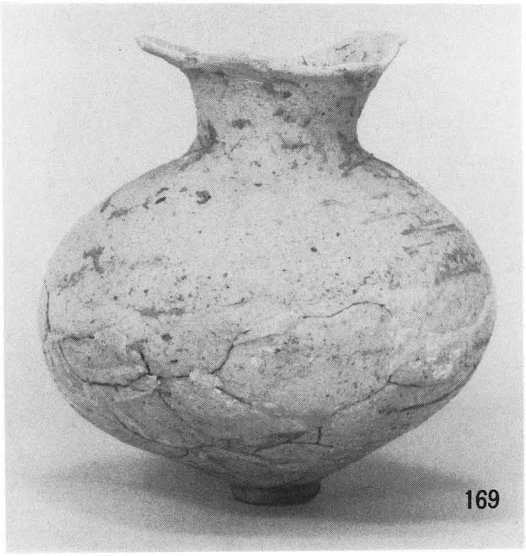
156

154

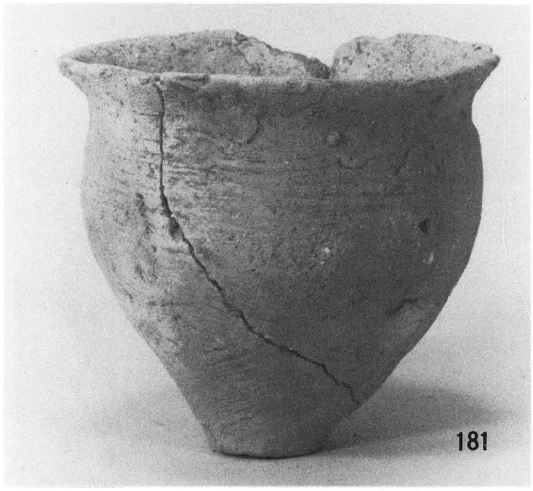
東奈良遺跡（88-10）H・N　H-4-A・B地区　出土の土器

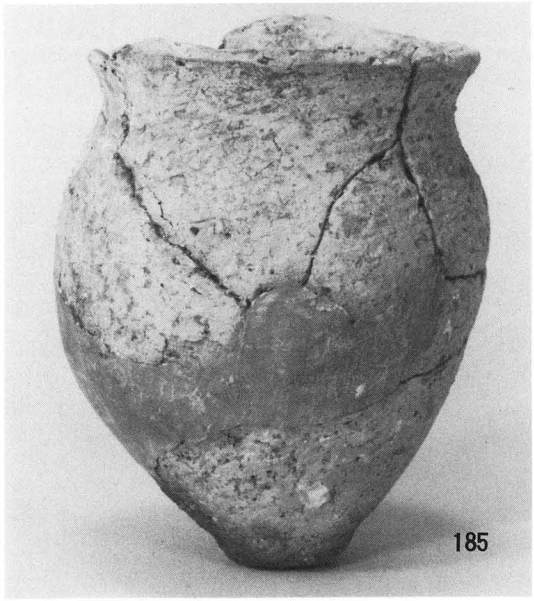
東奈良遺跡（88－10）H・N　H－4－A・B地区　出土の土器



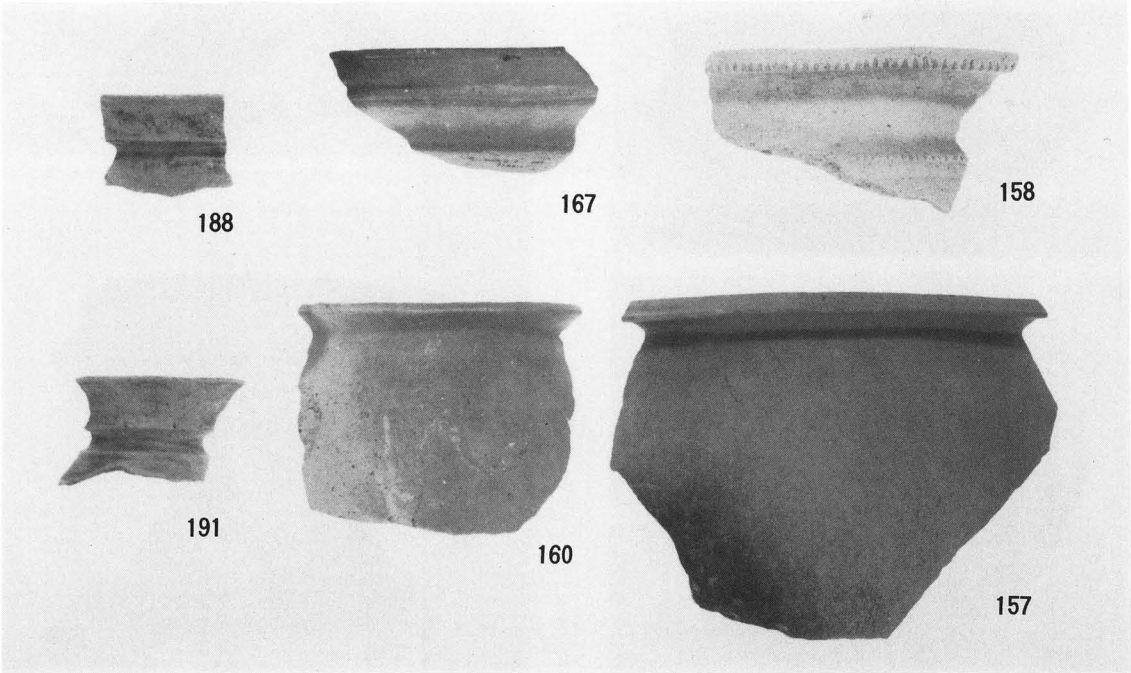


東奈良遺跡（88－10）H・N　H－4－A・B地区　出土の土器





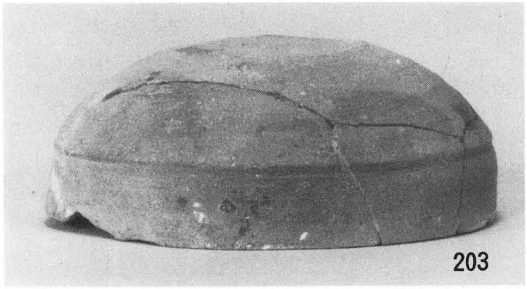
東奈良遺跡（88－10）H・N　H－4－A・B地区　出土の土器

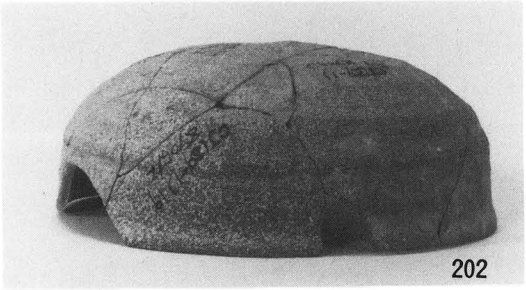


東奈良遺跡（88－10）H・N　H－4－A・B地区　出土の土器

図版二八

201

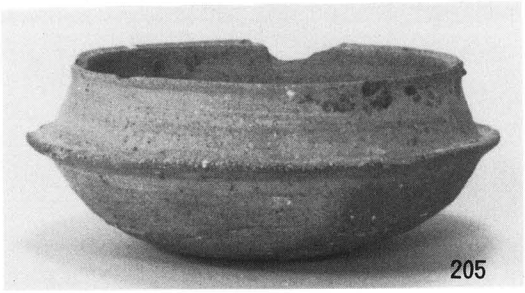

203


202

204

206

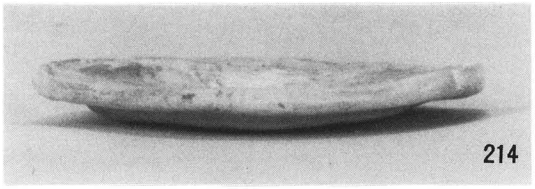
207

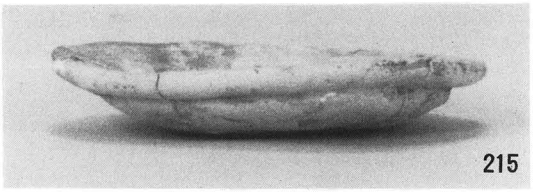

205

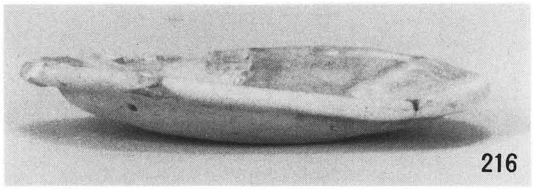
212

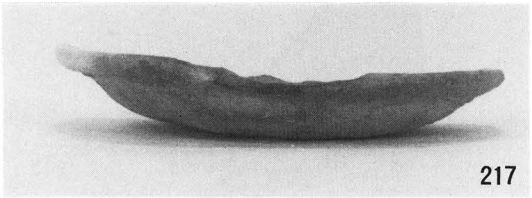
209

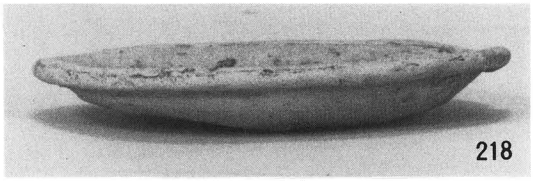
中条小学校遺跡（89－1） 出土の土器

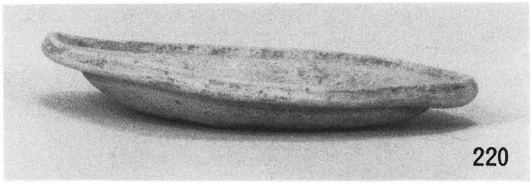

214

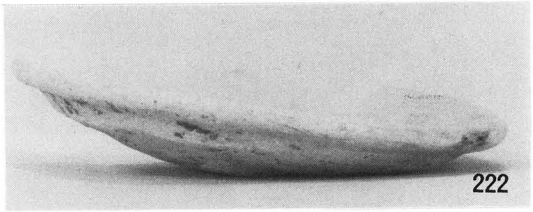

215

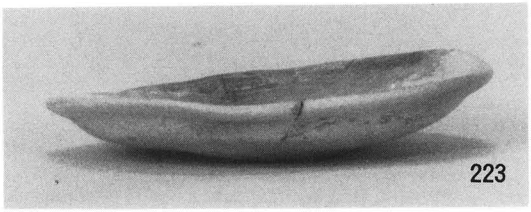

216

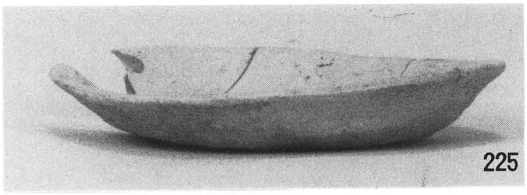

217


218

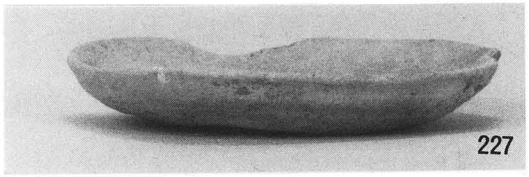

220


222


223


225

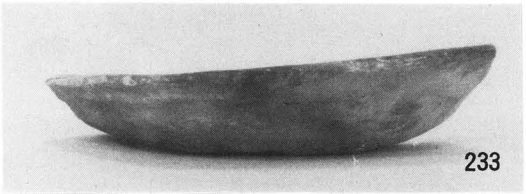
226

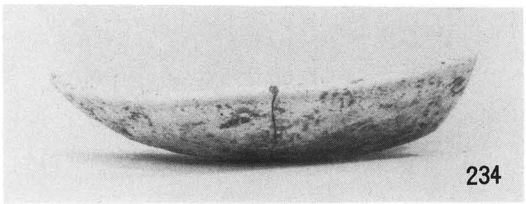

227

228

229

230


233


234

中条小学校遺跡（89－1） 出土の土器

236

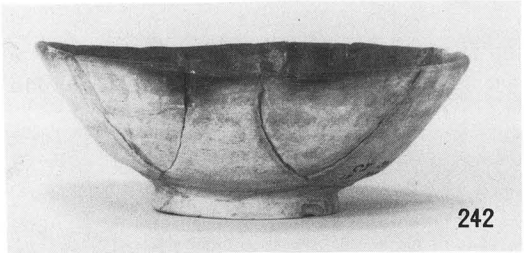
237

238

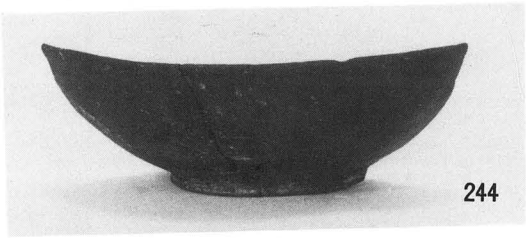
239

240

241


242

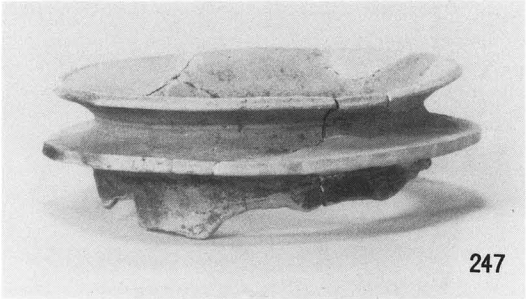
243


244

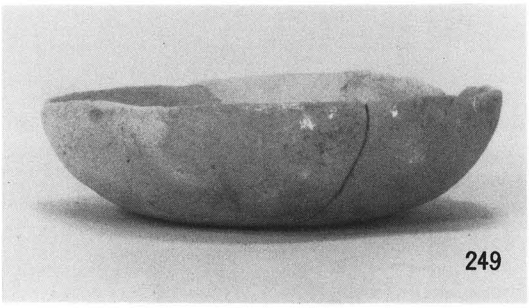
245

246

中条小学校遺跡（89－1） 出土の土器

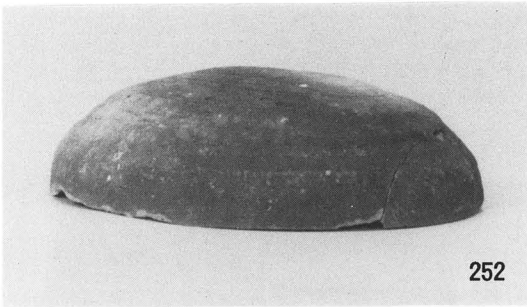

247

248

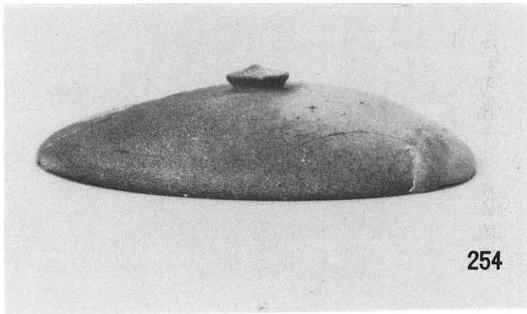

249

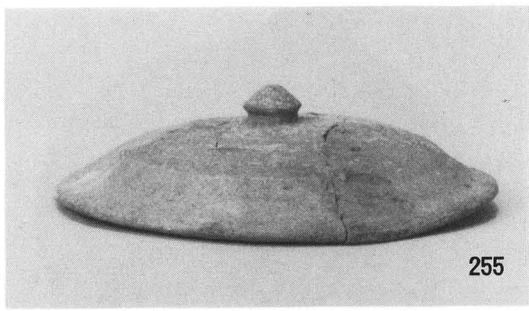
250

251


252

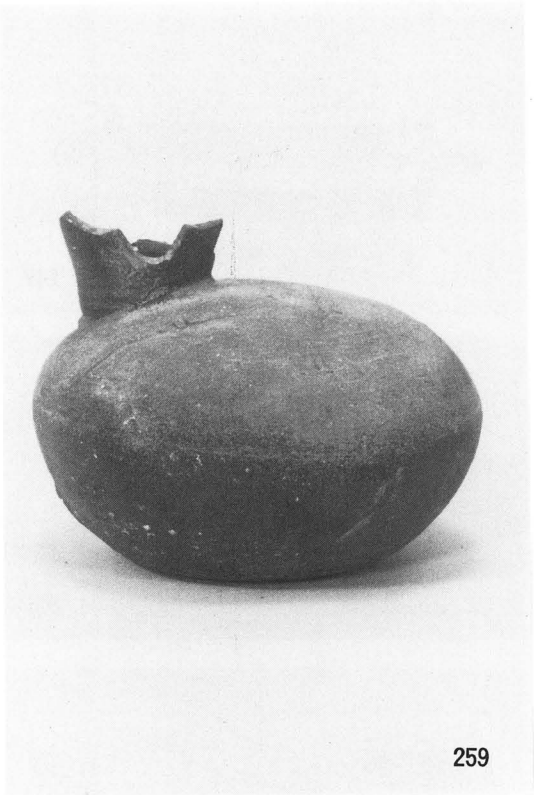
253

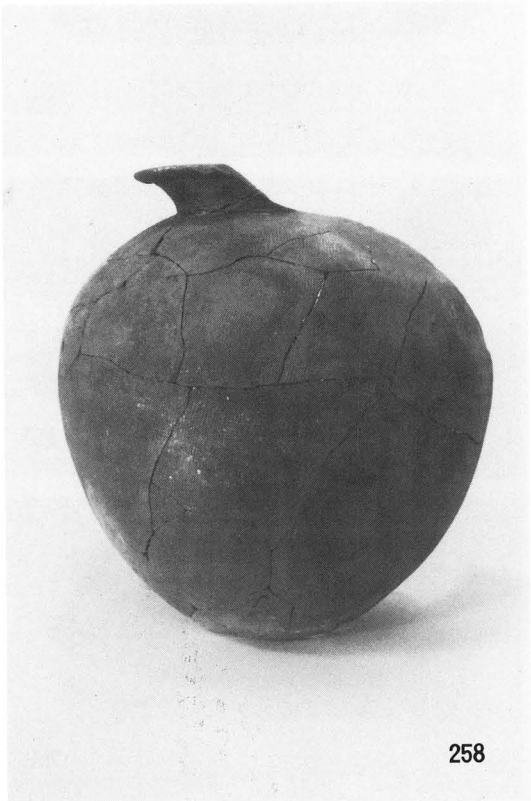

254

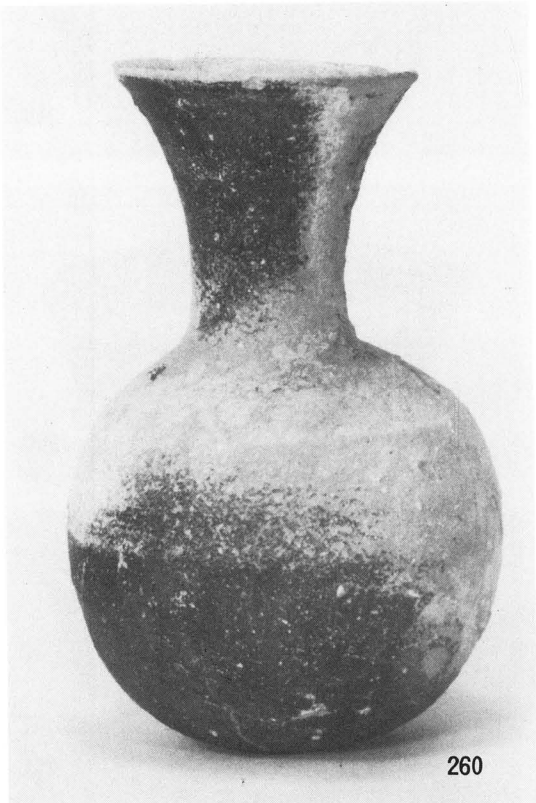

255

256

東奈良遺跡（89－1）H・N　C－3－K・G地区　出土の土器

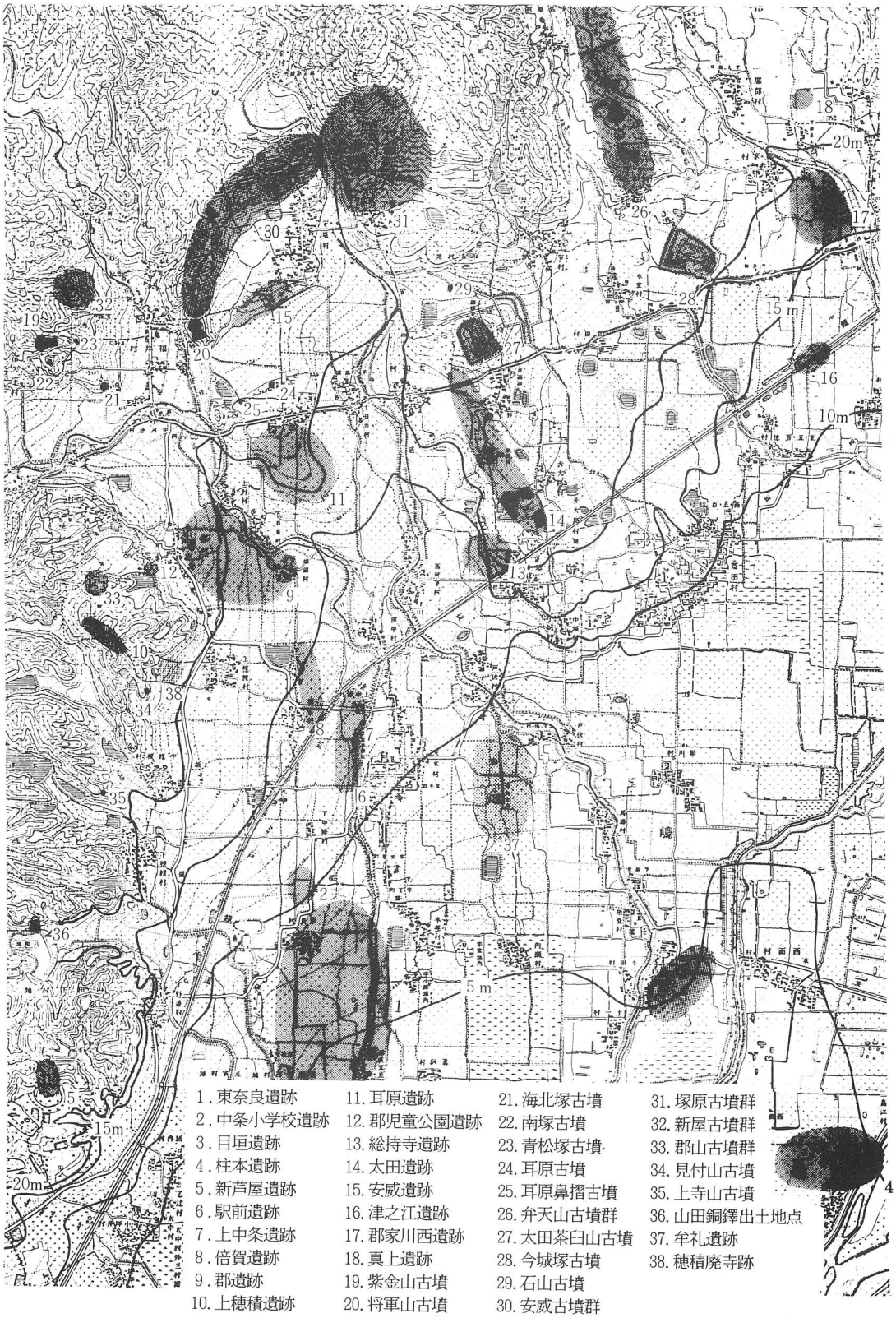






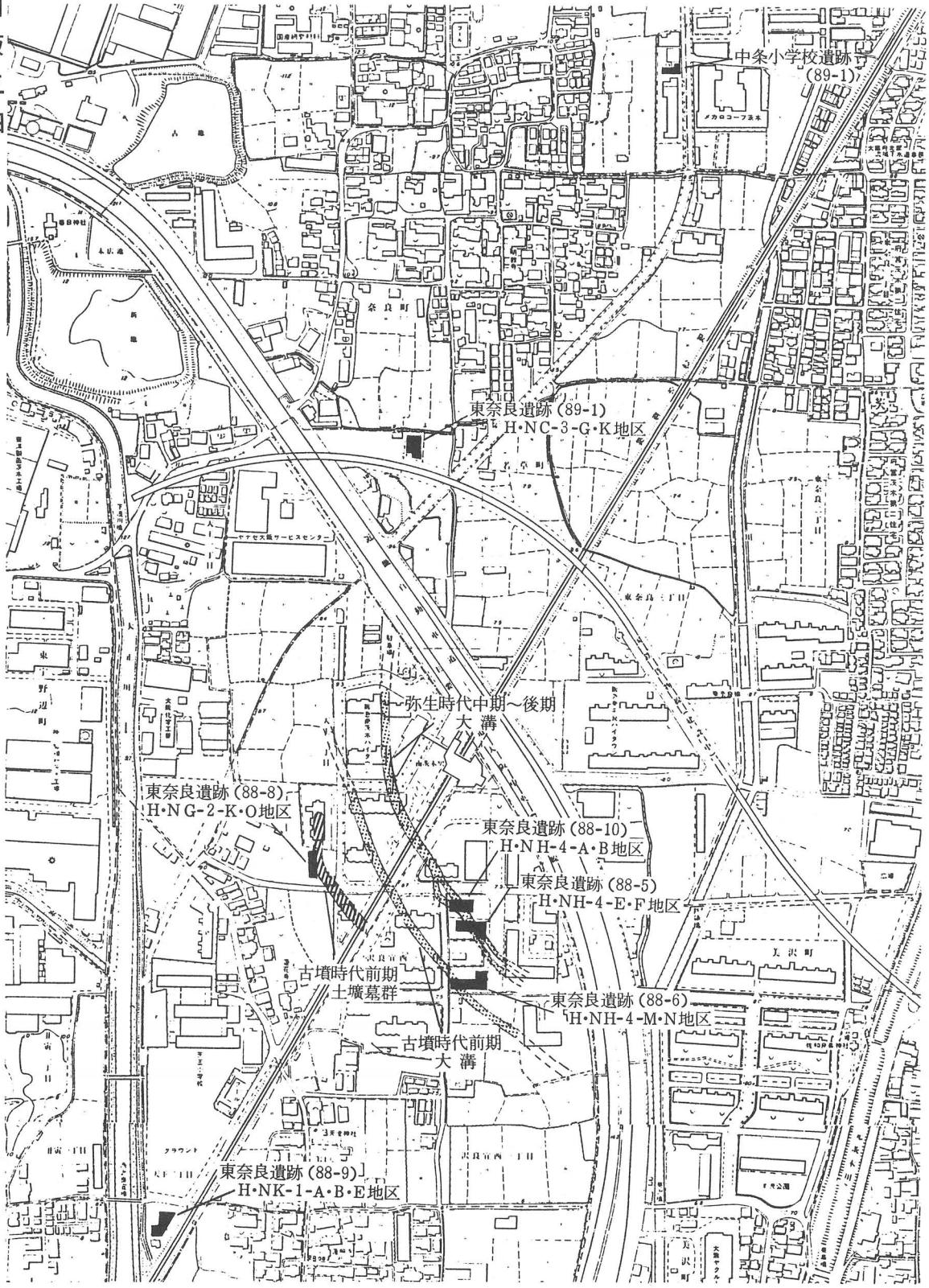
東奈良遺跡（89－1）H・N　C－3－K・G地区　出土の土器

図版三三


1. 東奈良遺跡
2. 中条小学校遺跡
3. 目垣遺跡
4. 柱本遺跡
5. 新芦屋遺跡
6. 駅前遺跡
7. 上中条遺跡
8. 倍賀遺跡
9. 郡遺跡
10. 上穂積遺跡
11. 耳原遺跡
12. 郡児童公園遺跡
13. 総持寺遺跡
14. 太田遺跡
15. 安威遺跡
16. 津之江遺跡
17. 郡家川西遺跡
18. 真上遺跡
19. 紫金山古墳
20. 将軍山古墳
21. 海北塚古墳
22. 南塚古墳
23. 青松塚古墳
24. 耳原古墳
25. 耳原鼻摺古墳
26. 弁天山古墳群
27. 太田茶臼山古墳
28. 今城塚古墳
29. 石山古墳
30. 安威古墳群
31. 塚原古墳群
32. 新屋古墳群
33. 郡山古墳群
34. 見付山古墳
35. 上寺山古墳
36. 山田銅鐸出土地点
37. 牟礼遺跡
38. 穂積廃寺跡
20m
15m
10m
5m
0 500 1,000 2,000m

茨木市の遺跡

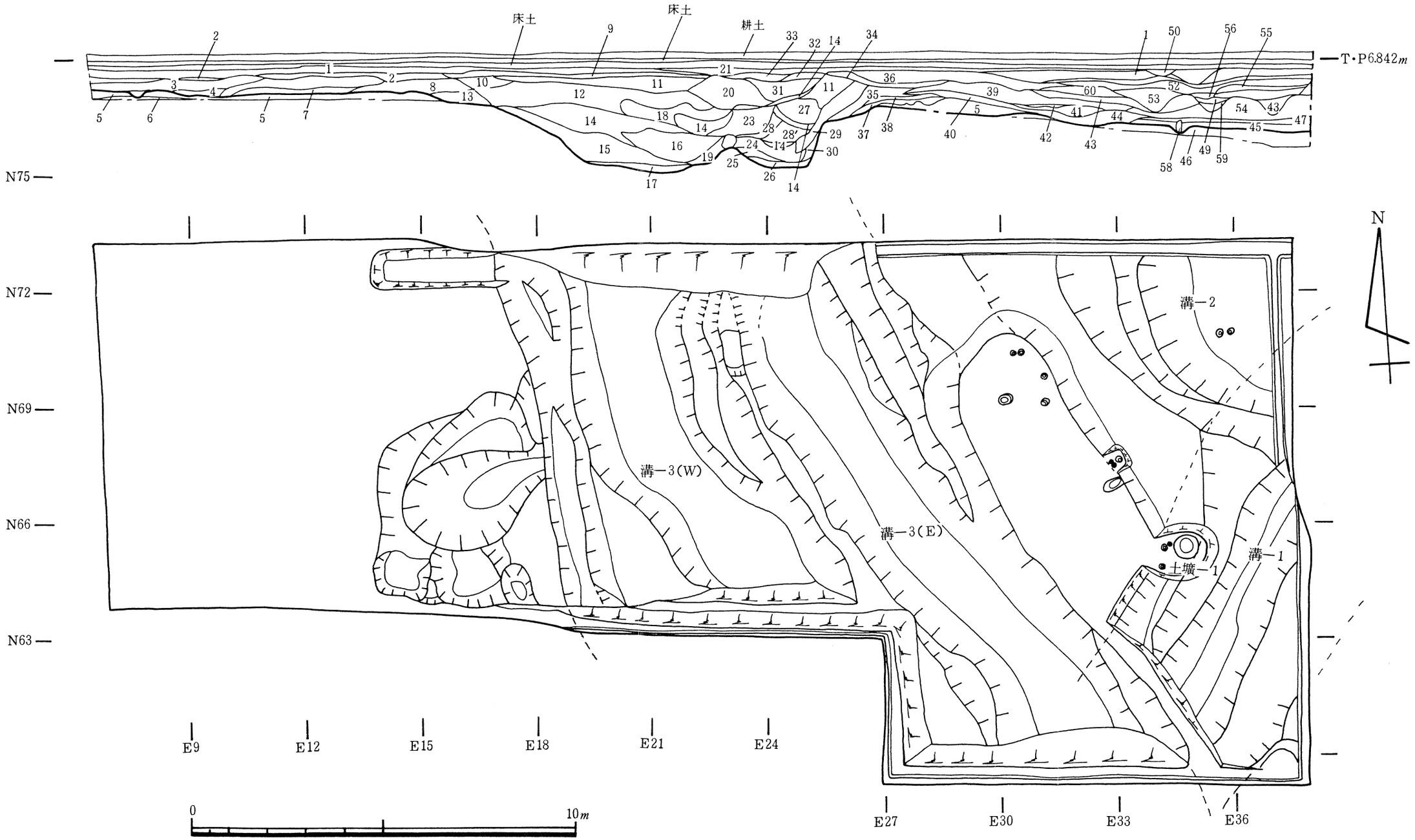
図版三四



0　500m

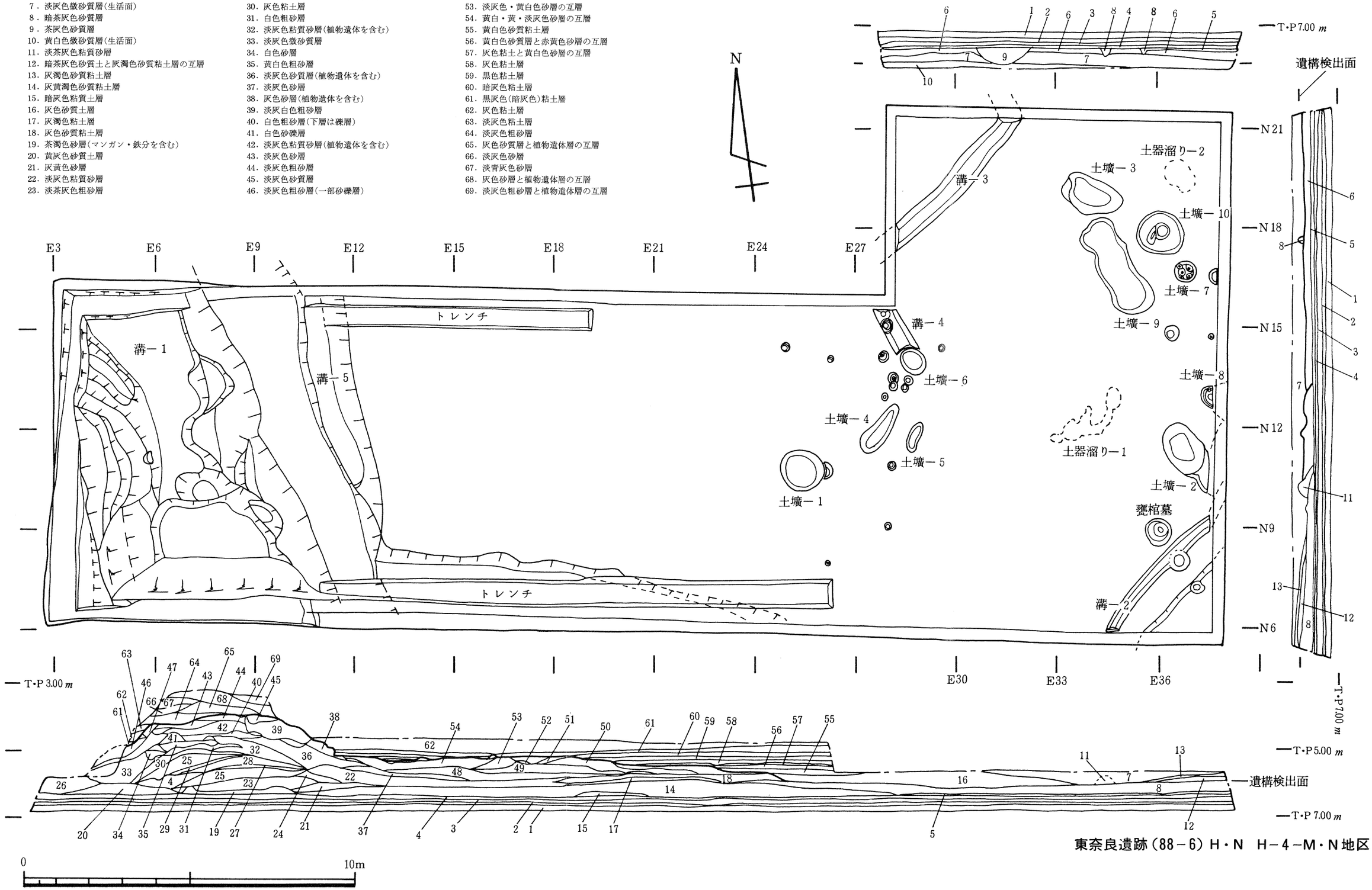
各調査地区位置図

1．淡茶灰色砂質土層
2．赤黄色砂質層
2'．赤黄色粗砂質層
3．淡灰白色砂質層
4．青灰色粘質土層
5．淡青緑色粘土層(地山)
6．淡灰色砂層
7．淡灰色砂質層
8．淡赤灰色粗砂層
9．赤黄色粘土層
10．灰色砂質層
11．淡灰色粘質土層
12．淡灰色砂質層(シルト)
13．淡灰色粘質砂層
14．淡灰色砂土と植物遺体層の互層
15．淡灰色砂層(下層積粗砂層)
16．淡灰色砂層
17．灰色粗砂層
18．淡灰色微砂土と青灰色微砂土の互層
19．赤黄色粗砂層
20．茶灰色砂質層(暗灰色が混る)
21．黄白色粘質土層
22．青灰色砂質層
23．青黄灰色粗砂層
24．黄白色粗砂層
25．暗灰色粘土と灰色粗砂の互層
26．淡灰色粗砂層
27．灰白色砂層
28．赤黄色砂土と植物遺体の互層
28'．赤黄色砂層
29．青灰色砂質層
30．暗灰色砂質層(植物遺体を含む)
31．淡灰色砂層
32．赤茶色砂質層
33．黄灰色粘質土層
34．赤黄色砂質層
35．灰濁色砂質層
36．茶褐色砂質層
37．茶白色粗砂層
38．青灰色砂質層
39．黄白色粗砂層
40．淡灰色粗砂層
41．黒灰色粘質土層
42．灰色砂礫層
43．灰濁色砂質層
44．赤灰色砂礫層
45．黒色粘土層
46．灰色粘土層(地山)
47．灰色粘質土層
48．灰色砂質粘土層
49．灰色粘土層
50．茶色砂層
51．赤黄色砂質土層
52．淡青灰色砂質層
53．淡灰濁色砂質層
54．淡灰青色砂質層
55．淡青灰色粘質土層
56．灰白色砂層
57．灰濁色粘質土層
58．灰色砂層(ブロック)
59．黒色粘土層
60．淡灰色砂質層

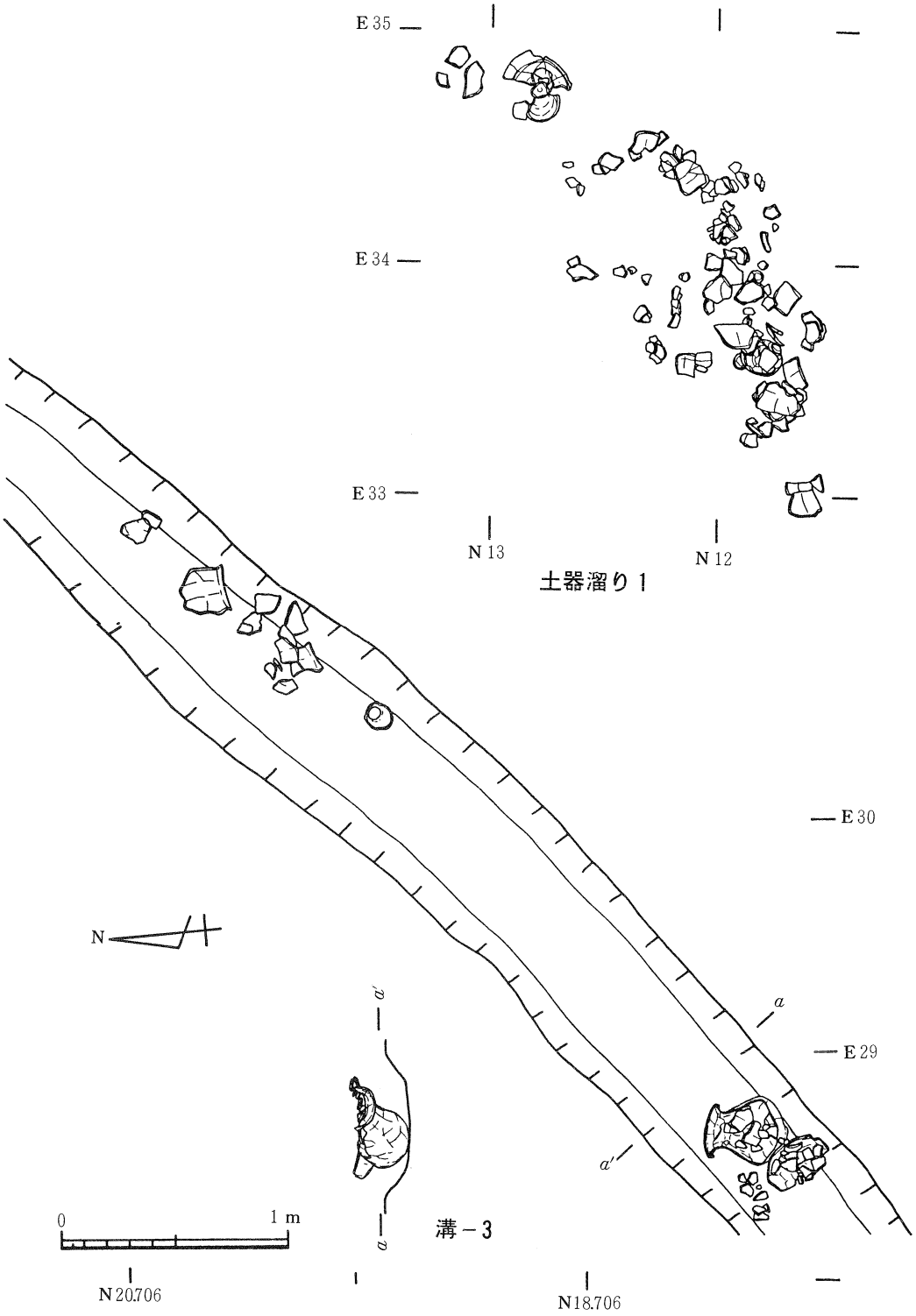


東奈良遺跡(88－5) H・N　H－4－E・F地区

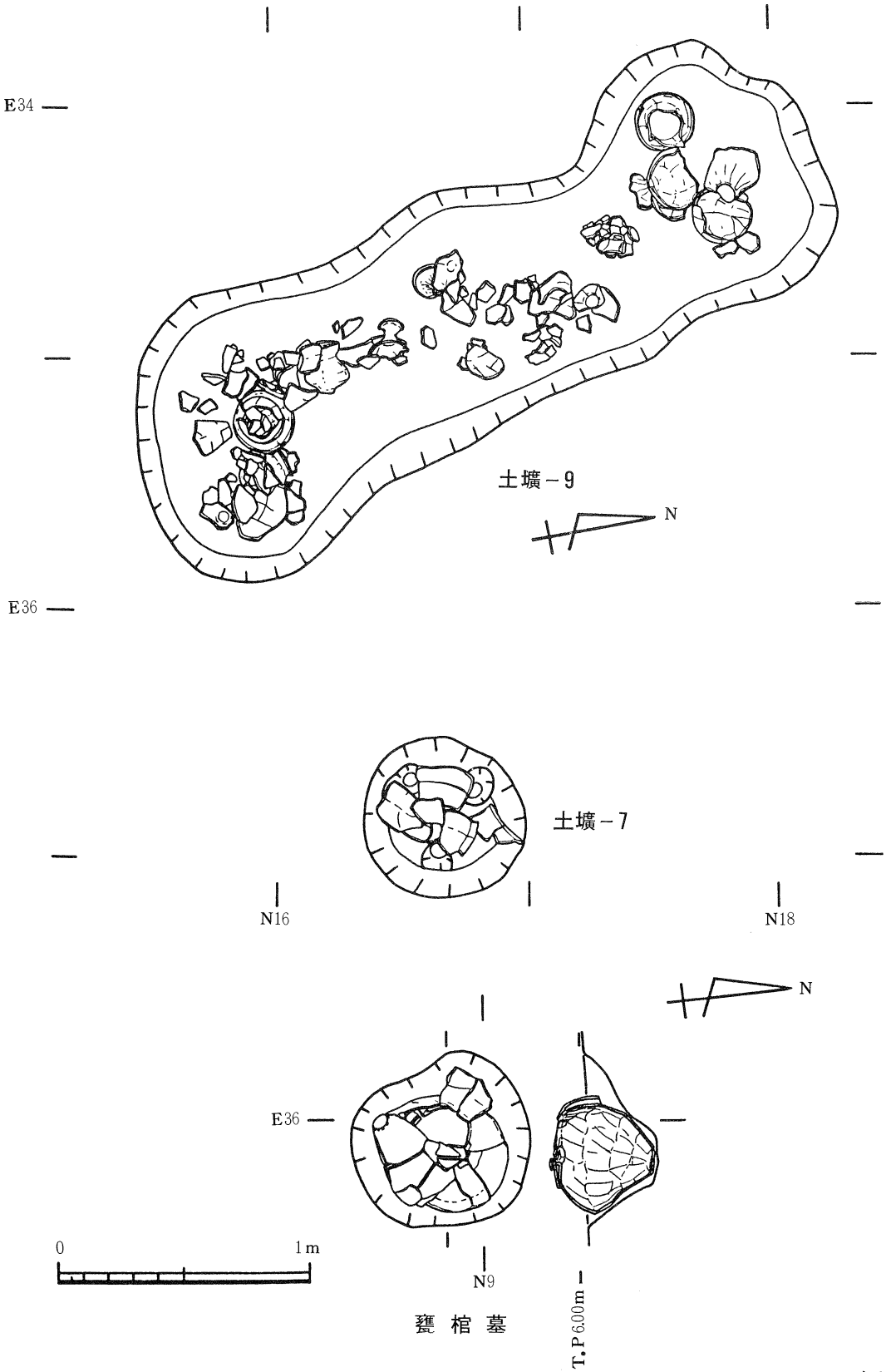
1．耕土
2．灰色砂質層（マンガン・鉄分を含む）
3．淡灰黄色砂質層
4．淡灰色粘質砂層
5．灰黄色砂質層
6．淡茶灰色砂質層（包含層）
7．淡灰色微砂質層（生活面）
8．暗茶灰色砂質層
9．茶灰色砂質層
10．黄白色微砂質層（生活面）
11．淡茶灰色粘質砂層
12．暗茶灰色砂質土と灰濁色砂質粘土層の互層
13．灰濁色砂質粘土層
14．灰黄濁色砂質粘土層
15．暗灰色粘質土層
16．灰色砂質土層
17．灰濁色粘土層
18．灰色砂質粘土層
19．茶濁色砂層（マンガン・鉄分を含む）
20．黄灰色砂質土層
21．灰黄色砂層
22．淡灰色粘質砂層
23．淡茶灰色粗砂層
24．淡灰色砂層
25．淡黄白色粗砂層
26．茶灰色砂質粘土層
27．灰色粘質植物遺体層
28．白色・淡黄白色・淡灰色粗砂層の互層
29．淡灰色砂質層（植物遺体を含む）
30．灰色粘土層
31．白色粗砂層
32．淡灰色粘質砂層（植物遺体を含む）
33．淡灰色微砂質層
34．白色砂層
35．黄白色粗砂層
36．淡灰色砂質層（植物遺体を含む）
37．淡灰色砂層
38．灰色砂層（植物遺体を含む）
39．淡灰白色粗砂層
40．白色粗砂層（下層は礫層）
41．白色砂礫層
42．淡灰色粘質砂層（植物遺体を含む）
43．淡灰色砂層
44．淡灰色粗砂層
45．淡灰色砂質層
46．淡灰色粗砂層（一部砂礫層）
47．灰色粘土と白色粗砂層の互層
48．淡灰色・黄白色砂層の互層
49．淡灰色粘質土層
50．赤黄色・黄白色砂層の互層
51．淡灰色微砂層
52．淡黄白色砂層
53．淡灰色・黄白色砂層の互層
54．黄白・黄・淡灰色砂層の互層
55．黄白色砂質粘土層
56．黄白色砂質層と赤黄色砂層の互層
57．灰色粘土と黄白色砂層の互層
58．灰色粘土層
59．黒色粘土層
60．暗灰色粘土層
61．黒灰色（暗灰色）粘土層
62．灰色粘土層
63．淡灰色粘土層
64．淡灰色粗砂層
65．灰色砂質層と植物遺体層の互層
66．淡灰色砂層
67．淡青灰色砂層
68．灰色砂層と植物遺体層の互層
69．淡灰色粗砂層と植物遺体層の互層



東奈良遺跡（88－6）H・N　H－4－M・N地区



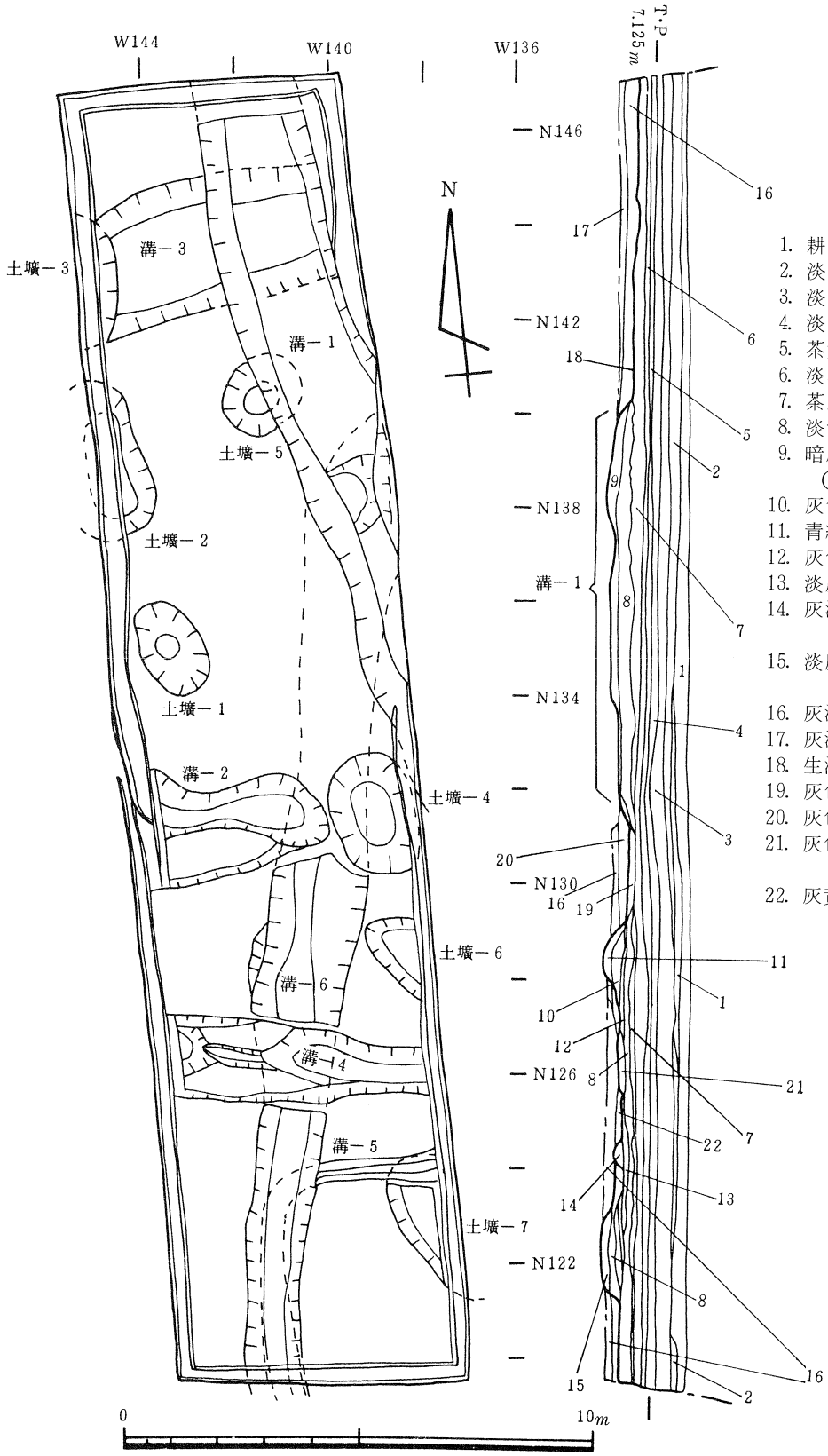
東奈良遺跡（88－6）H・N　H－4－M・N地区 溝－3、土器溜り1



甕棺墓

東奈良遺跡（88－6）H・N　H－4－M・N地区 土壙－7・9、甕棺墓

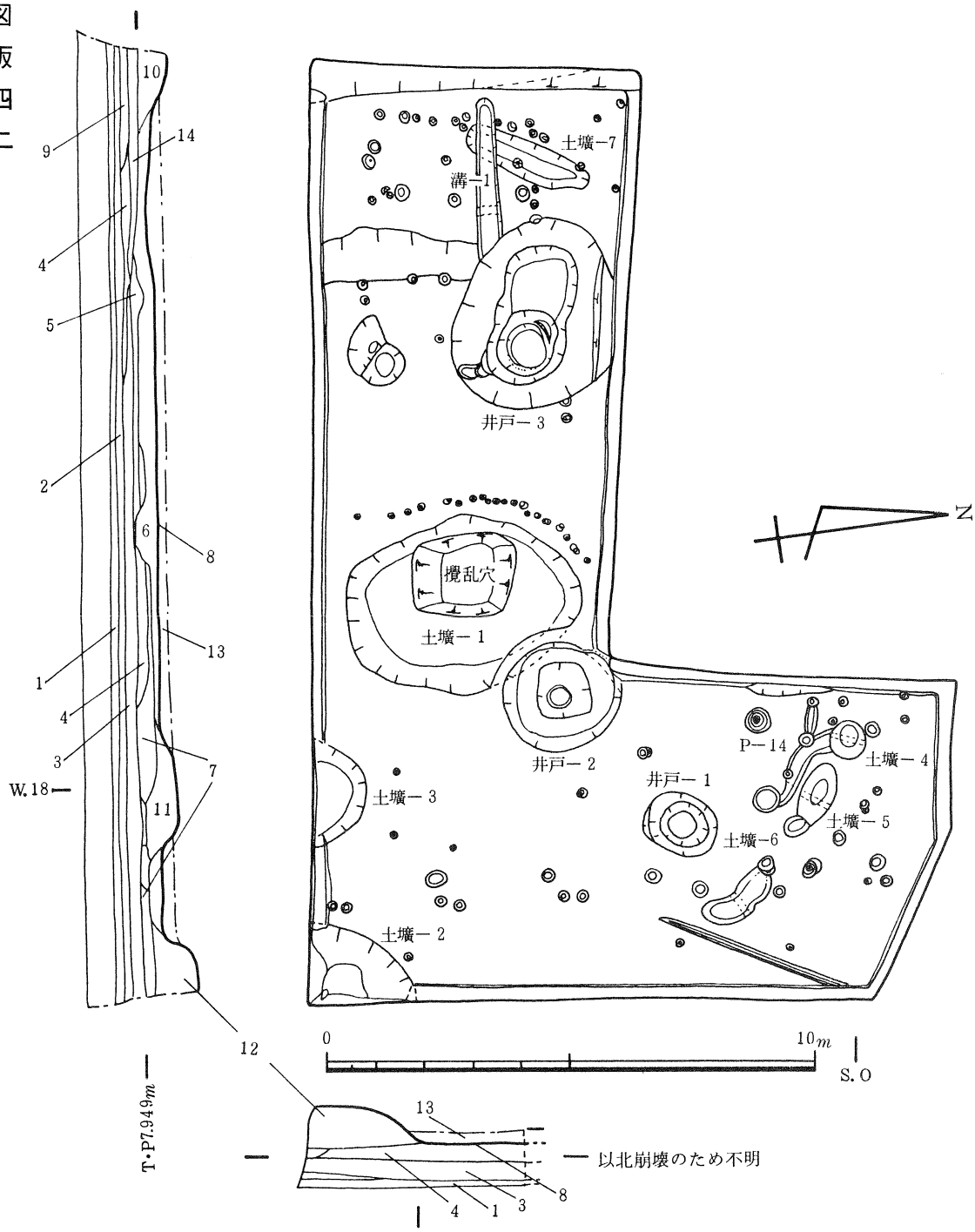
図版四一



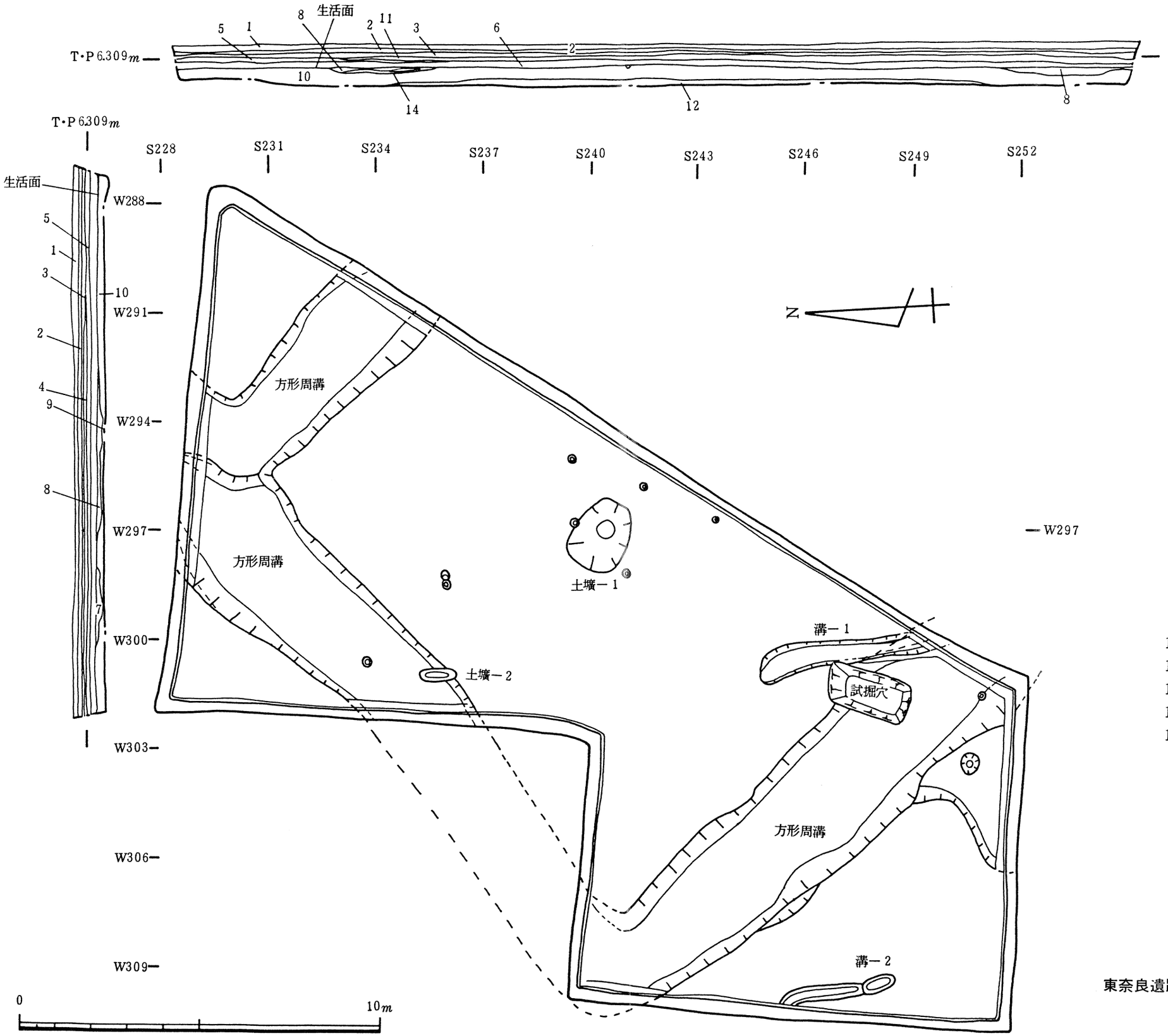
1. 耕土
2. 淡灰色砂質層
3. 淡青灰色粘質土層
4. 淡青灰色砂質層
5. 茶黄色砂質層
6. 淡茶灰色粘質砂層
7. 茶灰色粘質土層
8. 淡青緑色粘土層
9. 暗灰色粘土層（炭火物を含む）
10. 灰色粘土層
11. 青緑色粘土層
12. 灰色砂層
13. 淡灰白色砂質層
14. 灰濁色粘質土層（溝－5）
15. 淡灰色粘土層（土壙－7）
16. 灰濁色粘質土層
17. 灰濁色粘質砂層
18. 生活面
19. 灰色砂質粘土層
20. 灰色砂質層
21. 灰色砂層（溝－4）
22. 灰黄濁色砂質粘土層

東奈良遺跡（88－8）H・N　G－2－K・O地区

図版四二

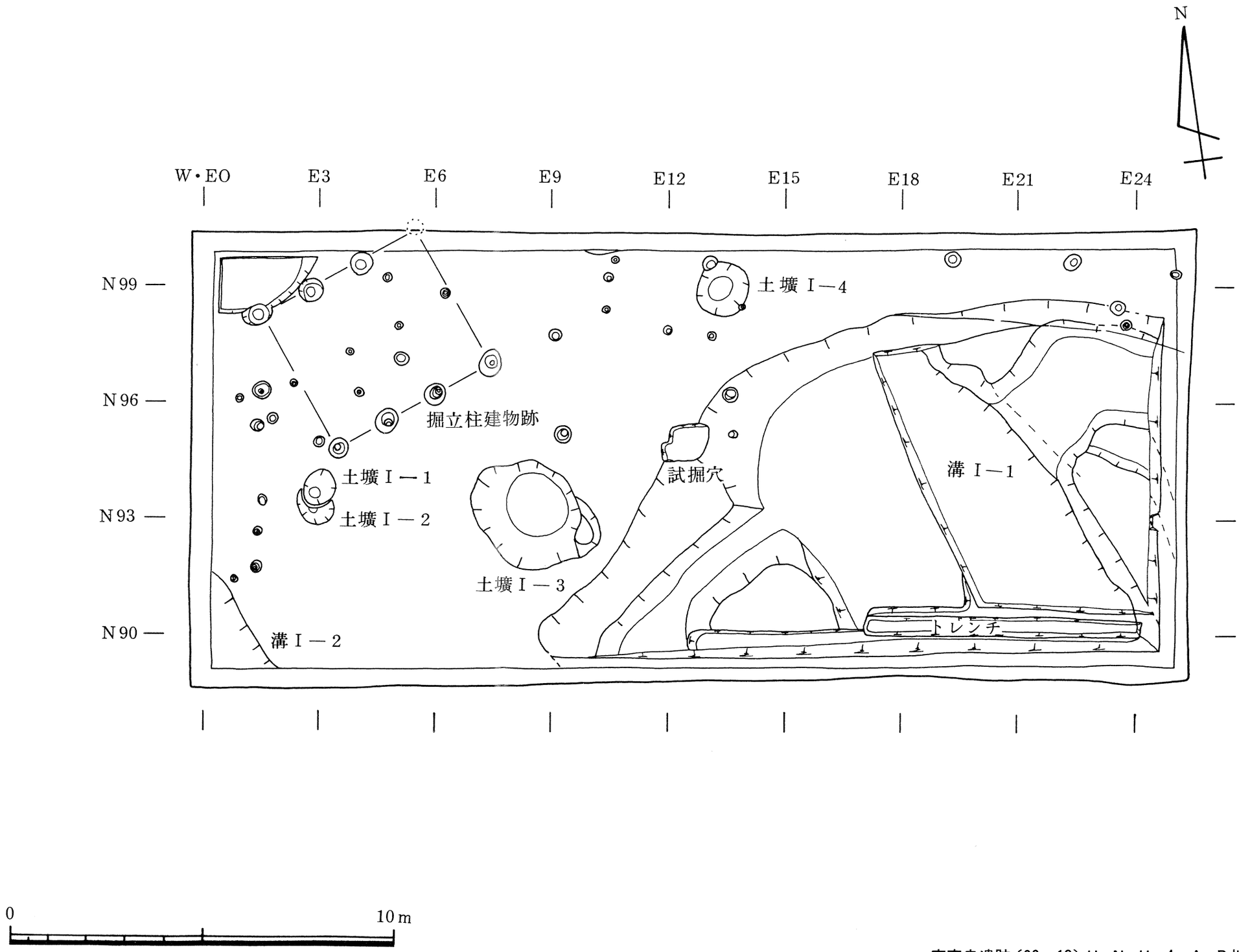


1. 耕土
2. 淡青灰色砂質土層
3. 淡茶灰色粘質土層
4. 茶灰色砂質層
（一部粘質土層）
5. 暗茶褐色土層
6. 淡茶灰色粘質土層
7. 灰色粘土層
8. 生活面
9. 淡茶灰色砂層
10. 灰色粘質土層
11. 暗灰色粘土層
12. 黒色粘土層
13. 黄白色粘土層
14. 灰色砂質層

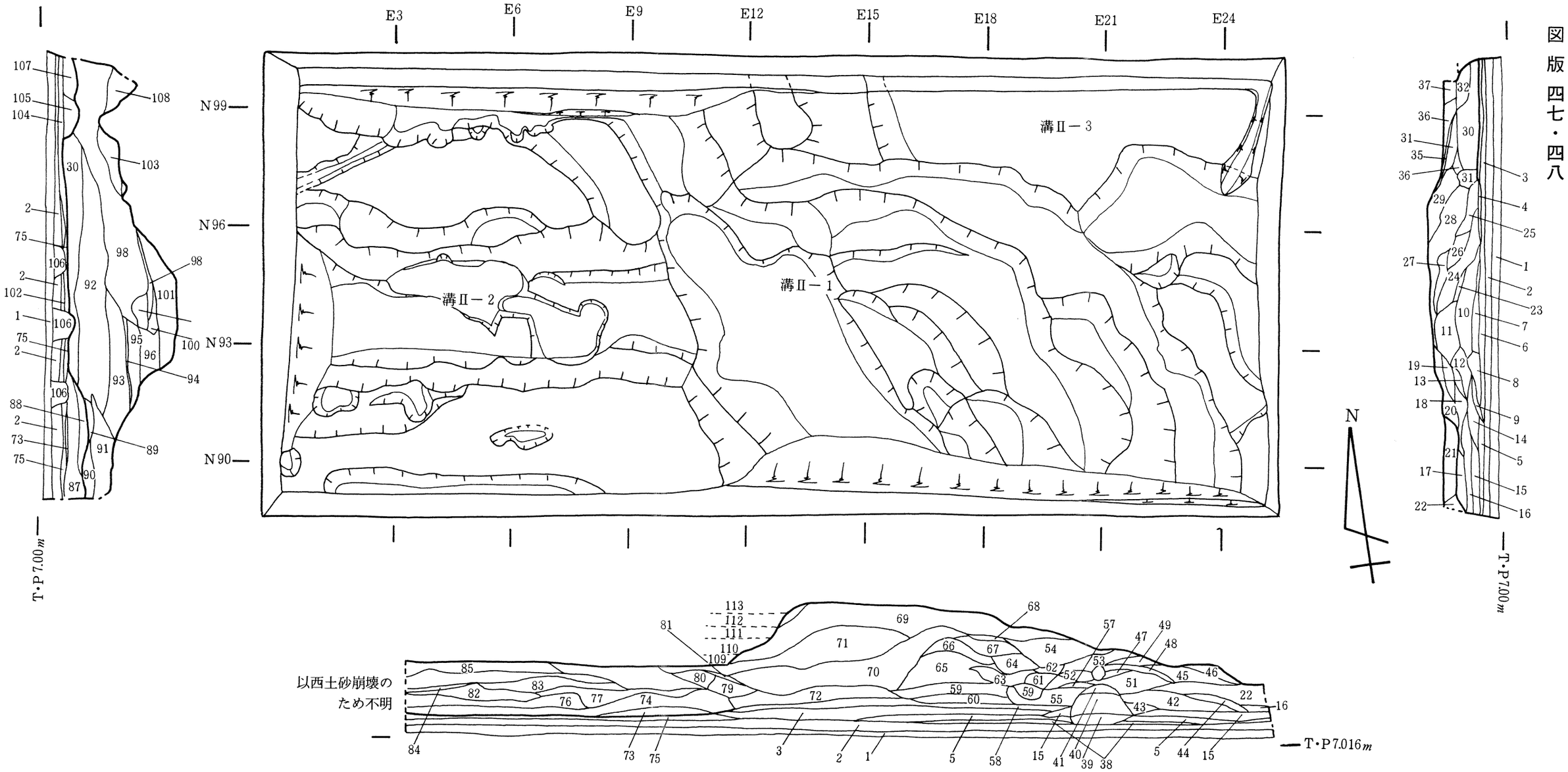


1. 耕土
2. 茶灰色砂質層
3. 淡茶灰色砂質層
4. 淡黄灰色粘質砂層(マンガンを含む)
5. 淡灰色粘質土層 } わずかに古代～中世の遺物を含む
6. 淡茶灰色粘質土層
7. 灰黄色粘質土層
8. 茶灰色粘質土層
   (下層は灰黄色粘質土層)
9. 茶灰色砂質粘土層
10. 黄色粘土層(一部黄色砂質粘土層)
11. 淡灰色砂質粘土層
12. 淡灰色砂質粘土層(一部砂質強し)
13. 茶褐色粘土層
14. 淡灰黄色粘土層

東奈良遺跡(88－9) H・N K－1－A・B・E地区

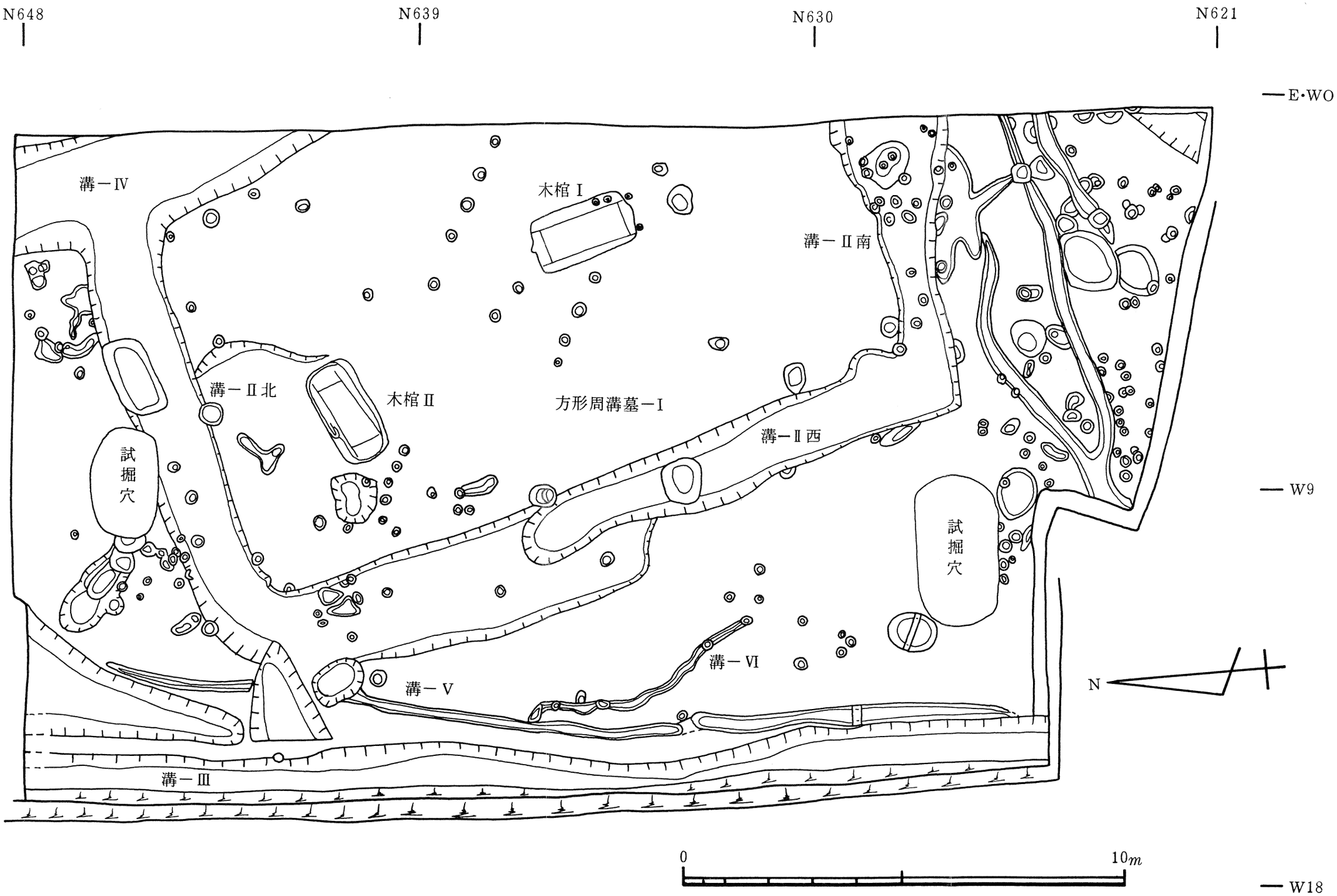


東奈良遺跡（88－10）H・N　H－4－A・B地区 第Ⅰ遺構面



1．耕土
2．灰黄色砂質土層(マンガンを含む)
3．茶灰色砂質層
4．赤茶色砂質層
5．淡茶灰色砂質層
6．淡茶灰色砂質層
7．淡茶灰色粗砂層
8．淡灰黄色砂質層
9．茶灰色砂質層
10．白濁色粗砂層
11．灰白色粗砂と砂層の互層
12．灰濁色砂質層(炭化物を含む)
13．暗灰色砂質層(　〃　)
14．茶灰色砂質層
15．淡灰茶色砂質層
16．黄灰色粘質砂層
17．灰色砂質層
18．淡灰色砂質層
19．淡灰青色砂質層
20．淡灰青色粗砂と粘質土の互層
21．淡青灰色粘質土層
22．淡黄灰色砂層
23．淡灰色粗砂と同砂の互層
24．暗灰色粗砂層(炭化物を含む)
25．淡灰色砂質層
26．淡灰濁色砂質層
27．暗灰色砂と赤黄色粗砂と植物遺体の互層
28．淡青灰色砂質層
29．灰濁色・赤黄色粗砂と植物遺体層の互層
30．白濁色微砂質層(生活面)
31．灰濁色砂質層
32．灰色砂質層
33．淡灰色砂質層(炭化物を含む)
34．　〃　(　〃　)
35．炭化物層
36．暗灰色砂質層
37．黄白色砂質層
38．淡茶灰色粘質土層
39．茶灰色粗砂層
40．白濁色・黄白色粗砂の互層
41．淡灰色粘質土と黄白色粗砂と植物遺体の互層
42．茶濁色粗砂層
43．茶灰色粗砂層
44．灰色砂質層
45．灰色砂と黄濁色砂と植物遺体の互層
46．黄白色・白濁色粗砂の互層
47．灰色砂層
48．白色粗砂層
49．白色砂層
50．青灰色粘土層(ブロック)
51．赤黄色粗砂層
52．淡灰色大粗砂層
53．灰色砂層(植物遺体・炭化物を含む)
54．灰色砂層
55．灰濁色砂質層(植物遺体・炭化物を含む)
56．灰色粗砂層
57．赤黄色砂質層
58．赤黄濁色粗砂層
59．淡灰色砂質層
60．淡灰色粘質砂層
61．灰色粘質砂層(植物遺体・炭化物を含む)
62．淡灰色砂層
63．赤黄白色砂層
64．灰色砂質層(植物遺体を含む)
65．灰色・黄白色砂と植物遺体の互層
66．白濁色粗砂と植物遺体の互層
67．灰色微砂層
68．白色粗砂層
69．淡灰色砂と同粗砂の互層
70．淡灰色微砂層
71．淡灰色微砂と同粘質土の互層
72．淡灰色砂層
73．白濁色粘土層
74．灰色粘質土層(炭化物を含む)
75．赤黄色粘質砂層
76．淡灰色砂質層(生活面)
77．赤黄色粗砂と植物遺体の互層
78．赤黄色・淡灰色粗砂の互層
79．淡灰色砂質層
80．赤黄色大粗砂層
81．灰色粘質砂層
82．淡灰色粘質砂層(植物遺体を含む)
83．赤黄色・白色砂の互層
84．赤黄色砂と植物遺体の互層
85．淡灰色大粗砂層
86．赤黄色・白色砂の互層
87．暗灰色砂質粘土層(炭化物を含む)
88．暗灰色粘質土層(炭化物を含む)
89．灰色砂質層
90．黄白色砂層
91．黄白色粗砂層
92．青灰色粘質砂層
93．赤黄色粗砂と白色砂の互層
94．炭化物層
95．白色大粗砂層
96．白濁色粗砂層
97．白濁色砂と植物遺体の互層
98．青灰色砂と淡灰色粘質土の互層
99．淡灰色砂と植物遺体の互層
100．淡灰色砂層
101．灰色粗砂層
102．茶灰色砂質層
103．白黄色・淡灰色砂の互層
104．赤茶色砂質層
105．赤白色砂と灰色粘土の互層
106．攪乱層
107．青灰色粘土と灰色砂の互層
108．白黄色粗砂層
109．黒色粘土層(地山)
110．淡灰色粘土層(地山)
111．黒色粘土層(地山)
112．淡灰色粘土層(地山)
113．淡青灰色砂質層(地山)

東奈良遺跡(88－10) H・N　H－4－A・B地区 第Ⅱ遺構面



東奈良遺跡(89−1) H・N C−3−K・G地区